

道路建設工事業における死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2020	3	10 ～ 12	道路改良工事において、矢板を打ち込んでいたが石にあたったため、矢板の打ち込みができなくなり、石を確認するために矢板周辺の土砂をドラグ・ショベルで約3m掘削し、現場監督が写真撮影をするため掘削した穴に入ったところ周辺の土砂が崩れ落ち、生き埋めになり死亡したもの。	711	5	1～ 9
2020	4	10 ～ 12	災害復旧工事において、崖下に設置してあるヒューム管を、公衆用道路からドラグ・ショベルにて引き上げる作業中、同機がバランスを崩して崖下に転落し、運転者が死亡したもの。	142	1	1～ 9
2020	5	18 ～ 20	道路舗装工事において、交差点手前の矢印標示につき、被災者がしゃがんでチョークにてマーキングをしていたところ、アスファルトの締固めをしていたタイヤローラーが後進し、被災者が轢かれたもの。	144	7	10 ～ 29
2020	5	8 ～ 10	建設現場内の道路脇の斜面上部（端部）にある支障木（ヒバの木 胸高直径22センチメートル、樹高約15メートル）をチェーンソーを使用し伐倒していたところ、支障木が縦に裂けて跳ね上がり、被災者の頭部を直撃し約5メートル下の道路上に墜落した。斜面の傾斜角度は約44度であった。	712	6	10 ～ 29
2020	6	0 ～ 2	ブル・ドーザー（15トン）のオペレーターとして入場していた被災者が、運転席から無限軌道上に落下、そのまま無限軌道に運ばれ、ブル・ドーザーの下敷きになり、死亡したもの。被災者は後方でドラグショベルを運転していた作業員に声をかけるため、キャビンを開放し、運転席から	141	7	30 ～ 49

			立ち上がり、身を乗り出した状態で、運転しながら、後方に向かって声を出していたところ、バランスを崩し、無限軌道上に落下したとされる。			
2020	6	22 ～ 24	国道上に発生した落石（40cm×40cm）を除去するため、被災労働者が軽トラックにて単独で現場へと向かい、落石を路肩へ撤去した後、通行車両に注意を促すためにカラーコーンを配置していたところ、反対方面から来た普通自動車に追突されて被災。頭部を負傷し、11日後に死亡した。	231	17	10 ～ 29
2020	8	8 ～ 10	舗装工事の表層施工作業のうち、ブラシ付き路面清掃車での清掃作業を行うにあたり、路面清掃車の右後方に別の工事車両があったため、いったん路面清掃車を左前方に寄せてから後進させたところ、車両後方にいた被災者を轢いたもの。	149	7	10 ～ 29
2020	8	14 ～ 16	道路掘削後復旧工事において、アスファルトの舗装作業中、午後に被災者がふらついたので職長が確認した為、休憩を指示し日陰で休ませていたところ、立てなくなる等様態が急転した為、救急車により病院に搬送した。その後、翌日深夜頃に死亡した。熱中症であった。	715	11	1～ 9
2020	9	20 ～ 22	被災者を含む労働者2人は、台風10号の接近による自然災害発生に備え、会社事務所で待機していた。夜、会社事務所隣の山の斜面が崩れて、その土砂で会社事務所及び社長宅が川に流され、会社事務所で待機していた労働者2人は行方不明となった。災害発生して11日後、捜索隊により、災害発生現場から約3.4km下流の川床の土砂の中から1人が遺体で発見された。	711	5	10 ～ 29
2020	9	14 ～ 16	被災者が橋の上に設置したつり上げ荷重2.93t移動式クレーンを操作し、橋の川下側高水敷にあるドラグ・ショベルを吊り上げようとしたところ、当該移動式クレーンが転倒して被災者に激突し、負傷した。救急搬送された医療機関で死亡が確認された。	212	7	10 ～ 29
2020	10	12 ～ 14	県道において、道路脇の除草作業を行っていた労働者中が、乗用車に追突され、死亡したもの。被災労働者は、午後の作業開始に当たり、機械、器具を移動し作業準備中であった。	231	17	10 ～ 29

2020	10	12 ～ 14	道路舗装復旧工事において、アスファルト舗装の締固めを行っていたコンバインローラーに被災者が轢かれた。	144	7	10 ～ 29
2020	11	8 ～ 10	資材置場にて、関連会社の労働者が移動式クレーン仕様のドラグショベルを用いて、車両積載型トラッククレーンの荷台から荷下ろしした敷鉄板2枚（1枚の重さ約800kg）をH鋼の柱に立てかけた。被災者が鉄板間に挟んだバタ角を調整していたところ、1枚の鉄板が被災者の方向に倒れてきて被災者の胸部に当たり、被災者が死亡したもの。	521	5	1～ 9
2020	11	8 ～ 10	同僚1名と被災者で工事で使わなくなったドラグ・ショベルをダンプに積み込み作業中、ダンプの荷台にドラグ・ショベルのクローラ先端をかけ旋回したところドラグ・ショベルがバランスを崩し横転、被災者が運転席から投げ出されドラグ・ショベルのヘッドガードと地面の間に頭部を挟まれたもの	142	1	1～ 9
2020	11	10 ～ 12	被災者は、コンクリート擁壁（高さ3m、延長16m）の型枠に設置されていた張出し足場の組み替え作業に従事していたところ、足場板から1.5m下の地面に倒れているところを発見されたもの。保護帽は着用していたが、発見時には脱げた状態であった。なお、検死の結果、死因は外傷性頸髄損傷であった。	411	1	1～ 9
2020	12	14 ～ 16	直径3.5m、深さ2.5mのライナープレートの立坑に、移動式クレーンで横穴を開ける穿孔機（長手方向3.24m）を吊って、底部に降ろす作業を行っていた。立坑内には常設のタラップがらせん状に設置されており、穿孔機がタラップに接触しないように、被災者ともう1名が、穿孔機を回転させる相伴作業をしながら、タラップを降りている際に、被災者がタラップから約1.5m下に墜落した。	413	1	1～ 9
2020	12	8 ～ 10	被災者は、土手上において舗装工の準備として不陸整正作業を行うため、2.5tローラーを運転し移動させていたところ、土手下に転落して2.5tローラーの下敷きになり死亡した。	144	1	1～ 9
			トラックからL字型のコンクリート擁壁を、移動式クレーンで地面に降ろ			

2020	12	16 ～ 18	し、擁壁に玉掛された3つある玉掛ワイヤーロープをすべて外したと被災者が思い込み、被災者が歩きながらクレーンの巻上の合図をし、クレーンを動かしたところ、3つある玉掛ワイヤーロープのうち1つが外れていなかったため、当該擁壁が被災者がいる方向に倒れ、被災者が下敷きとなった。	372	6	10 ～ 29
2019	1	4 ～ 6	ライトバンで自動車専用道路を走行中、路面凍結により軽トラックが自損事故で中央車線あたりに停車していたので、回避しようとしたところ、路面が凍結していたためスリップし、車外にいた軽トラックの運転手に接触した。その後、同人を救済しようと車外に出たところ、後続車にはねられたもの。	231	17	1～ 9
2019	1	10 ～ 12	被災者は、木材グラップル機を操作して工事現場の伐開に伴い発生した枝条を集積作業中、枝が重機キャビンのガラスに当たって割れ、運転席の窓の下に置いていた日報等が落ちてブームの根元に引っかかり、それを取ろうとキャビンから身体を乗り出した際、運転席右側のブームの操作レバーに被災者の身体の一部が当たり、ブームが動いたため、ブームの油圧シリンダーとキャビンに挟まれて死亡したもの。	171	7	10 ～ 29
2019	2	14 ～ 16	自動車道IC改築工事現場において、被災者が2.4tコンバインドローラーを運転し、前後方向に傾斜する路盤を後進にて転圧作業中、運転席の椅子が車体から外れて椅子ごと車体右側に投げ出され、前部鉄輪に轢かれたもの。病院に搬送されたものの、被災から約3時間後に死亡した。	144	7	1～ 9
2019	2	10 ～ 12	市道の側溝の敷設替を行う工事現場において、U字溝を設置するため、ドラグ・ショベルを使用して掘削した溝の内部で被災者が溝の形を整えていたところ、同溝付近のブロック塀が倒れ、被災者が下敷きとなった。	418	5	10 ～ 29
2019	2	8 ～ 10	自社の資材置場にて仮設トイレを、ダンプトラック荷台から降ろすため、トラッククレーン車のクレーンを用いて50cmほど吊り上げたところ、玉掛に使用していた繊維ロープが切れ、トイレがダンプ荷台に落ち、その衝撃によりダンプが揺れ、ダンプトラックのプロテクター上で玉掛を行っていた被災者は、バランスを崩し、運転席前方のアスファルト地面に頭か	221	1	10 ～ 29

			ら墜落した。			
2019	3	14 ～ 16	道路補修工事（災害復旧工事）において、盛土した土砂を転圧する箇所 で、被災者がロードローラーを運転していたところ、路肩からロードロー ラーごと転落し、傾斜40°の法面を5.6m下ったところの擁壁上で ロードローラーの下敷きになり、死亡した。	144	1	30 ～ 49
2019	5	12 ～ 14	道路の災害復旧工事現場において伐木材の搬出作業時、道路傾斜部（坂 道）の上部にダンプトラック（4トン積）を停止させドラグ・ショベル （クレーン仕様）による積込作業中、ドラグ・ショベルの運転席に乗り込 もうとしていた被災者に向かって、無人のダンプトラックが坂道（勾配 7.5度）を約5メートル下り後進してきたため、ドラグショベルとダン プトラック後方にはさまれた。	221	7	10 ～ 29
2019	5	10 ～ 12	資材調達のためにダンプトラック（最大積載量2トン）を運転していた被 災者がセンターラインをはみ出し、対向車線を走行中のトラッククレーン と正面衝突したものの。	221	17	50 ～ 99
2019	5	8 ～ 10	豪雨災害により発生した路面の土砂および山腹を切り取りした後の土砂を ダンプトラック1台、ドラグショベル1台により搬出する作業を事業者と 被災者の2名で行っていた。事業者がダンプトラックで土砂を残土場に運 搬し戻ってきた際、盛土した法肩から谷方向へドラグショベルと共に約2 5メートル転落していた被災者を発見したものの。	141	1	1～ 9
2019	7	10 ～ 12	砂防ダム築造工事現場において、下請の専門業者がケーブルクレーンを解 体するため、先柱にあった搬器を横行索の動力で元柱に戻していたが、途 中で木の枝が搬器に引っ掛かり、それに気づかず横行索を巻き続けたとこ ろ、搬器が急降下し、その反動で主索から脱落して振り子状態となり、堰 堤右岸側の間詰め目地作業をしていた元請作業者の頭部及び胸部に飛来 し、当該作業者が死亡したものの。	211	4	10 ～ 29
2019	7	12 ～	アスファルト舗装工事現場において、路盤の転圧作業、アスファルト乳剤 の散布作業及び表層の敷き均し後のふるいによる目潰し作業を行っていた	715	11	30 ～

		14	被災者が体調不良を訴え、作業を中断してトラックの運転席で休んでいたが意識が無くなり、病院に搬送されるも、翌日死亡したもの。（熱中症）			49
2019	7	10 ～ 12	道路拡幅工事の前作業として、道路脇の山林斜面の中腹（道路からの高さ約11mの所）によじ登り、チェーンソーでヒノキの立木（根元直径約60cm）を伐倒直後、斜面（転落開始地点38度、その下から、道路際の擁壁（高さ約1.5m）までの大半が42度以上の傾斜）を転落、道路に激突し死亡。	711	1	10 ～ 29
2019	8	12 ～ 14	道路沿いの木の枝を剪定する作業の際、2tトラックの荷台の上で、剪定された枝を荷台の奥へ積む作業に従事していたところ、荷台の上でうずくまって体調不良を訴えたため、病院へ搬送したが死亡した。	921	99	1～ 9
2019	9	16 ～ 18	石積み塀を補強するため、床掘り（深さ50cm）作業をしていたところ、石積み塀（高さ1m、幅16m）が崩壊し、続けてその上のコンクリートブロック塀（高さ1m、幅16m）が被災者方向へ倒壊し、下敷きとなったもの。	418	5	1～ 9
2019	9	8 ～ 10	林道の改良工事現場において、土砂を運搬していたダンプトラック（最大積載量2トン）が、林道の路肩から約12m下へ転落した。	221	1	10 ～ 29
2019	10	16 ～ 18	営業業務から帰社し、当日夜間に現場で使用する機械の運搬について業者と打ち合わせた後、ふらふらし始めバランスを崩し転倒した。転倒時コンクリート面に後頭部を打ち付け、硬膜外血腫により死亡した。	417	2	1～ 9
2019	10	8 ～ 10	被災者は、現場で作業員が使用するために軽トラックの荷台の上に設置された簡易トイレを使用した後、荷台から地面に墜落し、後頭部を強打した。その後、病院に搬送され、手術が行われたが、同日午後に死亡した。 被災者は、軽トラックの荷台から降りようとして、何らかの要因により体勢を崩して墜落したと推測される。	221	1	1～ 9
2019	12	10 ～	被災者は、規制されていない道路上において、道路脇の現場を写真撮影中、道路上を後退で走行してきた貨物自動車（4トンダンプ）に轢かれ、被災9日後に死亡した。なお、貨物自動車は、作業位置（A）から後方約	221	17	30 ～

		12	100メートル離れた作業位置（B）へ移動するために後退したもの。			49
2019	12	8～10	林道新設工事に付随する残土処理場の造成工事である。造成予定の緩い斜面上の竹林内で、掘削工事に先立ち竹や立木の皆伐採作業をしていた。胸高直径約30cmの榎の木を伐倒するため受け口を入れ、追い口を設ける途中か退避中に、倒れ始めた立木の幹が約2mに渡り裂け、元口部分が被災者に激突した。	712	6	1～9
2019	12	10～12	道路建設工事における法面掘削作業に伴う伐木作業を一人で行っている際に発生したもの。伐木作業中、かかり木状態となっていた場所で被災者は、かかり木状態ではあったが、かかられている木を伐木しても、落下するかかり木の直撃を避けられると判断し、伐木を行ったところ、被災者が想定していた落下をかかり木がせずに落下し、被災者に当たったもの。被災後、病院にて治療が行われていたが、多臓器不全により死亡した。	712	4	10～29
2018	2	10～11	他の業者の工区から盛土材を運搬してきた10tダンプを誘導していたところ、被災者の背面から現場内の盛土材を運搬していた4tダンプが後進してきて、当該ダンプに轢かれたもの。	221	7	10～29
2018	2	10～11	国道沿いの道路改良工事現場において、コンクリート擁壁の路肩で作業を行っていたバックホーがバランスを崩して約5m下の川底へ転落し、運転者はバックホーの下敷きとなり、頭部を圧迫されて死亡した。転落の直前まで、バックホーのバケットフックに土砂の入ったワイヤーモッコを掛け、道路上へ吊上げる作業を行っていた。当該バックホーはクレーン機能を備えているが、適切に使用されていなかった。	142	1	10～29
2018	2	10～11	「舗装道修繕工事現場」において、道路ほ装工事のため路面切削機により切削されたほ装道の状況を屈んで接写撮影していたところ、路面切削を終えた個所の清掃作業のため後退してきた路面清掃機「スーパード」の右後輪にひかれ、「外傷性心破裂」により死亡したものである。	149	7	50～99
		8	一般国道道路改良工事において、重さ1.8トンのL字型擁壁を現場から搬出するため、現場代理人である被災者がつり上げ荷重2.93トンの車			1～

2018	3	9	両積載形トラッククレーンを操作し同擁壁をつり上げトラックの荷台側へ 旋回したところ、当該クレーンが転倒し、当該クレーンとトラックの間に 被災者が挟まれ死亡したものの。	212	7	9
2018	3	16 ～ 17	橋脚建設工事用の仮栈橋の支持杭（鋼管杭）を所定の位置に打設するた めの仮設物の組立作業中に発生したものの。下流側の導枠（打設済の鋼管杭に 溶接により取付けたブラケット上に設置されたH形鋼）の先端部付近に、 導枠に取付けたガイドに沿って、くい打機により導杭（H形鋼）を挿入し ていたところ、ブラケットの鋼管杭への溶接部が剥がれ、当該導枠上で合 図等を行っていた被災者が導枠ごと川に転落した。	419	10	1～ 9
2018	3	16 ～ 17	農道の拡幅工事現場において、被災者が幅員2.5mに拡幅した道路を振 動ローラーにより転圧作業中、路肩が崩れ、振動ローラーとともに法面 （こう配30～35度）を約8m転落し死亡したものの。	144	1	10 ～ 29
2018	4	14 ～ 15	町道の災害復旧工事を行っていた作業者が道路から約10m下の斜面に転 落し死亡したものの。	711	1	1～ 9
2018	5	14 ～ 15	県道道路維持工事で、側溝にたまった枯れ葉をドラグショベルにてすくい 取り、ダンプに積み込む作業を行っていた際に、ダンプの運転手（被災 者）がダンプを停めて、ダンプから降りてその周りで作業をしていたとこ ろ、下り坂によりダンプが逸走し、そのダンプを追いかけ乗ろうとするも 間に合わず、ダンプが側溝に落ち、擁壁とダンプに挟まれた状態となった ものの。	221	7	10 ～ 29
2018	6	10 ～ 11	林道の新設工事において、伐採した木の搬出作業のためドラグショベルを 運転していたところ、ドラグショベルの下の路肩が崩壊し、ドラグショベ ルごと約35メートル下にある旧国道に墜落したものの。病院に救急搬送さ れ、死亡が確認された。	711	1	1～ 9
2018	6	16 ～	道路脇に裏面崩落の復旧工事において、落石防護壁としてH鋼に固定され ていた敷鉄板（約900kg）が倒れ、被災者が下敷きになり死亡したも の。現場では、H鋼を立てるため、ロータリーと呼ばれる機械で路面の穿	419	5	30 ～

		17	孔作業中で、被災者は穿孔穴付近で砂かきの作業をしていた。			49
2018	7	14 ～ 15	現道路工事現場において、コンクリート型枠材として使用する木杭を作るため、労働者1名が携帯丸のこで角材（縦3cm×横6cm×長さ51cm）の一端を切り尖らせていた時、誤って自らの右大腿部を切創した。	131	8	30 ～ 49
2018	7	8 ～ 9	側壁のコンクリート打設作業のため、生コンが0.3立方メートル入っているコンクリートホッパーをドラグ・ショベルで吊り、対岸側の打設位置に移動させたとき、ドラグ・ショベルの前方の路肩が崩れ、ドラグ・ショベルが右側に転倒。えん堤に係る足場上でドラグ・ショベルを誘導していた被災者が、倒れたドラグ・ショベルのバケットとえん堤の間にはさまれた。	142	6	1～ 9
2018	7	12 ～ 13	被災者が、クレーン機能付きドラグ・ショベルを運転していた際、当該ドラグ・ショベルが転落した。	212	1	30 ～ 49
2018	9	6 ～ 7	災害発生事業場は土木工事を請け負う事業場。被災者は事業場敷地内でダンプカーの荷台にドラグショベル（機体重量2.57t）を積み込もうとしていた。ドラグショベルを自走して乗せるために荷台へ前進ブームを左旋回その後急にブームを右旋回した。そのため、ドラグショベルがバランスを崩して横転し、被災者は地面とドラグショベルのヘッドガードとの間に上半身を挟まれて死亡したものの。	141	1	1～ 9
2018	10	16 ～ 17	道路維持修繕業務の一環として、台風の影響により道路上に飛散した枝葉等を（ホイール式）トラクターショベルを用いて除去していたところ、ガードレールが設置されていない路肩から崖下にトラクターショベルごと転落したものの。	141	1	1～ 9
2018	10	10 ～ 11	豪雨災害復旧工事現場において、被災者が法面の幅員1.5mこう配約20度のコンクリート舗装の直線路面上においてドラグショベル（機体重量約0.5t）を運転し、路面に隣接する法面の表面掘削を行っていたところ、路面下り面側に約5m転落し、当該機械と路面との間に胸部をはさま	142	2	1～ 9

			れたもの。病院で治療を受けていたが、後日死亡した。			
2018	10	10 ～ 11	橋台の周囲の鋼矢板内（幅2.5m）にダンプで運ばれた土砂をダンプアップして投入して埋め立てる作業で、ダンプの誘導者が、埋立開始間もない約3.2m下の埋立地面上に墜落した。墜落状況の目撃者はおらず、鋼矢板内にいた作業員二人が墜落した音を聞いて振り返り被災者の墜落に気付いた。鋼矢板の天端は地上と同じ高さであり地面以上の突出しもなく、その他端部の目印や墜落防止措置は何も無かった。	414	1	30 ～ 49
2018	10	16 ～ 17	歩道の舗装補修工事が終了したため、片側1車線の道路の路側帯に駐車した3トンドンプトラックの後部で工事に使用した機材等の積み込み作業中、後方から走行してきた乗用車が衝突したため、ダンプトラックと乗用車の間に挟まれた。	231	17	1～ 9
2018	10	2 ～ 3	高速道路の高欄等の改修工事において、右車線を走行中のタクシーが右側壁に激突し、その反動で、工事の規制帯である左車線に侵入し、塗装の仕上げ作業を行っていた被災者1名に衝突した。タクシーには運転手の他に乗客1名が乗車。タクシー運転者は負傷なし。乗客は打撲による負傷をした。	231	17	10 ～ 29
2018	11	12 ～ 13	削孔作業終了後、移動式クレーンに取り付けられた削孔機のロッドと呼ばれる箇所を上下に分離して、ロッドの上の部分をつり上げて、移動させていたところ、削孔機の振れを押さえるため、リーダとロッドを繋ぐ金属製の振り止め（重さ約300kg）が外れて落下し、下にいた被災者の顔面に直撃したものである。	143	4	10 ～ 29
2017	1	14 ～ 15	工事において、所属事業場の代表者が機体重量16トンのドラグ・ショベルを回転させたところ、掘削溝内にいた被災者が当該ドラグ・ショベルの上部回転体の右後部と掘削土壁との間にはさまれて被災し、病院搬送されたが、死亡した。	142	7	10 ～ 29
2017	1	14 ～ 15	水産加工場内の設備工事で昼休憩が終わり、作業場所である水産加工場3階へ向かうために階段を上っていたところ、1階と2階の間にある踊り場の端（幅1.75m、地上高さ2.3m）から墜落した。	142	6	1～ 9

2017	1	8 9	被災者は、道路横の歩道部の除雪作業において、歩行型ロータリー除雪機を運転して除雪作業を行っていた。途中、当該除雪機の運転を同僚と交替し、交替した同僚が、100メートルほど除雪機を進めたところで異音が生じたので、エンジンを止めて前部を確認したところ、被災者が、歩行型除雪機のロータリー部分に巻き込まれていた。	149	7	30 ～ 49
2017	2	12 13	くい打ち機によるくい打ち作業準備としてドリル接続のためのピンうち作業中に、作業箇所の上方1.5m程度の位置にワイヤーロープでつり上げられていた状態のくい打ち機ハンマー部分（約2.5t）が何らかの理由によりワイヤーロープが切断して落下し、作業の足がかりとしていた部材と当該ハンマー部分等の部品の間両足を挟まれた。	143	4	10 ～ 29
2017	5	10 11	建設現場内に駐車されていたタイヤローラーが作業の支障となったことから、当該ローラーを運転して移動させていた。移動予定の位置に達したものの、当該ローラーが停止せず、そのまま工事現場内を98.2m走行し、法肩から約30m下の法下へ、当該ローラーとともに、当該ローラーの運転席に搭乗していた被災者が転落した。	144	1	1～ 9
2017	5	8 9	片側1車線の対面通行区間において、労働者1名が搭乗するライトバンがセンターラインを超え、対向車線のトラッククレーン（事業主及び労働者2名が搭乗）と衝突した。ライトバンの1名が死亡し、トラッククレーンの3名が負傷した。	231	17	10 ～ 29
2017	5	0 1	被災者は空港の道路維持工事現場にて作業車を路肩に停車させたところ、当該作業車に後方から軽トラックが衝突して炎上したため、被災者は軽トラックの運転者を救出しようとしたが出来ずに、運転者が焼死したことを原因として急性ストレス障害を発症し、その後山林において縊死状態で発見された。	921	90	10 ～ 29
2017	5	16 17	資材置き場において、被災者はごみ集積場所から手押し台車を押して倉庫に戻る途中であった。同時に同敷地内に事務所のある姉妹会社の社員が被災者の近くにあった3トントラックの運転席に乗り込み後進したところ、歩いていた被災者に気づかず巻き込んだ。	221	18	50 ～ 99

2017	5	14 ～ 15	フォワーダを使用して土砂の運搬作業中、被災者がキャタピラ上に上がっていたところ、キャタピラが動き出し、運転席とキャタピラの間隙に巻き込まれ、死亡した。	172	7	1～ 9
2017	5	8 ～ 9	林道改良工事現場において、不整地運搬車を運転して残土運搬のため、作業道を積み込み場へ移動していた際、不整地運搬車を方向転換させるために路肩に寄せて走行していたところ、路肩から斜面を17m下の河川まで転落し、被災した。	227	1	1～ 9
2017	6	8 ～ 9	県道の歩道設置工事現場において、地山の掘削後における大型ブロック積擁壁工の現場打ちコンクリート部の施工に際し、積み上げた大型ブロックの裏側（山側）へ被災者が立ち入った際に、当該ブロックが山側に倒壊したため被災者が地山とブロックの間に挟まれ圧迫された。倒壊した大型ブロックの重量は約4tであった。	418	5	1～ 9
2017	6	12 ～ 13	高速道路舗装工事現場で、橋梁ジョイント部保護のため、トラッククレーンで鉄板（3.0m×1.5m×25mm、重量900kg）を敷設したところ、接地面が安定しなかったため、再度、同クレーンにて鉄板端部1箇所を玉掛用具のフックを掛け、鉄板の片側を約60cm引き上げて、他の作業者が接地面の砂利をならしていた。被災者が接地面をのぞき込んだところ、玉掛用具のフックが外れ、落下した鉄板の下敷きになった。	372	4	1～ 9
2017	7	12 ～ 13	被災者は、同僚らと共に仮設防護柵の撤去作業を行っていたところ、高さ4mの支柱（重量：約470kg）が倒壊し、その支柱が被災者の右側頭部を擦りながら右肩口に激突し、その反動で後方に倒れ被災した。被災者らは防護柵の部材を接合していたボルト外し作業等を行っていたものであるが、災害発生直前は、一時的に移動式クレーンの傍らで待機していたものであった。その後、被災者は搬送先の病院で脳挫傷により死亡した。	419	5	1～ 9
2017	7	14 ～ 15	コンクリート殻の搬出を終えて現場に戻った被災者（ダンプ運転者）が、現場内を歩いていたところ、ヤード内に置いてあった鉄網付近で転倒し、頭を強打して首を損傷した。	417	2	10 ～ 29

2017	8	12 ～ 13	高速道路 I C 付近で、道路舗装補修工事中の作業者に大型トラックが突っ込み、作業員 1 人が脳挫傷で死亡したほか 3 人が頭蓋骨骨折等の重軽傷を負い、大型トラックの運転手が中傷を負った。	221	17	～ 49
2017	10	8 ～ 9	工事現場から事業場へ戻る際の災害。2 トントラックで片側 2 車線の緩やかな右カーブの高速道路の追越車線を走行し、走行車線に車線変更しようとしたところ、走行車線を走行中の 10 トントラックの右後部に追突した。2 トントラックの助手席側が大破し、助手席に乗っていた労働者が死亡した。なお、運転者に怪我はなかった。	221	17	～ 49
2017	10	12 ～ 13	積載荷重 2 トンのトラック（積載型トラッククレーン）に鉄板 2 枚（700 kg）等を積載して幅 4.2 メートルの市道（最大 15 度の登り勾配）を後進していたところ、後輪が空転したのちトラックが前進し、トラックの右前面で誘導していた被災者が、トラックと擁壁の間に挟まれながら 10.1 m 引きずられ胸などを強く打ち死亡した。	221	17	1～ 9
2017	10	16 ～ 17	採石場から自社に砂利をダンプトラックにて運搬中の被災者が県道を走行中、上り坂のカーブを直進してガードレールを突き破り下の市道まで転落して死亡した。	221	17	～ 29
2017	10	8 ～ 9	区画道路舗装工事現場において、雑草の処理のために路肩部分の転落防止柵を乗り越えたところ、バランスを崩して約 3.0 m 下にある水深 2.5 m の調水池に転落し溺死した。	713	10	～ 29
2017	10	16 ～ 17	被災者は、下水道工事現場において、掘削した溝（深さ約 2.2 メートル）の中で、敷設された管の位置を確認する作業を行っていたところ、土壁が崩壊し、生き埋めとなり死亡した。	711	5	～ 29
2017	11	10 ～ 11	除染業者より依頼のあった土砂を 10 t ダンプで除染現場に運搬し、荷下ろし後、空車で会社に帰る途中、道路左側の縁石に接触し、その反動で右側の倉庫に接触後、左にハンドルを切り、左側の縁石を超え民家に激突した。	221	17	～ 99
		12	被災者は、林道改良工事現場において、橋の山側端部にガードレールを取り付ける支柱の設置作業等を行っていたが、当該栈道橋の端部を移動中に			30

2017	11	11 ~ 13	5. 1 m下の斜面に墜落、当該斜面を目測60 m以上滑落し、さらに切り立った崖を30 m以上墜落して、山沿いを流れる川辺に落ちて死亡した。	418	1	~ 49
2017	11	12 ~ 13	新規開設した道路の路面を計画の高さまで掘り下げるため、被災者がブレイカを運転して路面の岩を砕き、その後方で現場代理人がドラグショベルを運転して砕いた岩を後方へ移動させる作業を行っていたところ、ブレイカの運転席側の法面（高さ約20 m、全長約20 m、勾配約5分）が上方から崩落、被災者はブレイカに搭乗したまま土砂の生き埋めとなり、約10時間後に救出されたが、死亡した。	711	5	10 ~ 29
2017	11	12 ~ 13	被災者が、売却予定であったブルドーザーの燃料をトラックの荷台に置かれたドラム缶に移す作業を行っていたところ、ブルドーザーが動きだし、ブルドーザーの左後方角とトラックの左側ドアの間に挟まれた。	141	7	10 ~ 29
2017	12	14 ~ 15	排水路補修工事において、被災者が走行集材機械を運転し木材を搬出中、作業道の路肩（傾斜40°）から5 m下の作業道（コンクリート路盤）に当該機械とともに墜落し、死亡した。	172	1	10 ~ 29
2017	12	8 ~ 9	道路脇の落石防護用の金網内に堆積した土砂（高さ約1.5 m）の除去を行うために、被災者は金網下端にワイヤーロープを通してドラグ・ショベルのフックに掛けて金網を捲り上げ、その下端を金網中ほどの位置にコイル状ワイヤーで固定した。この後、ワイヤーロープをフックから外したところ、固定していたコイル状ワイヤーが解け、金網の捲り上げられていた部分が元に戻る際に被災者に激突、被災者は道路に墜落し、頭部を強打した。	521	6	30 ~ 49
2016	1	13 ~ 14	被災者は斜面下方において斜面に堆積させていた土砂をドラグショベルを使用してダンプに積み込む作業を行っていたが、その斜面の土砂が突然崩れて、被災者の乗っていたドラグショベルと土砂を積み込んでいたダンプが崩れた土砂により横倒しとなり、ドラグショベルは土砂に埋まった。ダンプの運転手は自力で脱出して負傷はなかったが、ドラグショベルの運転手は約2時間半後に救出されたものの死亡していた。	711	5	10 ~ 29

2016	1	16 ～ 17	道路の舗装工事で路盤整正作業中に、傾斜している道路の山側にモーターグレーダーを停車させ、運転手が運転席から降りた後、谷側の作業の様子を見に行った時に、モーターグレーダーが斜面を逸走し始め、谷側で作業をしていた労働者を轢いて付近の空き家に衝突して止まった。	141	7	10 ～ 29
2016	2	11 ～ 12	ダムを取付け道路工事現場において、法面（高さ9.5m）掘削用に設けられた防護柵（高さ3m）の解体作業中、法面が、高さ15m、幅20m、奥行き10mにわたって崩壊したため、作業員3名のうち、1名が生き埋めとなり被災した。	711	5	10 ～ 29
2016	3	15 ～ 16	国道の車道左側の歩道部分において、排水溝の設置工事をしていた作業員3名が乗用車にはねられた。（2名が死亡）	231	17	10 ～ 29
2016	3	15 ～ 16	国道の車道左側の歩道部分において、排水溝の設置工事をしていた作業員3名が乗用車にはねられた。（2名が死亡）	231	17	10 ～ 29
2016	3	12 ～ 13	道路改良工事現場において、道路上でGPS測量を行い、測量鉞を打ち込んでいたところ、走行してきたダンプトラックに轢かれた。	221	17	50 ～ 99
2016	4	16 ～ 17	次の日は天気が荒れるという予報が出ていたので、雨じまいのため当日の作業を早く切り上げ現場作業員全員で片付けに入ったが、自分の方付けに目途がついたので、一部未転圧の部分を自分の担当ではないが良かれと思いい路肩近くに止められていた振動ローラーで転圧作業をしようとしたところ、運転操作を誤り路肩からローラーもろとも勾配約30度の法面を8.4m下まで転落した。	144	1	1～ 9
2016	4	15 ～ 16	被災労働者は、停車していた無人の貨物自動車（平ボディ、最大積載量2.45トン）に道板をかけて、ドラグショベル（機体総重量約3.1トン）を運転して積み込んだところ、当該貨物自動車が後退しはじめ、ドラグショベルとともに当該貨物自動車後方にあった法面を転落して、川に沈没し、溺死した。	221	1	1～ 9

2016	6	8 ~ 9	被災者は、朝礼後、担当現場に向かうため、同方向の別現場へ走行するドラグ・ショベル（機体重量15.4トン）の後方を別事業場の労働者と並んで歩いていたら、作業開始位置を過ぎたドラグ・ショベルが突	142	7	1~ 9
2016	7	13 ~ 14	11時50分、林道開設工事現場内において、被災者は、土砂運搬のため、2tダンプトラックを運転して土砂掘削作業場所から1500メートル離れた路床盛土作業場所へ向かった。13時20分頃、同僚が、被災者が昼休み時間が経過しても土砂掘削現場に戻ってこないため、様子を見に行ったら、林道から約11メートル（法面勾配40度）下にある当該ダンプの後部タイヤ付近で駆動機構に被災者を発見した。	221	7	10 ~ 29
2016	7	15 ~ 16	道路災害復旧工事の現場で急な降雨があり、法面上に設置された排水用ビニールホース（直径約250mm）のねじれを7名で直していたところ、ねじれが解消されると同時にホース内に水が一気に流れ、被災者が当該ホースに弾き飛ばされて約5m下の地山斜面上に墜落した後、地山斜面上を約17m下まで転落した。	711	1	10 ~ 29
2016	7	15 ~ 16	被災者は現場事務所から施工場所まで測量器具を徒歩で運んでいたところ、元請労働者が運転するタイヤローラーが通ったため、当該タイヤローラーの左側面の搭乗用ステップに乗った。約100m走行した地点に約5cmの段差があり、タイヤローラーが跳ねた。運転者は被災者の方を確認したが、見当たらなかったため後方を確認したところ、路上に被災者が仰向けで倒れていた。	144	1	1~ 9
2016	8	8 ~ 9	林道上で生コン車からコンクリートバケット内に生コンを受け入れた後、クレーン仕様のドラグ・ショベル（つり上げ荷重0.9t）のフック部分に玉掛ワイヤーロープを掛けた状態でコンクリートバケット（総重量0.49~0.51トン）をつり上げ、林道谷側に向けて旋回を行ったところドラグ・ショベルが谷側に傾き、林道上から4.5m下の床堀面にドラグ・ショベルが転落し、運転手（被災者）が投げ出されて死亡した。	212	1	1~ 9

2016	8	9 ～ 10	道路工事により出た仮置きのアスファルト殻を、被災者がドラグショベルを用いてトラックに積み込み作業中、ドラグショベルがバランスを崩して転倒し、キャビンから投げ出された被災者が転倒した車体の下敷きになった。	142	2	10 ～ 29
2016	8	12 ～ 13	延長73.3m、幅約2.5mの町道の舗装工事。当日は、元請6名、下請（被災者含む）3名、警備4名の計13名が入場。被災者は、6時に会社に出社し、同僚が運手する車で現場に到着。朝礼後の8時30分から作業を開始。同僚1名と共にロードカッターを操作し、アスファルトを切削する作業に従事。12時前に作業が終了し、後片付けしていたところ、気分が悪くなり、倒れこんだ。病院に運ばれたが、熱中症が原因で死亡を確認。	715	11	1～ 9
2016	9	15 ～ 16	自動車上り線の走行車線の道路補修工事において、掘削箇所の埋め戻し状況の写真撮影の準備中に、追越車線を走行してきた乗用車が突然、走行車線側（左側）に方向を変えて同工事現場に進入し、被災者2名を撥ね、同工事現場内の10トンダンプの右後部に衝突した後、中央分離帯に激突して止まった。乗用車に撥ねられた被災者2名は頭胸部外傷及び多発外傷により死亡し、10トンダンプの運転手は胸部打撲の負傷を負った。	231	17	10 ～ 29
2016	9	15 ～ 16	自動車上り線の走行車線の道路補修工事において、掘削箇所の埋め戻し状況の写真撮影の準備中に、追越車線を走行してきた乗用車が突然、走行車線側（左側）に方向を変えて同工事現場に進入し、被災者2名を撥ね、同工事現場内の10トンダンプの右後部に衝突した後、中央分離帯に激突して止まった。乗用車に撥ねられた被災者2名は頭胸部外傷及び多発外傷により死亡し、10トンダンプの運転手は胸部打撲の負傷を負った。	231	17	10 ～ 29
2016	10	7 ～ 8	作業打ち合わせ前に、現場代理人の被災者が現場状況の確認作業へ向かった後、打ち合わせ場所に戻ってこなかったため当該事業場の作業員が探しに行ったところ、横断管施工箇所の呑口柵に設置した水中ポンプにうつ伏せ状態で倒れている現場代理人を発見した。	999	10	30 ～ 49
			ダム建設用の進入路を整備するために伐採した木を車両系木材伐出機械を			

2016	10	13 ～ 14	用いてダンプトラックに積載する作業において、被災者は車両系木材伐出機械の周辺でチェーンソーを用いて伐採した木の枝切りをしていたところ、後退してきた車両系木材伐出機械に激突され、死亡した。	171	6	1～ 9
2016	10	9 ～ 10	林道改良工事において路肩の下で型枠の脱着作業を行っていたところ、路肩が崩壊し、土砂に埋もれて死亡した。	711	5	1～ 9
2016	11	11 ～ 12	作業員8名で高速道路の路肩を特殊車両を用いて草刈りしていた。草刈りが完了したことから、車線規制を解除するため規制回収車の後方ステップ上で、作業員2名によりカラーコーンを回収していたところ、14トンの大型トラックが2トンの規制回収車に激突した。これにより、作業員Aが死亡し、規制回収車を運転していた作業員Bが首に軽傷を負った。	221	17	10 ～ 29
2016	11	9 ～ 10	キャリアダンプ（不整地運搬車）の荷台に生コンを入れて所定の箇所に輸送後、Uターンをして、戻ろうとしたところ、誤って道路脇斜面に転落した。運転していた被災者は、キャリアダンプ（不整地運搬車）とともに斜面に転落し、死亡した。	227	1	1～ 9
2016	11	0 ～ 1	道路復旧工事で使用する材料の砕石を引き取るため、営業所車両置場から工場に被災者のみが乗車し運転する車両（3tダンプ）で向かっていたところ、途中の高速道路上でスリップして中央分離帯及び路側壁に回転しながら激突し、車外に放り出され死亡した。	221	17	10 ～ 29
2016	12	15 ～ 16	建設工事現場の先行伐採を行っていた被災者が、シイ（胸高直径42cm）を伐倒したところ、シイの斜面上方に生えていたサクラ（胸高直径45cm）の枝（長さ11m）が折れて落下し、被災者が下敷きになった。	712	4	1～ 9
2016	12	8 ～ 9	法面（斜度80度、岩）に削孔機によるアンカー孔掘削作業中の災害。1箇所の掘削を終えて次の掘削予定箇所に削孔機を移動するためにビット付ロッド（全長約2.1m、重量約28kg）を削孔機より取り外し法面に立てかけて仮置きしていたところ、当該ビット付ロッドが落下し下方にいた被災労働者の胸部に激突し、死亡した。	711	4	1～ 9

2016	12	15	林道開設工事現場において、被災者が掘削した土砂を約300m離れた土捨て場までダンプで搬出していたが、施工箇所へ戻ってくるのが遅かったため、他の労働者が探していたところ、既設林道の路肩から法長約36m下に搭乗式振動ローラーが転落しており、その付近に被災者が倒れているのを発見された。	144	1	10
2016	12	8	被災者は倒木等の撤去を行うため、事業場から現場まで2トントラックを運転していた。交差点を過ぎた片側2車線の緩やかな下りカーブで、被災者が運転する2トントラックが、前方追い越し車線を走行しているトラックを走行車線から追い越し、追い越し車線に進入したところ、そのまま中央分離帯を乗り越え、対向車2台と衝突し、1.5m下の側道に転落し、ガードパイプに衝突した。	221	17	30
2015	1	14	道路改築工事現場の皆伐作業において、チェーンソーを用いて杉（胸高直径31cm、樹高19.2m）の伐木を行っていたところ、当該伐木が近傍で別の杉の玉切り作業を行っていた被災者の背面に激突したものの。	712	6	1
2015	1	17	右岸側の橋の上方の斜面より落石があり、現場監視のため、橋を通行止めにして自動車を止め、右岸側の同斜面の落石状況を確認していたところ、土砂崩壊が発生し、土砂により橋桁が崩落し被災者2名が、河川に墜落したものの。	418	1	30
2015	2	1	国道下り線（片側3車線）において、中央側の各1車線を規制し、中央分離帯の補修工事を行っていたところに、大型トラック（最大積載量13.8t）が突っ込んだ。事故に巻き込まれ、土木作業員1人が死亡したほか、交通誘導員3人、クレーン運転士、トラック運転手が被災した。	221	17	1
2015	6	9	工事現場内で土留め用のシートパイルを設置するためのケーシング（φ360mm、長さ11m）を移動式クレーンで運搬するため、ハッカーで2箇所玉掛けし、約1.5m吊り上げたところ、ケーシングが縦ぶれし、玉掛け用具が外れ、ケーシングの近くにいた被災者の右足に落下し、負傷したものの。その後、病院に運ばれ、約3時間後死亡が確認された。	372	4	10
			右岸側の橋の上方の斜面より落石があり、現場監視のため、橋を通行止め			

2015	1	17 ～ 18	にして自動車を止め、右岸側の同斜面の落石状況を確認していたところ、土砂崩壊が発生し、土砂により橋桁が崩落し被災者2名が、河川に墜落したものの。	418	1	30 ～ 49
2015	10	8 ～ 9	林道拡幅工事にて林道上の支障木の伐倒をしていた作業者が、杉を伐倒した際、伐倒木の伐倒方向と反対側にあるアカメガシワの枝が伐倒木に絡まっており、そのため伐倒木が倒れるとき（1）に当該枝が折れて落下し、（3、4）（枝の長さ11m70cm、枝の根元直径20cm）、伐倒方向の反対側に退避（2）していた被災者の背中に激突した。その後、被災者は斜度約40度の斜面を約10m転落した（5）。（2）～（4）は推定	712	4	10 ～ 29
2015	3	15 ～ 16	遊歩道の手すりの改修工事において、ドラグショベルで手すりの支柱の基礎（コンクリート2次製品）を地中に埋め、余掘りの埋戻し作業を行っていたところ、その周辺の岩石等が崩壊し、ドラグショベルの周辺にいた被災者に直撃した。被災者は、崩壊した岩石とともに約5m下の谷側に転落した。	711	5	1～ 9
2015	5	13 ～ 14	農道改良工事現場（延長561.8メートル、幅6メートル）において、被災者が、移動式クレーン機能付きドラグ・ショベルのバケットにフックを格納していたところ、同僚の運転する10トンダンプが14.6メートル前方から後退してきたため、ダンプ後部とバケットとの間に挟まれ、被災したものの。	221	7	10 ～ 29
2015	11	9 ～ 10	被災者は国道事務所出張所において工事の打ち合わせを終えた後、会社所有の軽トラックに乗って会社に戻るため、国道トンネル内を市街地から郊外方面に向かって走行していたところ、対向車線にはみ出し、対向して来た大型ダンプトラックと正面衝突し、出血性ショックで死亡したものの。なお、大型ダンプトラックの運転手も休業4日以上を負傷となった。	221	17	1～ 9
		13	農道を砂利転圧作業していたロードローラーのオペレーターが、後方にくぼみがあるのを見つけ、くぼみに砂利を詰めるためにローラーから降車し			

2015	8 ～ 14	た。降車の際にギヤをニュートラルにして降りようとしたところ、ギヤに体の一部が触れてしまいローラーが無人の状態で行進してしまつた。ローラーの約7m前方にいた現場監督は気が付かずに無人で行進して来たローラーにひかれた。	144	7	1～ 9
2015	4 ～ 21	20 道路舗装工事において、路面切削機の作業開始前点検中、油圧ホースから油漏れが確認されたため、ベルトコンベア部分を垂直に立てた状態で、運転手2名が油圧ホースの交換作業を行っていたところ、ベルトコンベア部分が機体側へ倒れ、1名は逃げたものの、被災者が機体との間に挟まれ被災したものの。なお、被災者は意識不明のまま病院で治療を受けていたが、死亡したものの。	149	7	10 ～ 29
2015	4 ～ 17	16 法面工事に使用したラス金網の余剰分(500kg)をドラグショベル(機体重量4.5t)の爪でつり上げ、工事現場内の重機用進入路(傾斜角18～30度)を前つりで走行(下り)していたところ、機体が前のめりに転倒し、運転席から投げ出された被災者がドラグショベルのアームの下敷きとなったものの。	141	2	50 ～ 99
2015	4 ～ 12	11 道路拡幅工事現場において、谷側垂直壁の基礎コンクリート(階段状)の型枠組立を被災労働者が行っていたところ、当該箇所は勾配が全体として45度であり、足を滑らせた等により斜面を約5m滑り落ちた。その際、腰に巻いていた道具袋に入っていた約20cmのボールが被災者の腹部に突き刺さり、肝臓を損傷し出血性ショックにより死亡したものの。	711	1	1～ 9
2015	5 ～ 1	0 高速自動車道舗装工事現場において、被災者が路肩のはつり状況を写真撮影していたところ、バックしてきたロードスーパースーパーに轢かれ、被災したものの。	169	7	10 ～ 29
2015	10 ～ 17	16 市発注の道路補修工事において、作業員4名が作業中、ドラグショベルのバケットの作業装置に先端がコの字状のつり上げ器具を取り付けて敷鉄板(1.5×3.0m、重量約700kg)をつり上げた際、つり上げ器具から鉄板が外れて、つり荷を押さえていた作業員に倒れかかり、大腿部を挟まれ死亡したものの。	372	6	1～ 9

2015	9	8	道路改良工事現場で、ドラグ・ショベル及び人力による砕石の敷均し作業中、ドラグ・ショベルを後進させたところ、ドラグショベルの後方で作業をしていた被災者を轢いたもの。	142	7	10 ～ 29
2015	11	0 ～ 1	港2号埠頭敷地内にある港湾道路の信号機のない交差点で、被災者の同僚が運転するライトバンが西に向かって走行中、交差点を北進してきた大型トラックが助手席に正面から衝突、ライトバンが20mほど引きずられた所で停止した。この交通事故により助手席に乗車していた被災者が、胸などを強く打ち2時間後に死亡した。	231	17	1～ 9
2015	9	17 ～ 18	高速道路建設工事に付帯する周辺道路の舗装工事において、作業場所から現場詰所までの下り坂間で右曲がりカーブの箇所にホイールローダが転倒し、当該ホイールローダのヘッドガードと地面の間に運転していた被災者の頭部が挟まれた状態で発見され、病院に運ばれたが約1時間後に死亡したものの。	141	2	10 ～ 29
2015	8	13 ～ 14	土砂崩壊により通行止めとなった県道の復旧のために、崩壊地上部の地山斜面上で、同僚と立木の伐木作業中、同僚が立木（杉。伐根直径約70cm）にワイヤロープを取り付けてチルホール（けん引具）で山側に引っ張り、被災者がチェーンソーで山側に受け口を作った後、追い口を切りこんでいたところ、当該立木が斜面横方法に倒れ、被災者が伐倒木の下敷きとなったもの。	712	6	10 ～ 29
2015	1	15 ～ 16	林道建設工事現場において、被災者が単独で走行集材機械（フォワーダ）を操作して伐木した原木を荷台へ積み込んでいたところ、操作盤上のバーとブームの間に頭部をはさまれ死亡したものの。	172	7	1～ 9
2015	2	10 ～ 11	町道の待避所を建設する道路改良工事において、移動式クレーン（16t吊りラフテレーンクレーン）を用いて、L型擁壁（PC製、重量3.6t）を吊り上げて旋回した後、移動式クレーンごと道路下（谷側）に転落し、運転席が車両の下敷きとなり、移動式クレーンを運転していた被災者が死亡した。	212	1	10 ～ 29
		14	農業用配管の移設作業のため、縦5メートル、横1.3メートル、深さ			10

2014	1	～ 15	1. 9メートルにわたり掘削した後、当該掘削箇所内で配管の取付作業を行っていたところ、側壁が土塊として崩れ落ち、被災者を直撃した。	711	5	～ 29
2014	2	5 ～ 6	夜間作業を終え、一人でトラックを運転して帰社する途中、道路脇の街路樹に衝突した。	221	17	10 ～ 29
2014	2	14 ～ 15	枯草を2 t ダンプを用いて収集作業中、下り坂に停車させていたダンプトラックが突然動き出し、これを止めようと運転席に乗り移ろうとした被災者（運転者）が、ダンプトラックが擁壁に接触した際、運転室とそのドアの間に胸を挟まれ窒息し死亡した。尚、エンジンは停止させていた。	221	7	30 ～ 49
2014	2	15 ～ 16	道路整備工事現場にて、ドラグショベルで砂利を敷均す作業中、被災者は、ドラグショベルの後方で、ドラグショベルの通った後の砂利をスコップで均していた。ドラグショベルは前進と後進を繰り返しながら整地し、後進してきたドラグショベルの後方約90cmの位置にいた被災者が轢かれた。	142	6	30 ～ 49
2014	4	11 ～ 12	林道地中の配水管の堆積砂利をかき出す作業現場にて、管内部で砂利をかき出していた際、前方より滞留していた水が流れ出し、管の外部で補助作業を行っていた被災者が、土砂とともに埋まっているのが発見された。	711	1	1～ 9
2014	4	11 ～ 12	振動ローラーで路面を転圧する作業中、振動ローラーと地山に挟まれた状態の被災者が発見された。	144	7	1～ 9
2014	4	13 ～ 14	アスファルト道路の路上再生路盤部をタイヤローラーで転圧作業中、被災者は後退してきたタイヤローラーの後輪に轢かれ、死亡した。	144	6	10 ～ 29
2014	4	10 ～ 11	重機で地山を掘削していたところ、地山の法面頂部付近にあった木根が落下し、斜面に沿って転がり、被災者に激突した。	142	4	1～ 9
		12	林道の山側法面にて、土砂をダンプトラックで搬出し、沢に向かって土砂			50

2014	5	～	を捨てようとしたところ、法肩から車両が転落。運転席キャビンがつぶ	221	1	～
		13	れ、内部の被災者が下敷きとなった。			99
2014	6	23				10
		～	ホテルの7階客室窓から、3階陸屋根部へ約10メートル墜落した。	418	1	～
		24				29
2014	6	15				10
		～	被災者が、工事の記録写真を撮影していたところ、アスファルトを固める	144	7	～
		16	ためのタイヤローラーがバックし、被災者を轢いた。			29
2014	6	8				30
		～	移動式クレーンで大型土のうをつり上げ、旋回させたところ、つり具の	372	4	～
		9	シャックルが破断し、被災者が落下した荷の下敷きになり死亡した。			49
2014	7	23				10
		～	土砂をベルトコンベアにより排出し、鉛直方向に固定したコルゲートパイ	419	4	～
		24	プを通し、約6m下方の床付面に設置したベルトコンベアに自然落下させ			29
			ていた際、コルゲートパイプに土砂が詰まり、被災者が詰まった土砂を取			
			り除いていたところ、コルゲートパイプが抜け落ち、被災者に激突した。			
2014	7	14				10
		～	道路建設工事にて、ブロックの敷設作業中、草刈作業を行っていたとこ	715	11	～
		15	ろ、熱中症により死亡した。			29
2014	7	6				10
		～	国道にて、貨物自動車を走行させカラーコーンを回収していた際、後方か	221	17	～
		7	ら走行してきた中型貨物自動車が追突し、荷台後方パワーゲート上にいた			29
			被災者らのはさまれた。1名が死亡し、1名が負傷した。			
2014	7	15				10
		～	法面整形する作業中、道路上にて、登坂の準備中、法面上方で落石崩壊が	711	5	～
		16	発生し、被災者に当たった。			29
2014	8	9				10
		～	道路補修工事現場にて、トラックを傾斜地に停車させていた際、トラック	221	7	～
		10	が斜面を下る方向に動き出し、トラック後方にいた被災者が後輪でひか			29
			れ、外傷性ショック及び肺挫傷により死亡した。			

2014	8	13 ～ 14	工事現場の資材置場にて、被災者がダンプの荷台と車体との間にはさまれているのを発見された。	221	7	1～ 9
2014	8	16 ～ 17	工事現場にて、舗装工事を行うために使用していたタイヤローラーに轢かれ、死亡にした。	144	7	30 ～ 49
2014	8	13 ～ 14	ブルドーザーを使い押土作業中、ブルドーザーから転落し、クローラに腹部を強打した。	141	3	50 ～ 99
2014	9	7 ～ 8	軽ワゴン車で林道を走行中、側溝へ脱輪し、停車しているワゴン車の下敷きになった状態の被災者が発見された。	231	17	10 ～ 29
2014	9	14 ～ 15	林道改良工事にて、沢の水を通すために埋まっていたヒューム管交換のため、掘削し、ヒューム管設置後に吐き出し口となる付近に設置する布団籠に石を詰める作業を複数名で行っていたところ、被災者が掛矢を持ち、掘削箇所に進入したところ、法面上部の土砂が崩壊し、埋まった。	711	5	10 ～ 29
2014	10	13 ～ 14	法面の立木の伐採を行うため、林道上にて、ドラグショベルを後進させたところ、林道路肩より3.5m下の沢にドラグショベルごと滑落。外傷性多発により死亡した。	141	1	10 ～ 29
2014	10	16 ～ 17	資材置き場にて、移動式クレーンを使用し、敷鉄板を移動させようと車体側方で吊り上げ、車体後方に向け旋回させたところ、移動式クレーンが吊り荷側に転倒し、トラックの荷台とキャビンの間で移動式クレーンを操作していた被災者がキャビンの下敷きとなった。	212	2	10 ～ 29
2014	10	12 ～ 13	法面に新しくモルタルを吹き付ける作業中、被災者は、作業に必要な親綱を設置する作業のため、吹き付け箇所上部の立木付近に親綱を置き、下へ降り始めたところ、足を滑らせ、斜面上を滑り落ち、道路に墜落した。	711	1	1～ 9
		22	被災者は、道路の反対側に停めてある社用車に乗ろうと道路を横断若しく			10

2014	11	23	は中央線の確認をしていたところ、下り車線を逆送してきた一般車両に激突された。	231	17	～ 29
2014	11	10 ～ 11	立木の伐倒作業中、被災者から叫び声がきこえたため、同僚が現場に赴くと、被災者が頭から血を流し、うずくまっていた。	712	6	1～ 9
2014	12	11 ～ 12	自動車道にて、被災者が同僚らと土砂の清掃作業の際、路肩規制を行おうとラバーコーンを設置しようとしていたところ、被災者が路肩規制を行っていた方向に侵入してきた普通乗用車にはねられ、死亡した。	231	6	1～ 9
2014	12	15 ～ 16	路面舗装作業中、ダンプトラック荷台後部をのぞき込んでいた被災者が、接近してきた車両系建設機械に挟まれた際、同僚が操作レバーを引いたところ、旋回体が走行体後方に向いていたため、操作レバーの方向と車体の進行方向が逆で、被災者が挟まれた。	142	7	1～ 9
2014	12	9 ～ 10	支障木の伐採作業中、ナラの木の幹の半分程度までチェーンソーで切断したところ、ナラの木上部の幹が裂け、倒壊。被災者が伐倒木の下敷きになった。	712	6	1～ 9
2013	7	11 ～ 12	被災者は、道路拡幅工事現場にて、ブレーカ（機体荷重5.15トン）を用いて法面の掘削作業中、当該ブレーカが作業道（勾配約30度）上で横転し、ブレーカの下敷きとなった。尚、被災者は、シートベルトを着用していなかった。	145	2	10 ～ 29
2013	10	11 ～ 12	市道改良工事現場で山側法面の掘削作業中、突出した支障岩を破碎薬を用いて破碎する際、バックホウを用いて飛散防止のため布製シートを岩に設置しようとしたところ、対象の岩の横でバックホウの運転手に指示を行っていた被災者に石（約50センチ四方）が転がってきて、石と一緒に約13メートル下の市道路面に転落した。	711	1	10 ～ 29
2013	1	10 ～ 11	仮設道路を設置する作業において、覆工板（重さ約370kg）をドラグ・ショベルを用いて覆工板を吊り上げ、4t積みダンプ・トラックの荷台に積み込んだ直後、既に荷台に積んであった覆工板が傾き、荷台にいた被災者がバランスを崩して地上に墜落したところに、積んだ直後の覆工板	611	4	50 ～ 99

			が落下し、被災者を直撃した。			
2013	4	15 ～ 16	拡幅された国道の舗装工事現場において、道路の片側一車線ずつを交通規制しながらアスファルト舗装を行っていたが、次のアスファルト合材運搬用ダンプカーが到着するまでの間、予め予定していた取合部の埋め戻し作業に取り掛かったところ、碎石を積んでいた最大積載量3トンのダンプカーを目的位置へ後進させた際、当該ダンプカーの後方で作業していた被災者が轢かれた。	221	7	50 ～ 99
2013	4	14 ～ 15	一般県道の道路改良工事現場において、車両系建設機械のアタッチメントを交換したブレーカーを用いて、のり面の岩石の破碎作業を行っていた際、破碎した岩石を均すため当該車両系建設機械を後退させたところ、当該機械の履帯（クローラー部）が滑り、バランスを崩し、当該機械とともに作業道から転落した。	711	1	1～ 9
2013	5	20 ～ 21	営業所にて事務作業を行っていたところ、被災者が腹背部の痛みを訴え、病院に救急搬送された。搬送中に意識不明・心肺停止状態となり、救急車内で救命処置、病院において救命治療が行われるも、死亡した。	921	90	10 ～ 29
2013	1	2 ～ 3	被災者は、営業所の2階の出張者が寝止まりできる宿泊部屋として利用されていた部屋に宿泊をしていた際、当該宿泊部屋から出火し、窒息、高度気道熱傷により死亡した。	719	16	10 ～ 29
2013	10	16 ～ 17	道路建設工事現場において、ブルドーザーを運転していた被災者は、ブルドーザーとともに路肩から約3.5m下の地面に転落し、ブルドーザーの下敷きとなった。	141	1	10 ～ 29
2013	1	13 ～ 14	林道を整形、舗装する工事現場において、幅員約3.5メートルの道路をタイヤローラーで走行中、路肩からタイヤローラーごと約3メートル下の谷藪に転落した。	144	1	10 ～ 29
2013	1	16 ～ 17	被災者は、チェーンソーを使用して立木の伐倒作業に従事していたが、木の切り株付近に倒れているところを、一緒に現場へ入場していた同僚によって発見された。	712	6	1～ 9

2013	7	16 ～ 17	被災者は、ハンドガイドローラーでジャリ道を舗装していたところ、後進していた4トンダンプトラックに激突、転倒した際、左後タイヤに頭をひかれた。	221	6	～ 29
2013	12	14 ～ 15	工事現場において、用水路に沿ったかたちの通学用歩道を整備するため、ミニショベルを用いて用水路脇を掘削していたところ、運転手がミニショベルとともに用水路（幅約2.5m、深さ約2.8m）に墜落した。	142	1	1～ 9
2013	9	10 ～ 11	資材置き場（砕石中間処理工場内）において、現場で使用する鉄板を運搬するため、ドラグショベルを使用し、鉄板1枚（800キログラム）をつり上げトラックに積み込み作業中、鉄板が落下し、被災者が下敷きになった。尚、ドラグショベルは用途外使用であった。	142	4	10 ～ 29
2013	12	6 ～ 7	被災者は、道路上で舗装工事後の片付けを行っていた。そこへ、警備員による一旦停止指示を無視した軽トラックに激突された。	231	17	1～ 9
2013	9	10 ～ 11	法面の吹きつけ作業を終了した現場において、吹きつけ作業で使用した親綱の撤去後、法面上部から林道に歩いて戻る途中、誤って約11メートル下の林道に墜落した。	711	1	10 ～ 29
2013	9	15 ～ 16	アンダーパス道路築造工事における、U字コンクリート擁壁築造工程での事故。コンクリート打設の終了した擁壁裏側の土砂埋戻し工程（裏込め）において、作業従事者のミニバックホーが後進したところ、土止め支保工水平材に激突し、運転手が水平材鉄骨と運転操作レバーに腹部を挟まれた（バックホーは180度回転状態で、挟まれた状態では後進操作が解除されなかった）。	142	3	50 ～ 99
2013	2	13 ～ 14	新設道路の側溝設置工事現場において、側溝の施工ミスが判明したために行っていた手直し作業中に、U字溝接続部のはつり作業を行っていた被災者が、後退してきたドラグショベルにひかれて即死した。	142	6	1～ 9
2013	7	13 ～	ドラグ・ショベルにて、ダンプに土砂の積み込み作業を行っていた。次のダンプが来る間に、セット場にいたドラグ・ショベルが何らかの原因で、横転し、さらに付近の路肩より約2メートル転落した。運転席が壊れ、被	142	1	1～ 9

		14	災者が死亡した。			
2013	8	14 ～ 15	舗装工事現場に向かう途中において発生した交通事故（単独）。被災者は、市道の舗装に使用するアスファルトフィニッシャーを運転し、仮置場から当該工事現場までの市道を走行していた。登り勾配8度の箇所に差し掛かったところで速度が低下してきたことから、ギアを高速側から低速側に切替えようとしたが、ギアが入らず中立状態となり、約20m後退して民家の土蔵に衝突し、当該機械と土蔵の壁に腹部から下を挟まれた。	149	17	10 ～ 29
2013	1	14 ～ 15	降雪のため工事現場に向かう林道が不通となったことから、同僚がトラクター・ショベルで雪かきを行っていたところ、被災者は雪かきを行っていた作業現場から少し離れた乗用車に向かって歩いている途中、アイスバーンとなっていた下り坂の道路で転倒し、頭部を負傷した。	417	2	10 ～ 29
2013	7	11 ～ 12	林道開設工事現場において、被災者は、地山整形した法面に設置された排水用U字溝内にたまった土石の排出作業を単独で行っていたところ、鋼製のU字溝内でL字アングルに前のめりにもたれ掛った状態で発見された。	418	2	10 ～ 29
2013	6	10 ～ 11	排水管設置のため地下排水溝の掘削砕石敷設作業中、掘削完了箇所に基礎砕石を投入するため、作業箇所にいた作業員が退避しようとしたところ、近接する切土法面が崩落し、被災者が土砂に巻き込まれた。	711	5	10 ～ 29
2013	7	5 ～ 6	被災者は夜間道路工事終了後、トラックで本社へ戻る途中、対向して来たタンクローリーと衝突した。	221	17	1～ 9
2013	12	16 ～ 17	道路維持工事完了後、同工事の規制標識撤去作業を行っていた。作業用車両2台が路肩車線に停車していたところへ、通り掛かった一般車両（3t積トラック）が追突した。衝撃で動いた車両と側壁との間に、車外にいた作業員1名が挟まれ、さらに高架下（高さ18m）へ墜落した。	221	17	10 ～ 29
2013	10	13 ～	函渠の建設工事にて、型枠解体工が作業床の端から墜落した。インターチェンジ工事の函渠にて発生。被災者は、支保工にて設置された作業床において、函渠の天井のケレン作業中に、高さ8.5mの作業床の端から墜	416	1	1～ 9

		14	落した。尚、当該現場はハイパーシステムと呼ばれる支保工を使用しており、水平材はカップロックにて固定する形式である。			
2013	8	8 ～ 9	被災者は、道路工事中に地中に埋まっていた既存のU字溝のフタ（6枚、計1.7）が見つかったため、トラック積載型クレーンにより発注者の資材置き場に運搬した。発注者より積卸場所の指定を受けた後、クレーンを旋回させたところ、車体が傾き、コンクリート製の資材との間に挟まれた。	212	2	10 ～ 29
2013	3	10 ～ 11	被災者は、ドラグショベルのバケットに入った生コンをスコップですくい取り、法面下の木枠に敷きならしていた。生コンを積んだダンプを、他の労働者が後退させようとした際、ダンプの荷台にスコップが立て掛けてあるのを発見したドラグショベルの運転手がこれを注意しようとしたところ、ドラグショベルの操作レバーに腕が接触し、アームが動いてバケット脇にいた被災者がバケットと土手の間に挟まれた。	142	6	1～ 9
2013	4	15 ～ 16	立坑の底部の調整のため、モルタルをバケツに入れ、積載型トラッククレーンで立坑下に下ろす際、被災者は立坑の端部に立ってリモコンでクレーンを運転していたが、荷が振れたので手で抑えようとして、立坑下に墜落した。	414	1	30 ～ 49
2013	9	13 ～ 14	道路の拡幅工事現場において、元請の作業員3名と1次下請の作業員4名、ほか作業員1名の合計8名により、既設のヒューム管補強のための型枠設置作業を行っていたところ、ヒューム管の南側の高さ約3メートルの地山（掘削により生じた掘削側面）が崩れ、被災者2名（元請1名、1次下請1名）が土砂に埋まり死亡した。	711	5	10 ～ 29
2013	9	13 ～ 14	道路の拡幅工事現場において、元請の作業員3名と1次下請の作業員4名、ほか作業員1名の合計8名により、既設のヒューム管補強のための型枠設置作業を行っていたところ、ヒューム管の南側の高さ約3メートルの地山（掘削により生じた掘削側面）が崩れ、被災者2名（元請1名、1次下請1名）が土砂に埋まり死亡した。	711	5	100 ～ 299
		10	道路舗装工事現場において、取付道路路盤施工で砂利の敷均し作業中、ド			50

2013	12	～	ラグショベル後方で作業をしていた被災者が、後進してきたドラグショベルと接触し足から腰部にかけて履帯に轢かれ死亡した。	142	6	～
		11				99
2013	11	～	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	711	5	100～
		15				299
2013	11	～	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	711	5	100～
		15				299
2013	11	～	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	711	5	100～
		15				299
2013	11	～	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	711	5	100～
		15				299
2013	11	～	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	711	5	100～
		15				299
2013	6	～	ライトバンを運転し国道を南進中、緩い右カーブで対向車線にはみ出し、北進してきたダンプトラックと衝突した。	231	17	10～
		11				29
2013	3	～	路上で交通事故による通行止めに伴う車両誘導作業をしていた被災者は、前からきた乗用車にはねられて全身を強く打ち、搬送先の病院で死亡した。	231	17	10～
		20				29
		21				

2013	7	14 ～ 15	被災者は、橋の補修工事現場において、橋の地覆コンクリートを解体する（斫る）作業を行っていたところ、橋の側面に沿って設置したつり足場が全長（約94m）にわたり崩れ、約8m下へ墜落した。	411	5	10 ～ 29
2013	7	14 ～ 15	被災者は、道路拡幅工事現場において、ドラグ・ショベル（機体重量5.5t、クレーンアタッチメント付つり上げ荷重1.7t）を用いて、敷き鉄板（重さ約1.5t）をつり上げ、アームを旋回させたところ、ドラグ・ショベルが転倒した。旋回場所が堤防のきわであったため、ドラグ・ショベルは約5m下の川へ屋根側から転落し、キャビンが潰されことから脱出できず溺水した（川の深さ、約0.3m）。	212	1	10 ～ 29
2013	6	11 ～ 12	ダンプトラック運転手が、現場内で砂利を積み、4トンダンプを約50m先の砂利を下す場所までバックさせていたが、衝撃を感じ停止し確認したところ、同ダンプトラックの左後輪に轢かれ倒れている被災者を発見した。	221	7	1～ 9
2012	7	8 ～ 9	道路建設工事において、盛土擁壁の端部で測量作業をしていた被災者は、約13.8m下の地面に墜落した。被災直後は意識もあり会話も行えたが、救急搬送中に意識が低下し心肺停止となり、搬送先の病院で死亡した。	418	1	10 ～ 29
2012	8	15 ～ 16	被災者は法面工事に使用したホースの巻き取り作業を行っていた際、同僚労働者が被災者に休憩の合図をしようとしたところ、被災者がふらついていたため、日陰に移動させ座らせた。しかし、意識がもうろうとした状態となり、救急搬送先の病院で熱中症と診断され、死亡した。なお、当日の最高気温は33.8度であった。	715	11	1～ 9
2012	10	9 ～ 10	被災者は住宅外溝工事にて、電動工具を用いて既存コンクリートの切断作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルにより損傷したガス配管から漏れて滞留していたプロパンガスに電動工具のモーター若しくはコンクリート部を切断している際の火花が着火源となって引火し、全身を火傷した。	513	11	10 ～ 29
2012	2	1 ～	被災者は道路舗装工事現場内の勾配約2度の路面上において、他の作業員3名と施工ジョイント部分への合材搬入作業を行っていたが、坂道上方に停	221	7	1～

	2	車していた無人の10 t ダンプ車が後退し始め、逃げ遅れた被災者は、左後輪に轢かれた。			9
2012	9	15 国道の新設工事において、ダンプトラックで搬入した砕石をドラグ・ショ ベル等の重機を用いて締め固めながら地面をかさ上げしていく作業中、砕 16 石を降ろす場所をダンプトラックに指示するため、被災者が締め固め作業 をしているドラグ・ショベルの後方に立ち入ったところ、後退してきたド ラグ・ショベルのクローラに轢かれた。	142	7	10 ～ 29
2012	10	13 貯水池モーター修繕工事にあたり、作業員4名がクレーン搬入路造成のため、法面に土嚢を積む作業を行っていた。コンクリート地面に土嚢を5段、 14 階段状に積み重ねた箇所（コンクリート地面からの高さ約4m）で、被災者がドラグショベルで運ばれた土砂を土嚢間に詰める作業を行っていたところ、誤ってバランスを崩してコンクリート地面まで転がり落ち、さらに約6 m下の貯水池に転落した。	419	1	1～ 9
2012	2	8 被災者は会社所有の軽乗用車を運転して現場へ向かっていたところ、対向 9 車線を走っていた軽乗用車に対向車線をはみ出してきたため、正面衝突し た。	231	17	1～ 9
2012	7	9 道路災害復旧工事において、2 t トラックに積込んだ間知ブロック（コンク 10 リート製、約40kg）をドラグ・ショベルにより降ろす作業中、荷台の上で 作業を行っていた被災者が転落し、救急搬送先の病院で死亡した。	221	1	1～ 9
2012	9	15 被災者はプレートランマーを使用して地表面の締め固め作業を行っていた 際、後進してきたドラグショベルに激突され、キャタピラ部分に轢かれ死 16 亡したもの。なお、ドラグショベルの運転手は無資格者であった。	142	6	10 ～ 29
2012	5	8 法面工事に伴う法面上部の立木伐採の際、当該立木がかかり木となったた 9 め、杉の小径木を用い「てこの原理」の要領で外していたところ、支点に なっていた箇所が外れた反動で、被災者は約40m下の道路上へ転落した。	711	1	1～ 9
2012	1	8 造成地内の道路設置工事において、車両系建設機械（0.25tドラグ・ショベ ル）を用いて砕石を敷き均す作業中、車両系建設機械後方でとんぼを使っ て砕石を均していた被災者が、後退してきた車両系建設機械に激突され死	142	6	1～ 9

		9	亡した。			
2012	3	14 ～ 15	被災者は高速道路建設工事現場にてドラグ・ショベルを運転し、法面に生えた木の根を伐根・集積する作業を幅約4mの地山等で行っていたところ、当該地山等が崩落し、ドラグ・ショベルごと約17m下の谷底に転落した。	142	1	10 ～ 29
2012	9	11 ～ 12	被災当日、被災者は解体された足場材を運ぶ作業を行っていた。被災者の体調が悪そうであったため、職長から昼休憩を早く取るように指示があり、被災者は単独で徒歩にて休憩所まで移動していたが、休憩所前でふらふらとよろめき、熱中症の疑いがあるとして病院に救急搬送されたが、搬送先の病院にて死亡した。	715	11	50 ～ 99
2012	1	13 ～ 14	道路開設工事現場において、10 t 積みダンプトラックが、丁張設置作業中の被災者と接触した。	221	6	10 ～ 29
2012	7	16 ～ 17	被災者は法面吹付け作業前のアンカー打設における試験掘り作業において、削孔機を操作して作業していたところ、飛散防止シートに自ら座り込んだ。他の作業員が熱中症の疑いがあると判断し、日陰に移動させ冷却剤で体を冷やし、スポーツドリンクを飲ませて様子を見たが、体調の回復が見られなかった。その後、救急車で病院へ搬送されたが、死亡が確認された。	715	11	1～ 9
2012	8	8 ～ 9	土場において、土のう（重さ1 t）をクレーン機能付きドラグショベルで10 t ダンプに積み込む作業中、当該ドラグショベルのオペレーターが、土のうを積む位置について被災者と話合おうと運転席から身を乗り出したところ、オペレーターが着用していた安全チョッキが旋回レバーに引っ掛かり、当該ドラグショベルが旋回した結果、荷台の上にはいた被災者が、動いた土嚢とトラックのあおりの間に挟まれた。	611	7	1～ 9
2012	6	11 ～ 12	約33度の傾斜地で、胸高直径約45cm、長さ約21mの立木を伐倒後、根元に掛けてあった跳ね防止ワイヤーを外して次の作業工程の準備作業を行っていたところ、伐倒木が突然滑り落ち被災者に激突した。	712	6	50 ～ 99

2012	11	10 ～ 11	立木の伐採作業中に、伐倒された樹木が当初予定していた抜倒方向を逸れ、伐倒木の枝払い、玉切り作業を行っていた被災者に激突した。なお、被災者は、被災直後は意識があり話すことも出来たが、救急搬送後の外傷性ショックにより死亡した。	712	6	1～ 9
2012	6	11 ～ 12	重機（ドラグ・ショベル）を積載したトレーラーで、山中の公道を走行中、迂回路から市道へ戻る合流地点で切り返しをしている際、道路脇斜面から落石があり、運転席部分の屋根を直撃し被災した。直撃した落石は、約60cm×約40cm×約30cmである。被災者は、レスキュー隊により救出されたが、救急搬送前に死亡が確認された。	711	5	30 ～ 49
2012	11	15 ～ 16	道路改良工事現場において、チェーンソーを使用し支障木の伐倒作業を行っていた被災者は、伐倒木（ナラ、胸高直径36cm、伐根直径41cm、樹高約14m、樹齢40～45年）の下敷きとなっているところを当該工事の現場代理人により発見された。	712	6	10 ～ 29
2012	10	18 ～ 19	ダムへの乗り入れ道路である県道の打換工事現場において、被災者を含む作業員3名が、車両の退避場所で、自動車のヘッドライトで照らしながら、約10m四方のブルーシートを折りたたんで片付ける作業を行っていたところ、被災者は退避場所の端の崖から、約60m下の沢に転落した。	711	1	10 ～ 29
2012	6	10 ～ 11	ダンプトラックに積まれたコンクリートの入ったベッセルを地上に降ろそうとドラグショベル（クレーン仕様）で吊り上げ旋回していたところ、ドラグショベルが傾き、荷物もろとも約3m下の斜面に転落した。その際、被災者は運転席から投げ出され、アームに上半身を挟まれ死亡した。また、近くにいた別の作業員は、ドラグショベルを避けようとして約3m下に墜落した。	142	1	10 ～ 29
2012	2	0 ～ 1	高架道路の補修作業において、高架下に設置されたパネル式つり足場の解体作業中、つり足場上で取り外された足場板（パネル）を高所作業車が設置してある箇所まで運搬する作業を行っていた被災者が、何らかの理由により取り外し中の足場板（パネル）上に乗ったため、足場板（パネル）の片側が脱落、約17m下の地面に墜落した。	411	1	1～ 9

2012	4	2 ～ 3	被災者は立体横断施設施工現場にて、横断デッキ下部の電気ケーブルを高所作業車を用いて手工具で寄せる作業を行っていたところ、横断デッキ（桁下）と高所作業車のバケットとの間に挟まれた。消防のレスキューが救出し、救急搬送したものの死亡が確認された。	146	7	1～ 9
2012	2	11 ～ 12	被災者を含む作業員2名が交差点付近で道路標示の貼付作業を行っていたところ、作業場所から約60m離れた道路上に被災者が駐車させた工事用車両が坂道を下ってきたため、車両を止めようと作業員2名で車の正面から止めに入ったが止められず、うち1名が車両にひかれて死亡した。	221	7	1～ 9
2012	7	13 ～ 14	被災者は資材置き場の屋根の点検を行うために、伸縮する移動ハシゴをたてかけて屋根上に上がったが、バランスを崩し地面に墜落した。	371	1	10 ～ 29
2012	6	5 ～ 6	業務多忙による過労により死亡した。	921	90	1～ 9
2012	11	8 ～ 9	道路災害復旧工事において、整地作業を行っていたドラグ・ショベルが進んだ際、当該ドラグ・ショベルの後方にいた被災者がキャタピラに轢かれ、死亡した。	142	7	1～ 9
2012	12	13 ～ 14	被災者は、路床の締固めを機械で転圧作業中、誤って約5m下に落下した。	144	1	10 ～ 29
2012	7	16 ～ 17	林道専用道の新設する工事において、ドラグショベルで地山を掘削し、2台の不整地運搬車で盛土箇所まで残土を運搬する作業を行っていた。被災者は、不整地運搬車の運転に従事し、もう1台の不整地運搬車とすれ違うため、運行経路の途中にある広い幅員が確保された沢側の待機場所で待機していたところ、10m下の沢に不整地運搬車とともに転落した。なお、路肩が崩壊した形跡は見当たらない。	227	1	10 ～ 29
2012	7	8	アスファルト切削機を重機仮置場から工事規制帯内へ搬入するため約50mほど自走させ、交差点で左折させようとした際、側方の歩道にある電柱脇	149	7	10 ～

		9	に立っていた被災者を左前輪で轢いた。			29
2012	11	14 ～ 15	自動車道の草刈り及び樹木剪定作業中、被災者が塵芥車の前方で草木の集積作業を行っていたところ、塵芥車の運転手が被災者に気付かずに塵芥車を前進させてしまい被災者が轢かれた。	221	7	30 ～ 49
2012	7	14 ～ 15	被災者は林内作業車を運転し、切り盛り土作業で発生した掘削土の運搬作業を行っていた。目的地に到着後、掘削土を降ろすため作業道で方向転換中、後進しすぎて林内作業車ごと約30m下まで斜度約45度の斜面を滑落し、横転している林内作業車から投げ出され、死亡した。	229	1	1～ 9
2012	10	16 ～ 17	林道の新設工事において、路面上をドラグショベルが後進しながら地均ししていたところ、同路面横の地山（高さ約1.8m）上を作業終了後の片付け作業のために歩行していた被災者を、ドラグショベルのキャタピラでひいてしまった。	142	7	50 ～ 99
2012	11	7 ～ 8	ダンプトラック（最大積載重量4t）を運転して道路工事現場に向かっていた被災者が、凍結路面でスリップしてカーブを曲がりきれずに路外に逸脱、横転し、車体と地面に挟まれて死亡した。	221	17	10 ～ 29
2012	12	10 ～ 11	改修中の歩道において、当日舗装を予定していた一帯を被災者を含む複数の労働者で養生用にかけていたブルーシートをはがす作業及び除雪作業を行っていたところ、舗装作業開始場所まで舗装用アスファルトの合材を運搬するべく後進してきたダンプトラックにより激突され、被災者が轢かれた。なお、当該トラックが後進する際、誘導者による誘導は行われていなかった。	221	6	1～ 9
2011	2	13 ～ 14	集水枡につながる排水用のコンクリート2次製品（U字溝）を敷設する作業において、コンクリート切断用器具（エンジンカッター）により同製品の切断作業を行っていた被災者が、首から血を流して倒れているところを同僚に発見された。被災者は首の左側に裂傷を負い、搬送先病院で治療を受けていたが約9時間後に死亡した。	169	8	1～ 9
		16	道路改良工事において、被災者が片付け作業を行っていたところ、移動式			30

2011	8	～	クレーン仕様（つり上げ荷重1.7 t）に切替え、ランマーをつり上げてきたドラグ・ショベルのクローラに激突され死亡したものの。	212	6	～
		17				49
2011	10	～	林道の開設工事において、被災者が地山斜面上部の幅40～60 cmの小道を移動中、バランスを崩し約14 m下の作業道上に転落した。地山斜面は先行伐採が完了していたが、掘削前の状態であり、斜面のこう配は62～72度であった。（被災から14時間半後、出血性ショックにより死亡した。）	711	1	～
		16				29
2011	10	～	林業用作業道開設工事において先行伐採を行っていたところ、支障木（40年生の椎（シイ））を伐倒する際、複数に分かれた幹が上方で癒着していたため、同僚も加わり二本の幹に受口を取り追い口に楔（クサビ）を入	712	6	～
		15	れていた時、幹が同時に倒れ始めたが、途中でそのうちの1本の倒れる方向が変わったために伐倒作業を行った作業員が下敷きとなった。			29
2011	6	～	道路拡張工事のため、立木の伐倒作業を3名で行っていた。高さ22.4 mの椎の木をチェーンソーで伐倒するため、チェーンソーで受け口を作り、チェーンソーを引き抜こうとしたところ、チェーンソーの歯が受け口	712	4	1～
		16	部分に挟まり抜けなくなった。そのため、被災者にチェーンソーを保持させて、別のチェーンソーで伐倒したところ、椎の木がバウンドして根元部分が山側に流れ、被災者が椎の木の下の敷きになって死亡した。			9
2011	2	～	崩落箇所の補修工事において、被災者はロリップ安全帯を使用してモリタル吹き付け作業に従事していた。原料が切れたため吹き付け機の操作を行っていた者が、約30分かけて原料の補充を行い、作業場所の上に戻る	921	1	1～
		15	に被災者の姿が見えず、辺りを見たところ崖下の川に浮いている被災者を発見した。作業場上部の道路上には被災者の安全帯とロリップが別々に置かれていた。			9
2011	10	～	トンネル舗装工事現場において、転圧作業を行っていたタイヤローラが、	144	7	1～
		15	砕石を運搬してきたダンプトラックを通すため、後進で進路を変えた際、付近でトンネル床盤端をスコップで砕石のならし作業をしていた労働者を轢いたもの。			9

2011	11	10 ～ 11	農道整備工事において、掘削途中の小段（高さ2m・幅員4m）に置いていたブレーカが丁張作業の邪魔になると思った被災者は、下段に移動させるため、当該ブレーカを運転し、小段の法面をはつっていたところ、機体後方からバランスを崩して、法面（傾斜26～38度）をゆっくり横転しながら滑落した。被災者は運転席の扉を開いたまま運転していたため、運転席から放り出され、キャビンと地面に頭部を挟まれ死亡した。	145	2	30 ～ 49
2011	4	11 ～ 12	被災者は、車両系建設機械を使用して、前日の掘削残土が仮置きされている土止め鉄板部の土砂を掻き出し、残土搬出場所である斜面下方へ落とす作業に従事していたが、当該作業箇所から前方にある斜面から当該機械と共に転落しているところを、別の作業員が目撃したもの。	142	1	10 ～ 29
2011	10	14 ～ 15	道路の土砂崩れしている箇所の改修工事において、災害発生当日の午前中に改修工事が終了し、午後から後片付けのため林道内に置いていた原付バイクを林道入口の重機置き場まで運んでいる最中に、林道横の崖から転落し、その後ヘリコプターで救出され病院に搬送されたが、脳挫傷により死亡したもの。	711	1	1～ 9
2011	3	3 ～ 4	道路ジョイント部の舗装修繕工事現場において舗装修繕作業を管理していた被災者が、施工箇所から約750メートル離れた別の施工箇所を見に行くためバイパス側道を徒歩で移動していたところ、約450メートル移動した地点で心停止し倒れたもの。	921	90	
2011	1	9 ～ 10	被災者は、おごえ川流末整備工事での排水を河川へ流す吐き出し口のコンクリート擁壁（1.9×2.0×0.45m 重量約3t 傾斜角63度）の製作において、コンクリート打設後の養生を終え、型枠の脱型作業を行っていたところ、当該擁壁が倒れ、その下敷きとなり被災したもの。	418	5	50 ～ 99
2011	9	14 ～ 15	台風の影響により荒廃した治山工食用道路の復旧作業を、他の作業員と別れ一人でトラクター・ショベルを運転して行っていた被災者が行方不明となったため、同僚らが搜索したところ路肩から約35m下の崖の中腹に被災者が倒れていた。トラクター・ショベルは更に下方の沢に転落していた。現場の状況からトラクター・ショベルが路肩を乗り越え、勾配48度の崖	141	1	30 ～ 49

			を転落し、被災者が途中で運転室から投げ出されたものと推測される。			
2011	9	18 ～ 19	同僚が台風の影響により荒廃した治山工食用道路の復旧作業中に、トラクター・ショベルごと路肩を乗り越え崖に転落した事故を自宅にいた被災者が、同じ会社に勤める妻からの連絡により知り、現場に駆けつけて、既に亡くなっていた同僚の搬出作業が消防署の職員等により行われている中、現場付近の当該工食用道路路肩から44度の勾配の斜面を下りて行ったところ、約2m降りたところで転倒し、そのまま崖下に転落した。	711	1	30 ～ 49
2011	10	15 ～ 16	被災者は、現場打ちコンクリート杭用の鉄筋籠（直径2.5m、長さ7mの円筒形、重量2.3トン）のボルト止めされた主筋（鉄筋籠は、補強リング、主筋、フープ筋の3つの部材で構成）の取り外し作業を行っていた。66本の主筋のうち20本が完全に取り外されている状態で、鉄筋籠を回転させようとしたところ、鉄筋籠が被災者のいた方向に転がり、転がった鉄筋籠と隣にあった別の鉄筋籠との間に頭部を挟まれ脳挫傷により死亡。	521	7	30 ～ 49
2011	11	14 ～ 15	道路新設工事において、ドラグショベルで掘削した土砂を運搬するため、被災者は土砂を積んだ不整地運搬車を運転し工食用道路を下っていたところ、路肩から不整地運搬車ごと約8m下へ転落し、死亡した。	227	1	30 ～ 49
2011	4	15 ～ 16	被災者は同僚1名と共に一般道から田んぼへ農耕機械を入れるための農道（道幅約2m）に碎石を敷く作業を行っていた。農道へドラグショベル（機体幅約2m）を入れて作業を行っていたが作業場所を変えるため移動しようとドラグショベルを後退させたところ、路肩からドラグショベルごと約5m下の田んぼに転落し、当該ドラグショベルの下敷きとなったものの。	142	1	1～ 9
2011	6	14 ～ 15	保養所の施設改修（側溝の補修）工事において、エンジンをかけたまま停車していた貨物自動車（2tダンプ）の運転者が運転席の外からエンジンを停止させたところ、貨物自動車が後方に逸走し、貨物自動車の後方で作業していた被災者がひかれたもの。サイドブレーキはかけられていなかった。貨物自動車には坂道発進補助装置が搭載されてたためエンジンが起動	221	6	1～ 9

			している状態では逸走しなかった。			
2011	1	8 ～ 9	トラックでドラグショベルを移送し、移送先でトラックの荷台後方に2枚の道板を掛けてドラグショベルを降ろそうとした。被災者は、道板の上を走行させながらドラグショベル降ろしていたところ、片側の道板が荷台から外れ、ドラグショベルと共に転落した。なお、被災者は災害発生後、意識不明の状態が続いていたものであるが、7月22日、入院先の病院で亡くなったものである。	416	1	10 ～ 29
2011	3	8 ～ 9	被災者は夜間道路工事の現場監督補助業務をしていたが、前夜9時頃から待機している間に現場付近の路上に会社の車を止め、車内でPCを用い書類を作成していた。PCは資材置き場にあった発電機を車内に持ち込んで電源をとって使用していた。次の日朝、8時20分頃上司が確認しに行ったところ、車内で心肺停止の状態にいる被災者を発見した。車内換気については助手席の窓ガラスのみが10cmぐらい開いていた。	514	12	10 ～ 29
2011	8	15 ～ 16	舗装修繕工事現場において、プレートコンパクター（小型締め固め振動機）を使用して舗装の継ぎ目（始端及び終端）部分の予備転圧作業を行っていた被災者が、予備転圧する際にプレートコンパクターとアスファルト舗装面との間に入れる敷板を手を持って次の施工箇所に移動中、後退してきたコンバインド振動ローラー（前輪がローラー、後輪がゴムタイヤである締め固め用の車両系建設機械、重量3.6トン）に轢かれ、死亡したものの。	144	7	10 ～ 29
2011	12	9 ～ 10	森林管理道開設工事現場において、山側斜面補強のためのコンクリート擁壁を設置するため、元請現場代理人及び下請作業員3名の計4名により、前日までに掘削した掘削溝でコンクリート壁の設置作業を行っていたところ、山側法面が高さ約12メートル、幅約13メートルにわたって崩壊し、掘削溝内（深さ約2メートル）で作業をしていた3名が土砂に生き埋めになったもの。	711	5	10 ～ 29
		13	被災者は、歩道側の縁石に「墨出し」をした後、墨の付き具合を見るため屈んでいたところ、路盤を掘削していたバケット容量0.1立方メートル			1～

2011	8	～ 14	のドラグショベルが後退してきて、轢かれて、7時間30分後に病院で死亡した。	142	7	9
2011	1	10 ～ 11	バックホウ位置よりも低く死角となる箇所の函渠の埋戻し作業において、埋戻しの土量及び他の作業員がいないことを確認した後、バックホウで埋戻しの土砂を3m以上の高さから投入する作業を開始したところ、被災者がなんらかの作業で立入り、埋め戻しの土砂に埋まり死亡した。	142	4	50 ～ 99
2011	2	17 ～ 18	被災者ほか2名がロータリー除雪自動車を使用して農道の除雪業務を行い、業務終了後、被災者が農道を走行するロータリー除雪自動車の右側に沿って、積雪50cm程度の雪上を歩行していたところ、当該車両の下に滑落し、轢かれた。	149	17	10 ～ 29
2011	5	13 ～ 14	道路舗装工事中の路肩に2段積みで仮置きしていたガードレール部材（1束20枚、長さ約4.3m、重量約1.3トン）を車両積載形トラッククレーン荷台に積込み作業中、玉掛け作業に従事していた被災者は、上段の同部材を玉掛けしようとした際、同部材が崩れ落ち、同部材とともに法面（法長約6m、直高約3.5m、勾配約35度）を転落し、同部材と工事用道路面に頭部を挟まれた。	521	1	1～ 9
2010	12	9 ～ 10	林道開設工事において、伐木作業を行っていた被災者は、同僚がチェーンソーを用いて倒した伐倒木（カラマツ、高さ22.4m、胸高直径24cm）の下敷きになり、死亡したものの。伐倒前の確認・合図が不十分であった。	712	6	10 ～ 29
2010	12	10 ～ 11	道路高架橋の橋脚工事における鉄筋組み立て作業において、移動式クレーンにより、異形鉄筋（長さ12m、径5cm、重量190kg）4本を補助つり具及びベルトスリング（ナイロン製）を用いてつり上げたところ、その内の1本のベルトスリングが補助つり具のフックから抜け、異形鉄筋が落下し、玉掛者である被災者に当たったもの。補助つり具は、鉄筋5本を別々につることができるようになっていた。	372	4	10 ～ 29
		23	空港内の滑走路路上において、アスファルトフィニッシャーのスクリューを			10

2010	12	～ 24	動かしながら噴霧器で軽油（アスファルト材の固着を防止するためのもの）を吹き付けていた被災者が、同スクリーンの隙間に衣服等が入ったために上半身を巻き込まれ、死亡したものの。	149	7	～ 29
2010	11	～ 11	タイヤローラーで道路舗装作業中、道路長20m、片側幅3.0mの範囲でアスファルトの仕上転圧を行っていたところ、被災者が転圧領域に立ち入って道路中央部に敷いてあった敷居角材を取り外していた際、後退してきたタイヤローラーに下半身を轢かれ死亡した。	144	7	1～ 9
2010	10	～ 15	堤防道路から河川敷に降りる道路の一部（約26平方m）の舗装工事において、アスファルトを機体重量3.6tのローラーで締め固めている際、路肩に寄りすぎたため、運転手がローラーと共に約3m転落し、運転手がローラーの下敷きになったもの。	144	1	1～ 9
2010	9	～ 9	道路舗装工事現場で、砂をいれたフレコンバックをドラグショベル（機体重量2.45t）で吊り上げ運搬中、高さ2.6m下の海岸にドラグショベルが転落し、ドラグショベルを運転していた被災者がドラグショベルの下敷きとなり、死亡したものである。	142	1	1～ 9
2010	8	～ 17	被災者は林道開設工事において、ドラグショベルを使用した掘削作業に従事していた。掘削する箇所へ向かい斜面を登っている途中に路肩が崩れ、重機ごと20m下の溪流へ転落した。運転手は運転席の中で全身を強く打ち死亡した。	141	1	30 ～ 49
2010	8	～ 12	道路修繕工事で、炎天下で一輪車でコンクリートを運搬していた被災者が昼前に行方不明となり、付近を捜索していたところ、現場から離れた民有地の物置の陰にあおむけに倒れている被災者を発見し、救急搬送されたが熱中症により死亡したものの。	715	11	1～ 9
2010	8	～ 17	林道建設予定地の山林を測量中の作業員が移動中に、体勢のバランスを崩す又は足を滑らす等により、斜度45度から60度の斜面を約30m滑落し、頭部等を強打し死亡したものの。	711	1	30 ～ 49
2010	7	～	災害復旧工事用の仮設道路建設のため、ブレーカにて法面の浮石を破碎中に、浮石が滑落し、ブレーカのキャビンに飛び込み、運転していた被災者	711	4	50 ～

		12	の足に激突した。その後、病院に搬送されたが6日後に死亡したもの。			99
2010	7	9 ～ 10	林道工事における床掘りの測量（丁張り）作業中、背後の山側の地山が崩壊し、岩盤の一部が被災者に激突し、病院に搬送中、死亡したもの。	711	5	10 ～ 29
2010	7	13 ～ 14	被災者他1名で、情報ケーブルを埋設するためのコンクリート製のマス（約2.4t）を積載型移動式クレーン（定格荷重が2.9t）でつり上げ作業中、移動式クレーンが転倒しそうになったため、被災者らは移動式クレーンの荷台をドラグショベルのバケットで抑えた後、作業に戻ろうとした際、移動式クレーンが転倒し、被災者は移動式クレーンとガードレールの間にはさまれた。	212	7	10 ～ 29
2010	7	9 ～ 10	道路側溝整備工事のため、民家のコンクリート壁（高さ約2m、厚さ約30cm）の下で、道路側溝部分の床堀作業を労働者5名で行っていたところ、コンクリート壁裏の土砂ごと長さ約10mにわたって崩れてコンクリート壁が倒壊し、労働者2名がコンクリート壁の下敷きとなり、搬送先の病院で死亡が確認されたもの。なお、現場代理人の話では、床堀は深さ60cm、幅80cm、コンクリート壁の根入れは20cmであったとのこと。	418	5	1～ 9
2010	7	9 ～ 10	道路側溝整備工事のため、民家のコンクリート壁（高さ約2m、厚さ約30cm）の下で、道路側溝部分の床堀作業を労働者5名で行っていたところ、コンクリート壁裏の土砂ごと長さ約10mにわたって崩れてコンクリート壁が倒壊し、労働者2名がコンクリート壁の下敷きとなり、搬送先の病院で死亡が確認されたもの。なお、現場代理人の話では、床堀は深さ60cm、幅80cm、コンクリート壁の根入れは20cmであったとのこと。	418	5	1～ 9
2010	6	15 ～	被災者は道路の舗装工事が終了し、作業場所近くの通行止めの範囲に駐車していた4tダンプトラックに、舗装定規（角材）を積み込む作業をしていた。当該ダンプの後方に、作業を終えた締固め用機械（コンバインドローラー、3.6t）を、回送車の現場到着まで待機させようと別の労働	144	6	30 ～

		16	者が移動してきて機械を一旦停止させた。しかし、完全に停止していないことに気が付き停止させようとした際、機械の操作を誤り、締固め用機械が被災者に激突したものの。			49
2010	5	14 ～ 15	被災者が1人で、ドラグ・ショベルを使用して、作業道（幅員約4.5 m）の開設のため、掘削及び立木の取り除き作業をしていたところ、路肩が崩れ、ドラグ・ショベルとともに約30 m下の既設林道まで転落し、立木の中に身体を挟まれた状態で発見されたもの。	142	1	1～ 9
2010	5	10 ～ 11	ポケット式落石防止ネットの設置工事において、法面にアンカーを打つ位置をマーキングする作業中に、滑落した。被災者は、6日後に死亡した。安全帯等を使用していなかった。	711	1	10 ～ 29
2010	4	10 ～ 11	都市高速道路の橋脚上端付近で橋桁連結部分の錆び取り及び補修作業を終え、現場から離れようとしたところ、2次下請会社の労働者が約9 m下の川に墜落したもの。病院に搬送されたが、死亡が確認された。	418	1	10 ～ 29
2010	3	13 ～ 14	道路舗装工事現場において、被災者は舗装が終了した路肩部の土を締め固めするため、ローラー（ハンドガイド式）を操作していたところ、ローラーが進路から外れて、高さ約1.5 mの水田に転落し、その下敷きとなった。	144	1	10 ～ 29
2010	3	20 ～ 21	林道において、被災者が運転する10 t ダンプトラック車（横幅約2.5 m）が残土の置き場から掘削現場に戻る途中、林道（道幅4 m）の路肩から約50 m下の谷底の川に転落し、被災者は溺死した。	221	17	10 ～ 29
2010	2	9 ～ 10	被災者はブレーカ（機体総重量1.5 t）による法面の掘削作業終了後、測量作業を行おうとした際、同ブレーカが測量作業の妨げとなっていたため走行させていた。その際、移動場所が傾斜地であったこと及びブレーカのアームがやや左方向（車両が不安定な向き）となっていたことからバランスを崩してブレーカが転倒した。被災者は運転席から投げ出され、ブレーカの運転席ヘッドガード右側にある支柱の下敷きとなった。	145	2	1～ 9
		22	道路舗装工事のためのアスファルト路面剥ぎ取り作業準備のため、道路内			

2010	2	23	でスプレーによるマーキングを行っていた労働者（現場代理人）が、後退してきたダンプトラックの左後輪に轢かれ即死した。災害発生当時は、工事のため作業現場の道路は通行止めとしていた。	221	7	1～9
2010	2	13～14	バックホーを移送し、移送先の現場でユニック車の荷台から被災者が運転してバックホーを降ろす際、ユニックのアウトリガーを上げてユニック車全体を傾け、下り坂道路の地面にバケットをついて機体を動かそうとしていた時に、バックホーのバランスが崩れて荷台から滑り落ち、さらに道路の法面を転落して運転席から放り出され、機体に激突され死亡した。	142	1	1～9
2010	2	10～11	国道（片側1車線）の中央分離帯で測量を行っていたところ、通行車両の乗用車が運転操作を誤り、車線を外れて被災者に激突したもの。	231	17	10～29
2010	2	13～14	道路新設工事において、クレーン仕様のドラグ・ショベル（吊上荷重2.9 t）を用いて、車道の脇にコンクリート2次製品（0.63 t）を設置する作業中、同製品を吊り上げた時にドラグ・ショベルの上部旋回体が突然、右旋回して、同製品に玉掛けをした被災者に激突したもの。	212	6	10～29
2010	1	14～15	築堤の舗装工事現場において、アスファルトフィニッシャーを使用して道路舗装作業中、被災者は合材敷き均し作業開始前で合材待ちのため待機していたところ、合材を横方向に掻き出すスクリュウにうつ伏せの状態で巻き込まれ、スクリュウと地面との間に胸部を挟まれた状態で発見された。直ちにドクターヘリで病院に搬送されたが15日後に死亡したものである。	149	7	10～29
2010	1	10～11	県道新設工事現場において、大型ダンプトラックから降ろされた土砂の転圧作業を行うため、タイヤローラーを運転し転圧を行っていたところ、2度目の後退時にタイヤローラーを法肩に寄せすぎたため、タイヤローラーのバランスが崩れ、タイヤローラーとともに、法肩から転落した。また、被災者はタイヤローラー運転に関する特別教育は受けていなかった。	144	1	1～9
		9	被災者は、可搬式エンジンカッター（研削盤）を使用して、U字型溝（コンクリート製、長さ2 m、幅86 cm、厚さ最大約14 cm）を所定の長			10

2010	1	～ 10	さに切断作業中、しゃがんだ状態でカッターの刃を上向きにして切断を行ったところ、刃が反発して跳ね返り、被災者の首に当たったもの。	169	8	～ 29
2009	9	～ 12	高規格道路新設工事における施工区域の立木の伐採作業中、被災者が雑木の除去等の作業を行っていたところ、同僚が伐倒した杉（樹令50年の杉：樹高27.4m、胸高直径44cm）が、被災者に激突した。	712	6	～ 99
2009	2	14 ～ 15	橋台の築造工事において、でき上がった橋台の横で、ドラグ・ショベルのバケットに入れた生コンをシャベルですくって石積みの裏込めコンクリートを打設していたところ、ドラグ・ショベルのバケットと橋台の間にはさまれた。	142	7	1～ 9
2009	2	9 ～ 10	林道整備事業にて、大型トラックで土砂運搬中、搬入場所手前で方向転換の際、トラックごと転落した。	221	17	～ 29
2009	5	11 ～ 12	自動車道のジャンクション新設工事に伴う延長300m、幅員8m（片側車線の幅員4m）のアスファルト舗装作業において、当該路上に居た被災者が、移動のため時速約20km/hでバックしてきた4tトラック（積載形トラッククレーン）にひかれた。	221	7	～ 29
2009	12	12 ～ 13	道路拡幅工事において、被災者はタイヤローラーを事業場の保管場所から工事現場まで公道を運転して移送作業を行っていたところ、現場直前の右カーブ（アスファルト舗装、道幅4.5m、R=20m、約8度の下り勾配）で車体がバランスを崩して横転し、被災者がその車の下敷きとなった。	144	2	1～ 9
2009	3	9 ～ 10	道路建設計画地の山林現場において、皆伐作業中、被災者が、斜面（傾斜約45度）に対し約90度で立っていたナラの立木（樹高約17.5m、胸高直径約60cm）を伐倒するため、チェーンソーを使用して、谷側から受け口を入れ、山側から追い切りを始めたところ、当該立木が幹の途中で裂けるように折れて、被災者がその幹の根側の下敷きになった。	712	6	～ 49
2009	6	～ 14	被災者が、系列会社の採石場内にある産廃施設でコンクリートと金網の分別作業を行っていたところ、碎石を運搬してきた採石場のトラクター・	141	7	～ 10

		15	ショベルにひかれた。			29
2009	8	23 ～ 24	台風の接近に伴い、掘削した地山の監視のため現場事務所に3人で当直勤務をしていた。事務所前の川が増水し事務所が冠水したため国道にある道の駅に避難しようとしたところ、冠水した川付近の県道で被災者が運転する軽トラックのエンジンが止まり、冠水した県道で立ち往生し軽トラックごと川に流された。翌日被災者は流された位置から500m離れた田圃の中で発見された。	719	10	1～ 9
2009	6	14 ～ 15	アスファルトガラを処分するため、3tダンプでアスファルト混合所に入場し、所定の場所へアスファルトガラを搬出後、被災者がダンプから降りて荷台後方で作業していたところ、混合所場内でガラ等の整理作業をしていたトラクター・ショベルがバックしてきて、ダンプ荷台とトラクター・ショベル後部との間にはさまれた。	141	6	1～ 9
2009	9	14 ～ 15	被災者は、作業員Aと2人でボックスカルバート内部への土砂の進入を防ぐため、出入口を鉄板（縦3m、横1.5m、重量800kg）で塞ぐ作業を行っていた。作業員Aがドラグ・ショベルを操作して、鉄板をワイヤロープでつり下ろし、被災者が鉄板を支える木板を取り付けワイヤロープを鉄板から外そうとしたところ、鉄板が被災者の方に倒れ、鉄板とトン袋（土嚢）の間にはさまれた。	419	5	1～ 9
2009	11	10 ～ 11	舗装補修工事のため、路面切削機（重機）で道路を切削した。路面切削機を移動させるため、一旦後進したが、カラーコーンに当りそうになったため、前進した。そのとき、路面切削機の右前タイヤ付近で、竹ぼうきで道路を掃く作業をしていた被災者が、右前タイヤでひかれた。	149	7	30 ～ 49
2009	5	12 ～ 13	道路上に災害発生当日午前落石が発生、道路復旧のため、既存の落石防護ネットの端からネットのない部分に防護ネットを張る作業にあたった5人のうち、1人が落石に巻き込まれ死亡した。当時、人の頭大の石約20個が落石しており、落石発生元は被災場所上方約80mに位置する古道の石垣等である。	711	5	10 ～ 29
			祭りの片付け作業（神社境内入口に立てたのぼり旗の撤去作業）におい			

2009	5	14 ～ 15	て、ホイールクレーン（つり上げ荷重26t）を使い、のぼり旗木製支柱を倒そうとしたところ、クレーンジブ先端にのぼり旗が引っ掛かったため、クレーン運転手がジブ（傾斜約51度）を上ったところ、高さ約11m付近のクレーンジブから墜落した。	212	1	1～ 9
2009	3	14 ～ 15	市道改良工事における側溝基礎工事の準備作業が終了したため、側溝から出ようとしたところ、市道と民地境の斜面に沿って設けられていたコンクリート製の壁（L12.5m、H80cm、D13～28cm）が突然崩れ落ち、その下敷きとなった。	418	5	10 ～ 29
2009	12	13 ～ 14	自社の資材置き場において、被災者とドラグ・ショベル運転者2人で、パイパスの構造物工事で使用する鉄板（重さ約1.6t）4枚を、ドラグ・ショベルにてつり上げてトラック荷台へ積む作業を行っていた。1枚目の鉄板をトラック荷台に置いたところ、鉄板が荷台からはみ出したため、再度ドラグ・ショベルにてつり上げて荷台に置いたところ、鉄板に掛けてあった玉掛け用フックが外れて、被災者に激突した。	142	5	30 ～ 49
2009	10	9 ～ 10	傷んだ県道の舗装を補修する作業中に、被災者が工事箇所の終点を確認するため、その終点箇所に行った際、元請作業者が運転するドラグ・ショベルが後進し、被災者はドラグ・ショベルにひかれた。	142	7	10 ～ 29
2009	10	12 ～ 13	駐車場新設工事において、被災者はスタビライザー（路盤用機械）を運転して地面に散布したセメントを混合する作業を行っていたが、機体のロータとロータ部分を覆うカバーの間に石がはさまったため、機械を停止させて運転席後方よりカバー内に入り、石を取り除く作業を行っていたところ、カバーが落下し、はさまれた。	149	7	30 ～ 49
2009	11	8 ～ 9	県災害防止工事（法面工）において、老朽化した既設モルタル吹付面の取壊し作業のため、安全帯を取り付けるための親綱を法面上部の立ち木に取り付ける作業中、約18m墜落した。	711	1	10 ～ 29
2009	2	16 ～ 17	被災者は、道路補修工事のため通行規制のカラーコーン等設置作業終了直後に、傍で起きた交通事故車両にはねられた。	231	17	1～ 9

2009	6	9 ～ 10	高速道インター出口付近を中心に約1.5kmにわたって走行車線に規制をかけ、走行車線の路面改修工事を行っていたところ、追越車線を走行して来た4tトラックが、インター出口付近の走行車線で作業をしていた作業員11人、警備員1人、現場代理人1人の集団に突っ込み、4人が即死、2人が負傷した。	221	17	1～ 9
2009	6	9 ～ 10	高速道インター出口付近を中心に約1.5kmにわたって走行車線に規制をかけ、走行車線の路面改修工事を行っていたところ、追越車線を走行して来た4tトラックが、インター出口付近の走行車線で作業をしていた作業員11人、警備員1人、現場代理人1人の集団に突っ込み、4人が即死、2人が負傷した。	221	17	1～ 9
2009	6	9 ～ 10	高速道インター出口付近を中心に約1.5kmにわたって走行車線に規制をかけ、走行車線の路面改修工事を行っていたところ、追越車線を走行して来た4tトラックが、インター出口付近の走行車線で作業をしていた作業員11人、警備員1人、現場代理人1人の集団に突っ込み、4人が即死、2人が負傷した。	221	17	30 ～ 49
2009	6	9 ～ 10	高速道インター出口付近を中心に約1.5kmにわたって走行車線に規制をかけ、走行車線の路面改修工事を行っていたところ、追越車線を走行して来た4tトラックが、インター出口付近の走行車線で作業をしていた作業員11人、警備員1人、現場代理人1人の集団に突っ込み、4人が即死、2人が負傷した。	221	17	30 ～ 49
2009	2	16 ～ 17	道路改良工事現場において、ドラグ・ショベルを台車に載せて移動する作業中、道板を使用せずにバケットを支えにしてドラグ・ショベルの機体を浮かせて台車に載せようとしたところ、ドラグ・ショベルが台車荷台より転落、そのまま法面を下り、法面下で作業をしていた作業員が下敷きとなった。	142	6	1～ 9
		14	クレーン機能を備えたドラグ・ショベルで、鉄板（重量約1.5t）をダンプトラックの荷台へ積み込む作業中、つり上げた鉄板を荷台に降ろそうとしたところ、鉄板が荷台からはみ出していた。このため、鉄板の位置を調整			30

2009	12	～ 15	しようとドラグ・ショベルを旋回させたところ、鉄板がダンプトラックの あおりに激突し、そのはずみでつりチェーンのフックから鉄板が外れ、玉 掛けをした被災者に落下した。	212	4	～ 49
2008	6	～ 12	市道の側溝整備工事において、被災者はドラグ・ショベルでダンプの荷台 上のモルタル用の砂をほぐす作業を行っていた。作業終了後、居合わせた 警備員にダンプを前進させるように依頼した。ところが、誤って後退させ てしまったため、ドラグ・ショベルから降りてダンプとの間にいた被災者 がはさまれて死亡した。	221	7	～ 29
2008	7	～ 20	10tダンプで橋梁下部工事現場へ土砂の運搬作業を行っていた。作業終了 後、会社事務所へ戻る途中の県道トンネル付近の見通しの悪い左急カーブ で被災者が運転していたダンプが道路から約50m下の谷へ転落した。	221	17	～ 99
2008	2	～ 15	道路災害復旧工事において、道路下の河川に護岸のために河床から擁壁を 築造していた。基礎のコンクリート打設した部分の上に型枠を組み、2日前 にコンクリートを打設した高さ1～2m、長さ18m、厚さ40cm、総重量約 14tの擁壁の裏側の型枠を3名で解体していたとき、擁壁全体が突然倒れ た。この際、1名が身体をはさまれ死亡し、他2名は脱出中に負傷した。倒 れた擁壁と基礎部分の接合面は綺麗にはがれていた。	418	5	1～ 9
2008	3	～ 10	9 林道の建設現場で後退してきたドラグ・ショベルにひかれた。	142	7	～ 49
2008	12	～ 10	9 被災者は、歩道の舗装作業で使用する小型フィニッシャーの使用前点検を 行っていたところ、被災者の後ろから後進してきたトラック（4t）と小型 フィニッシャーにはさまれた。	221	7	～ 29
2008	8	～ 12	導水管敷設の際、ドラグ・ショベルで管の荷降ろしするため被災者が掘削 箇所に立ち入り、玉外し作業を行っていた。その際法面の岩石が崩落して 被災者の足に激突した。被災者が救助の声を上げたため、現場代理人が救 助のため溝に入ったところ幅1m高さ50cm推定重量500kgの岩石が2名の上	711	5	1～ 9

			に落下して被災者が死亡した。現場代理人は重傷を負った。			
2008	2	15 ～ 16	道路舗装工事現場で、マカダムローラーの施工写真を撮るため、稼働中のマカダムローラーとタイヤローラーの間に入り、タイヤローラーのすぐ後でしゃがんで写真を撮っていたところ、後進してきたタイヤローラーにひかれた。	144	7	1～ 9
2008	10	14 ～ 15	舗装工事現場において、アスファルトを敷く前の地固め作業を行うために被災者が、2.7tの振動ローラーを運転していた。その際、路面上の路肩付近に設置されたマンホールが路面より5cm突出していたため、ローラーがこれに乗り上げて路肩側に傾くと同時に滑ったため、被災者はローラーに乗ったままの状態です約3mの道路下に転落して死亡した。	144	1	30 ～ 49
2008	10	11 ～ 12	道路拡張工事中、被災者が掘削した法面へ登り、伐採した木材を並べていたところ、約5.3m下の道路面へ転落した。	711	1	10 ～ 29
2008	11	10 ～ 11	予め掘削したされた穴に、コンクリート製の集水枡（外形寸法1m×1m×2.1m、内径寸法0.6m×0.6m×2.1m、重量約3t）をドラグ・ショベル（バケット容量0.7立方メートル）でつり上げて埋設する作業を行っていた。一旦、枡を着地させたが、若干、着地地点がずれたため、改めて芯出しを行なおうと誘導員の指示で、枡をつり上げた際に、バランスが崩れて、誘導員が集水枡とに激突され、枡と地山の間にはさまれて死亡した。	142	6	1～ 9
2008	3	10 ～ 11	国道拡張による法面工事現場において、コンクリート法面の補修作業を行っていた被災者が、休憩するために休憩場所へ向かって移動していた時、土砂搬入のために後進してきたトラックにひかれて死亡した。	221	7	30 ～ 49
2008	2	9 ～ 10	被災者は、倒木の撤去の補助作業中にチェーンソーが置かれた場所から作業用資材が置かれた場所へ徒歩で移動していた。その際、ドラグ・ショベルで旋回させている倒木に激突された。	142	6	10 ～ 29
2008	7	17 ～	事業場の資材置き場において、石の下敷きになっていたところを事業場の者に発見された。被災者は、当該資材置き場の排水溝の水路の詰まりを直	711	4	30 ～

		18	す作業のため、ドラグ・ショベルで敷地内の掘削作業を行っていた。			49
2008	1	14 ～ 15	林道災害復旧工事現場において、転圧作業を行うため工区外に停めてあったハンドガイドローラーを取りに行ったところ、上部から落石があり被災した。	711	4	10 ～ 29
2008	1	16 ～ 17	道路舗装工事の現場において、被災者が単独で仮設の配水管の設置作業を行っていた際、ダンプトラックの荷台の下と車台（シャーシ）の間ではさまれているところを発見された。	221	7	1～ 9
2008	10	9 ～ 10	災害復旧工事現場において、法面のモルタル吹き付け作業に従事していた被災者が、法面上部で吹き付け作業箇所への移動に使用するための親綱の長さを延長する作業を行っていたところ、当該法面上部約40mの高さから地面へ転落した。	711	1	10 ～ 29
2008	8	13 ～ 14	被災者は、林道開設工事現場の支障木の伐倒及び玉切り作業を行っていたが、作業場所から勾配38度の斜面を約28m下った地点で死亡していたのが発見された。被災者が楓の小径木を高さ1.5mの位置でチェーンソーによって伐倒した際に転落した。	711	1	10 ～ 29
2008	7	13 ～ 14	道路の新設工事現場において、午前8時半頃から草刈り作業に従事していた被災者は、昼休み休憩後に作業を開始しようとしたが体調が悪くなり、自宅に帰ろうと車に向かって歩き始めたが、まっすぐ歩けないような状態だったので、現場代理人が病院に運んだが死亡した。	715	11	10 ～ 29
2008	2	14 ～ 15	下水道工事後の市道の復旧舗装工事現場において、午後2時過ぎに舗装路盤の碎石敷き及び路面調整作業が終了した時、雪が降り始めていたため、同日の作業は終了することとした。現場内に置いてある工具類、ポリタンク等を集めた後、積載荷重1tのトラックに載せるために他の作業者がトラックを運転して現場方向に進入したところ、トラックが暴走してトラックに背を向けて歩いていた被災者をはねた。	221	6	1～ 9
2008	3	14 ～	被災者は道路災害復旧工事現場で、アスファルトフィニッシャーを使用して路面の舗装作業に従事していた。舗装作業終了後、アスファルトフィ	149	7	10 ～

		15	ニッシャーのスクリー部に付着したアスファルトクズをコソク棒を使用して落としていたところ、スクリー部に巻き込まれて死亡した。			29
2008	3	13 ～ 14	道路補修工事のための路面測量中に通過車両にはねられ死亡した。	221	17	1～ 9
2008	12	16 ～ 17	車両系建設機械（タンDEMローラー）を10t貨物自動車に積み込む作業を行っていたところ、橋の末端部より同機械と一緒に50m下の川に転落した。	144	1	30 ～ 49
2008	12	16 ～ 17	林道工事現場で作業終了後、パワー・ショベルの並べ替え作業をしていた被災者（運転資格有）が、エンジンを止めずに横付けしたもう1台のパワー・ショベルに乗り移ろうとした際、旋回レバーに誤って触れてドア部ともう1台の車体の間にはさまれ死亡した。	142	7	10 ～ 29
2008	2	12 ～ 13	建設工事現場で現場代理人として従事していた被災者は、担当工事の現場管理に関して、現場対応及び膨大な書類作成等のため、精神的に追い詰められたため、山中で本人所有の乗用車に排気ガスを引き込んで死亡しているところを発見された。	921	90	10 ～ 29
2008	7	10 ～ 11	道路災害復旧工事現場において、作業の終了後、現場内の後片付けをするために、現場内に設置していたドラグ・ショベルを被災者がトレーラーで別の場所に移動し、トレーラーの荷台からドラグ・ショベルを降ろそうとしたとき、荷台の脇からドラグ・ショベルが滑り落ちて道路脇の斜面（高さ約17m）を転落し、ドラグ・ショベルを運転していた被災者が死亡した。	142	1	10 ～ 29
2008	10	8 ～ 9	ドラグ・ショベルのバケットを交換するためにドラグ・ショベルを後進した際、ドラグ・ショベルの脇に停車していたダンプトラックから降りていた被災者をひいた。	141	7	10 ～ 29
2008	12	17 ～ 18	ダンプトラックを使用した土砂運搬作業の終了後、荷台の土砂の清掃作業を行った後、ダンプトラックより転落して死亡した。災害発生時にヘルメットは着用していなかった。	221	1	30 ～ 49

2008	10	17 ～ 18	被災者と同僚作業者の2名で、工事現場での作業を終え、社有車で送迎しながら帰宅する際、県道を各自宅方向へ向けて走行していたところ、道路脇に停車していた牽引トレーラー付き農耕トラクターに追突した。衝突した際に、助手席に乗車していた被災者は死亡し、運転していた同僚作業者も負傷した。	231	17	10 ～ 29
2008	9	9 ～ 10	被災者は跨線橋の道路舗装工事現場で既設アスファルト路面の切削作業終了後、当該作業終了地点側から約90m（上り勾配を）後進してきたアスファルト廃材運搬用ダンプトラックの左後輪にひかれた。	221	7	10 ～ 29
2008	2	15 ～ 16	ダンプトラックの誘導をしていた作業者が、盛土部分の斜路（最大勾配8度）の下部で無人のタイヤローラーと無人で停止していたブル・ドーザーが接触しているのを確認したため、当該作業者はタイヤローラーのエンジンを停止し、サイドブレーキをかけた後、ブル・ドーザーを後退させたところ、タイヤローラーの前方下部でひかれて死亡していた被災者を発見した。	144	7	100 ～ 299
2007	7	11 ～ 12	ドラグ・ショベルで補強盛土用のシラスを敷きならしていた時にコンクリート擁壁（長さ104cm、幅30cm、高さ約4.5m、背面勾配3分、側面勾配4分）が根元から約2mの部分で折れて後方に倒れ出したため、擁壁の倒壊を防ぐためにバケットを擁壁の裏側に持ってきて手前側に起こした。この時、被災者は擁壁の裏側でドラグ・ショベルでできない部分の敷きならし作業を行っていたため、擁壁とバケットにはさまれた。	142	7	1 ～ 9
2007	12	8 ～ 9	自社資材置き場からコンクリートブロック（1×1×1m）を運搬するために、積載形移動式クレーンでコンクリートブロックをつり上げて旋回したところ、積載形移動式クレーンが傾きだしたため、右側の操作位置から前方に逃げようとした際、傾いたアウトリガーと地面にあったコンクリートブロックの間にはさまれた。	212	7	10 ～ 29
2007	11	17 ～ 18	現場から会社へダンプトラックで帰る途中、道路の陥没にハンドルを取られて、対向車線側の土手に衝突した。	221	17	10 ～ 29

2007	12	15 ～ 16	林道開設工事において、一度掘削を行った箇所が土砂崩壊により埋まったため、計画の変更を行い、当初の掘削勾配より緩やかな勾配で再度掘削を行うこととなり、ドラグ・ショベルで作業道を整備している最中に、当該ドラグ・ショベルの支持地盤が崩壊し、傾斜54度の斜面を46m転落した。被災者は、転落する途中で運転席から投げ出された。	711	1	～ 29
2007	10	9 ～ 10	ボックスカルバート設置工事で、200tトラッククレーンを用いて、組立前のL字型ボックスカルバート(11.9t)を立てた後、被災者は、はしごを使って、上方のつり金具(主巻)2つを外し、クレーンオペレータに巻上げの合図をした。クレーンオペレータが主巻、補巻の巻上げを行ったところ、下方のつり金具(補巻)2つを取り外していなかったため、当該ボックスカルバートが倒れ、被災者が下敷きとなった。	212	5	10 ～ 29
2007	9	8 ～ 9	道路建設工事において、油圧ショベルのバケットに縁石を積んで移動し、次の積み込み場所で油圧ショベルを停止しようとしたとき、ペダルの下に物がはさまっていたため油圧ショベルが停止せずに左側に旋回し、被災者をひいた。	141	7	1～ 9
2007	7	9 ～ 10	私有地畑の草刈り作業中、草むらから飛び出してきた蜂に指を刺された作業者が、その場から逃げようとして振り返った際、持っていた草刈り機の回転刃が、近くで雑木等の片付け作業を行っていた被災者に当たった。	169	8	1～ 9
2007	4	9 ～ 10	台風により崩壊した道路・法面の改修補強工事現場において法面を掘削し、付近で地ならし、杭打ち作業をしていたところ、土砂崩壊が発生し、被災者が巻き込まれた。	711	5	10 ～ 29
2007	3	12 ～ 13	舗装の補修工事において、片側1車線トンネル内の1車線を封鎖し、作業用に確保した車線においてロードスーパーをバックさせながらトンネル入口付近に移動させていたところ、歩道をロードスーパーの後退方向に歩いていた被災者がロードスーパーの進路に侵入し、タイヤに巻き込まれた。	149	7	10 ～ 29
			林道開設工事におけるガードレール設置作業において、被災者がガード			

2007	4	9 ～ 10	レール2 2枚を車両系建設機械（掘削用）のバケットに溶接されているフックに繊維ロープで1点づりをしてつり上げ、貨物自動車に乗せようとしたところガードレールが貨物自動車のあおりに引っかかり、繊維ロープの位置がずれたため、被災者がその位置を手で修正しようとしたところ、ガードレールが繊維ロープから滑り落ち、激突した。	372	4	1～ 9
2007	7	8 ～ 9	道路工事においてドラグ・ショベルで路床整形を行っている際に、後進するドラグ・ショベルの進路上で手作業による路面整形を行っていた被災者が、ドラグ・ショベルにひかれた。	142	6	30 ～ 49
2007	10	20 ～ 21	社用車を駐車した付近にある道路脇のガードレールを超えて6 m下に墜落した。	418	1	1～ 9
2007	2	14 ～ 15	国道拡幅工事現場において、ブル・ドーザーを後進させているとき、ブル・ドーザーから転落してひかれた。	141	7	1～ 9
2007	12	9 ～ 10	法面保護工事の法面の面積測量を行うため、法面（高さ15.9 m、勾配73度）につり下げたロープ（径18 mm）に口リップ（墜落防止具）を取り付けそれに安全帯を繋ぎロープを伝って法面を登っていたところ、口リップが機能しなくなり修正しようとして13.9 m付近で、2、3歩降りたところから地面へ墜落した。	711	1	10 ～ 29
2007	1	9 ～ 10	道路拡幅工事で、現場作業の前段階として、法面の雑木等の伐採作業を行っていた被災者が、上部で重なり合っていた2本の雑木（しいの木）を伐倒した際、1本の木（根本直径約25 cm）が追い口部分の一部分が裂けて、裂けた部分が被災者に激突した。なお、もう1本の木（根元直径約40 cm）が切り倒されて、かかり木になっていた。	712	6	10 ～ 29
2007	2	7 ～ 8	事業場の資材置場において、土木工事現場で使用する締固め機をドラグ・ショベルを用いてつり上げ、トラックに積載する作業中、ドラグ・ショベルが転倒し、運転席から投げ出された被災者が、ドラグ・ショベルの下敷きになった。	142	2	1～ 9

2007	4	11 ～ 12	道路改良工事現場において、法面の地山を掘削するため、ドラグ・ショベルで道路から一段上（高さ約3 m、角度40度～45度）に登っていた時、ドラグ・ショベルが後方に転落し投げ出された。	142	1	1～ 9
2007	9	11 ～ 12	林道開設工事現場において、被災者は可搬式研削盤の歯を取りに行くため現場から麓にある事務所へ軽自動車ですり道既設林道を走行中、現場から約4 km離れた地点で林道から約20 m転落した。	231	17	10 ～ 29
2007	1	10 ～ 11	高速道路工事において、25 tラフタークレーンのオペレーターである被災者は、つり降ろす予定であったドラグ・ショベルが修理中であったために高速道路橋上にクレーンを停車させて待機していた。被災者は、待機時間中にクレーンの車体上に昇り、補助ジブのシーブに油をさす作業をしていたところ、バランスを崩し、クレーンから落下し、道路橋の欄干を乗り越え、8 m下の地面に墜落した。	212	1	50 ～ 99
2007	7	9 ～ 10	工事現場に向かうため、ダンプカー（4 t）で国道を走行していたところ、左カーブで反対車線にはみ出し、対向車線を走行してきたダンプカー（10 t）と正面衝突し、被災者が運転していたダンプカーの運転席が大破した。	221	17	30 ～ 49
2007	5	4 ～ 5	高速道路リフレッシュ工事の車線規制に使用するクッションドラムに水を入れるため、高速道路上を走行していた給水車の右後輪が破裂し、給水車が横転した。運転していた被災者が車外に投げ出された。	221	17	10 ～ 29
2007	10	10 ～ 11	集中工事のため、ラバーコーンを設置して追越車線を閉鎖していたところ、一般車が追越車線に進入し、停車していた工事車両Aに追突、その弾みで工事車両Aが前方の工事車両Bに追突した。このため、作業員1名が工事車両A、Bにはさまれた。	231	17	1～ 9
2007	10	10 ～ 11	道路改良工事において、法面の支障木を伐倒する際に、道路側の電線等への接触を避けるため、立木にワイヤロープを掛け、ガイドブロックを使用し、トラックで山側に引っ張りながら伐倒を行っていた。被災者がはしごを使って、法肩の支障木にワイヤロープを掛けようとしていたところ、はしごとともに、約7 m下の県道の山側側溝付近に墜落した。	711	1	1～ 9

2007	10	10 ～ 11	作業員3名で杉木をチェーンソーで伐倒した後、伐倒した杉木の枝払いを行う作業を行っていたところ、3本目の杉木を伐倒した作業員が伐倒の際被災者の退避を確認しないまま、杉木を被災者が作業していた方向に伐倒したため、倒れてきた杉木が被災者を直撃した。	712	6	1～ 9
2007	5	10 ～ 11	道路災害復旧工事現場において、伐採した木の切り株の抜根作業中、切り株を手で押して下へ落とそうとした際、親綱を安全帯にかけていなかったため、切り株の根に安全帯がからまり一緒に転落した。	711	1	10 ～ 29
2007	6	21 ～ 22	道路路面補修工事において、片側3車線のうち2車線を規制して作業中、被災者らが路面切削機から出るアスファルトのガラの収集していたところ、約20mの離れた交差点で乗用車同士の衝突事故が発生し、衝突の弾みで反対車線から中央分離帯を越えて作業場所に突っ込んできた乗用車に作業員2名がはねられ、作業員1名が死亡、他の1名が負傷した。	231	17	10 ～ 29
2007	8	16 ～ 17	立坑内の土止支保工の組立作業において、作業員2名がブラケット上に仮置した腹おこし（鋼材3本）をジョイントプレートで接続するため、作業員1名が腹おこしの上に乗る、作業員（被災者）が腹おこしの下側からボルトを入れていた際、突然、腹おこしを支えていたブラケットが外れたため、被災者が落下した腹おこしと地面の間にはさまれた。	412	4	30 ～ 49
2007	6	18 ～ 19	現場内路盤整正作業において被災者は2tダンプトラックを運転し、現場内で砂利を運搬する作業をしていたが、現場内通路において、運転席ドアにはさまれ、駐車車両に接触した状態で発見された。	221	3	10 ～ 29
2007	4	10 ～ 11	道路改良工事において、工事の際に発生する不要な土砂を残土仮置場まで運搬し、降ろす作業を2tトラックの運転者である被災者が行っていた。被災者は残土仮置場で2tトラックの車体と荷台にはさまれた状態で発見された。	221	7	10 ～ 29
2007	10	2 ～ 3	舗装先行工事現場での仕事を終え、会社のダンプトラックで事務所へ戻る途中、交差点でトラックと衝突した。ダンプトラックに同乗していた者が死亡し、運転手は負傷した。	221	17	1～ 9

2007	2	8 ～ 9	道路工事の仮資材置き場において、道路に散布する固化剤を入れたフレコン（1 t）をドラグ・ショベルでつり上げ、2 t ダンプに積み込む作業を行っていた際、ダンプの荷台にてフレコンのつりロープをドラグ・ショベルのフックから外す作業を行なうために待機していた被災者が、荷台から1.3 m下のアスファルト舗装面に墜落した。フレコンやドラグ・ショベルが被災者に接触した形跡はない。	221	1	10 ～ 29
2007	10	13 ～ 14	道路舗装修繕工事現場において、路面の地均しのため後進してきたドラグ・ショベル（機体重量2.2 t）のゴムクローラーにひかれた。	142	7	1～ 9
2007	6	9 ～ 10	2 tトラックにより運搬されたコンクリート製集水升（約3.2 t）を下ろすため、移動式クレーン仕様（つり上げ荷重2.9 t）のドラグ・ショベルを用いて、バケットのフックに荷をつり、ブームを左旋回したところ、ドラグ・ショベルが横転した。被災者は測定の準備を行っていたが、背後から横転してきたドラグ・ショベルのバケットと地面にはさまれた。	142	6	30 ～ 49
2007	12	13 ～ 14	ブル・ドーザーで碎石をならしていたところ、運転手が逸走（後退）してきたブル・ドーザーにはねられた。	141	7	1～ 9
2007	11	15 ～ 16	トラックに積載されたヒューム管の荷卸しのため、高さ約1.4 mの荷台上にて、ヒューム管の両端にハッカーを掛け、現場代理人が操作するドラグ・ショベルによりつり上げ、その状態で同僚がトラックを少し前進させたところ、ヒューム管の一部がトラック後部のあおりに引っ掛かり、当該箇所を支点に当該管が横に振れ回転したため、被災者が押し出される形で荷台上から転落し、さらにハッカーから外れた当該管の下敷きとなった。	142	6	10 ～ 29
2007	3	11 ～ 12	道路復旧工事において、昼休みに入るためトラッククレーンとクローラ式ドラグ・ショベルを所定駐車位置で縦列駐車しようとした際、前に駐車したトラッククレーン運転手（被災者）が、後から来たドラグ・ショベルにひかれた。被災者は一度ドラグ・ショベルの左側（運転席脇）から後ろを通り右前側に回りこんでおり、ドラグ・ショベルオペレーターからはバ	142	6	1～ 9

			ケットで死角となる位置であった。			
2007	10	13 ～ 14	法面を開削し沢側に盛土する工事に際し、新設道路の下の暗渠の継手設置作業を行っていた被災者に、重機道の法肩に仮置きしていた切り株（直径38cm、高さ1m、重さ約200kg）が、約12m滑落し、激突した。	712	4	50 ～ 99
2007	12	11 ～ 12	被災者は、道路建設工事現場においてアスファルト舗装を行うため、道路隅に木製の型枠材を敷き並べる作業を行っていたところ、被災者の前方より後進してきたモーター・グレーダーの左後輪にひかれた。	141	7	10 ～ 29
2006	10	8 ～ 9	道路工事現場において、ブレーカー装着のドラグ・ショベルにて現場内を移動中、法面の岩盤が崩落しドラグ・ショベルごと埋まった。	711	5	10 ～ 29
2006	12	13 ～ 14	橋台深礎杭の主筋建込み後、安全带2丁掛けの一丁のフックを腹部の位置から取付け、水平方向に移動しようともう一丁のフックを外したところ、腹部の位置に取付けていたカラビナからフックが抜け、被災者は約11m下の杭底に墜落した。	418	1	10 ～ 29
2006	12	10 ～ 11	町道の舗装及び排水溝改修工事現場において、コンパクタを使用し舗装作業に従事していた被災者が、同じく舗装作業において後進中のコンバインドローラー（機体総重量約4トン）にひかれた。	144	6	1～ 9
2006	12	8 ～ 9	工場敷地内の舗装工事を行うため、被災者はダンプトラックに乗せていたフィニッシャーと呼ばれる、アスファルト合材を路盤へ均一に敷くための舗装機械を現場近くの公道にトラックから下ろしていた。しかし公道に約5%の勾配がついていたため、運転台に被災者を乗せたままフィニッシャーが逸走し、道路の正面に設置されていた貸しガレージの塀に激突して、被災者は塀とフィニッシャーとの間に挟まれた。	149	17	1～ 9
2006	12	8 ～	被災者は、工事現場で使用する機材を取りに行くため、10tダンプトラックを運転して町道（幅3～4メートル）を下り方面に向かって走っていたところ、上り方面に向かってきた4tトラッククレーンと向かい合わせとなった。被災者は、後方にある退避スペースですれ違いをしようとし	221	17	10 ～

		9	て後進したところ、左側車輪を脱輪し、64メートル下方の河原に車体ごと転落し、運転席から投げ出された。			29
2006	12	11 ～ 12	ドラグ・ショベルのバケットのフックで基礎ブロック（約500kg）をつり上げて運搬中、右旋回したところ、ドラグ・ショベルが転倒し、運転者が運転席から約4.4Mの道路下に投げ出され、倒れた被災者に約2Mの鉄筋が落ち、被災した。	142	2	1～ 9
2006	11	13 ～ 14	工事完了検査を行うことから、被災者は法面に残っていた測量のためのナイロンロープ2本を撤去するため、勾配約50度の法面を下りていたところ足を滑らし、法長31.2m下の林道に転落した。	419	1	1～ 9
2006	12	6 ～ 7	道路舗装修繕工事において、被災者が幅出し作業（道路に白線を引く場所にあらかじめチョークでマーキングをする作業）に従事していたとき、タイヤ・ローラーに轢かれた。	144	6	50 ～ 99
2006	11	13 ～ 14	県道バイパス工事に伴う交差点改良工事において、ブル・ドーザーによる路面の敷きならし作業中、ブル・ドーザーが後進していたところ、ショベルを持って敷きならし作業を行っていた被災者をクローラーの端で轢いた。	141	7	10 ～ 29
2006	2	9 ～ 10	栈橋解体の作業において、被災者は地上付近のブレース（筋交い）を溶断し、上方のブレースを溶断しようと鉄骨の支柱を上っていたが、安全帯のフックを掛け換えたとき、約5m下の地面に墜落した	418	1	1～ 9
2006	10	15 ～ 16	道路の拡張工事に伴うコンクリート製の水路の設置現場において、被災者は水路に設置された高さ1.1mの集水升の横にある石の上でうつ伏せになって倒れていた。	418	1	1～ 9
2006	10	13 ～ 14	国道線上における歩道設置工事において、U型側溝等の目地詰め用セメントに用いる砂等の土壌を載せた猫車を押して運搬していた被災者が、背後から後進してきた最大積載量3トンの小型移動式クレーン搭載型トラックに激突された。	221	6	1～ 9
			隣接した傾斜地にある杉林の伐採の作業を行っていたところ、傾斜地の上			

2006	9	16 ～ 17	部にはさみ重機を設置し、伐採するスギの幹とはさみ重機のはさみとをロープで結んだ状態で伐採していた際、切りおえたスギが東側に倒れ、ロープで括られたはさみ重機のアーム部分にスギの幹が激突したため、はさみ重機が傾斜地側に傾き、傾斜地に仰向けに転落し、運転席していた被災者は傾斜地側に投げ出され、伐採したスギの下敷きになった。	149	1	1～ 9
2006	9	12 ～ 13	台風及び大雨による災害対策のため、2名で工事現場の看板等の撤去、補強を行った後、会社事務所へ車で戻っていたが、道路が冠水していたので途中で車を降り、徒歩で会社事務所へ向かっていた時に増水した川に流された。被災者は約4時間後に流された地点より約1km下流にて発見された。もう一人は木にしがみついているところを救出された。	713	10	1～ 9
2006	9	15 ～ 16	県道の舗装工事において、片側2車線の道路を1車線規制し、車線のライン消去作業中、制限速度をオーバーしたトラックが規制区域内に突進し、当該規制区域内で工事車両の誘導していた被災者をはねた。	221	17	30 ～ 49
2006	8	15 ～ 16	林道の建設工事において、山林の斜面で、被災者がチェーンソーを用い樹木を伐採していた。暫くチェーンソーがアイドリング状態であったので、同僚が作業現場に行くと、被災者が倒木の横で倒れていた。被災者が倒れていたのは、伐採の位置から約10メートル下方である。	711	1	10 ～ 29
2006	8	9 ～ 10	京都府内の国道道路新設改良工事現場において、被災労働者が運転していたドラグ・ショベルが法面から転落し、ドラグ・ショベルのブームで強打された。	142	2	1～ 9
2006	8	13 ～ 14	立体交差工事現場に設置されていた仮囲いの解体・撤去作業を、バケット容量0.4立米のドラグ・ショベルを用いて行っていた。仮囲い設置のために設けられた支柱（長さ5m、重量約80kgのH鋼）を地面からドラグ・ショベルを用いて引き抜いた際に、つり具のクランプから当該H鋼が外れて落下し、被災者に激突した。	142	6	30 ～ 49
2006	8	18 ～ 19	建設寄宿舍から出火し、火元付近に寄宿していた被災者は出火時屋外にいたが、火を消し止めようと部屋に駆け込んで逃げ遅れた。	418	16	30 ～ 49

2006	8	14 ～ 15	<p>自社整備工場において、被災者が移動式クレーン（10 t）で吊り上げたカウンターウエイト（2.2 t）を車両系建設機械（ブレーカ）に取り付け作業中、カウンターウエイトに固定されていた玉掛用のアイボルトが破断したため、カウンターウエイトが被災者の上に落下し、下敷きとなった。</p>	372	4	30 ～ 49
2006	8	9 ～ 10	<p>法面工事の準備のため、チェーンソーで立木（直径約30 cm）の伐採作業を行っていた被災者が、裂けて倒れた伐採中の木の下敷きになった。</p>	712	5	1～ 9
2006	7	0 ～ 1	<p>道路拡幅工事現場において、昼休中に、現場敷地内の歩道橋の下の日陰で、被災者が横になって休憩していたところ、後進しながら現場に入ってきた10 t ダンプに轢かれた。</p>	221	6	1～ 9
2006	7	1 ～ 2	<p>上り走行車線で緊急舗装補修の為、本線規制を行い補修作業を行っていた。規制終点側のカラーコーンが一般車両により飛ばされたため、労働者が1人で資材車に乗り、コーンを直した後、バックで戻ろうとしていたとき、途中でマーキング作業をしていた被災者をひいた。</p>	221	17	10 ～ 29
2006	7	17 ～ 18	<p>現場作業を終え、現場から会社へ戻るため4トンダンプを運転して国道を走行中、左カーブにおいて対向車線にはみ出し、対向してきた11トン平ボディトラックと正面衝突した。</p>	221	17	10 ～ 29
2006	7	15 ～ 16	<p>林道開設工事現場で、掘削の際にでた岩をブレーカーで小割する作業を行っていた被災者が、次ぎの作業までの間を車内で待機していたところ、突然法面が崩壊し、被災した。</p>	711	5	30 ～ 49
2006	7	15 ～ 16	<p>法面（こう配約70度）に仮設の落石防護用ネット（2m×7m）を設置する作業において、法面上を横移動していたところ、15.4メートル下の床掘した地面に転落した。</p>	711	1	10 ～ 29
2006	7	13 ～ 14	<p>誘導路整備工事において、土壌とセメントを混合する工程で、セメント散布車が、場所を移動するため後進したところ、セメント散布車後方にてセメント散布範囲のライン引きをしていた被災者に気づかず後進を続け、被</p>	149	7	10 ～ 29

			災者を轢いた。			
2006	6	15 ～ 16	法面掘削後の土砂を車両系建設機械（0.7立米ドラグ・ショベル）を用いて運び出す作業中、当該ドラグ・ショベルの停車していた箇所の地面が崩落し、当該ドラグ・ショベルが崖下約40メートルまで転落。当該ドラグ・ショベルを操作していた労働者もドラグ・ショベルに載った状態で転落した。	142	5	1～ 9
2006	5	8 ～ 9	道路舗装工事において、締固め機械を移動させようと被災者が運転をし、勾配約17度、幅3メートルの坂道を下っていたところ、進行方向右側の急斜面（法面）を当該機械とともに約3メートル転落した。	144	1	10 ～ 29
2006	4	13 ～ 14	道路に構造物を敷設して拡幅し、拡幅部分に歩道を設置する工事において、構造物を設置する基礎部分のコンクリートをブレーカーで破碎する作業中、片側交互通行のため西進方向を停止させようとした警備員を振り切り進入してきた軽乗用車が工事現場に突っ込み破碎した欠片が飛び散らめためのコンパネを手で持っていた被災者をはねた。	231	17	1～ 9
2006	4	16 ～ 17	道路拡幅舗装工事において、被災者が作業を終了しハンドガイドローラーを保管場所へ移動していたところ、後退中の機体重量3.3トンのタイヤローラーに轢かれた。	144	7	1～ 9
2006	1	16 ～ 17	県道の拡幅及び歩道の新設工事で、被災者は削り取ったアスファルト片をドラグ・ショベルで寄せ集め、ダンプカーに積み込む作業をしていた。その日の最後の積み込みが終わり、ダンプカーが現場を離れたので当日の作業を終了すべく残塊を寄せ集めていたところ、アスファルト片に乗り上げ、バランスを崩してドラグ・ショベルが転倒し、運転席に挟まれた。	142	2	10 ～ 29
2006	3	23 ～ 24	自動車道下り線インターチェンジの本線に合流する手前地点において、ジョイント箇所の点検作業に従事していた被災者が合流してきた一般車両にはねられた。	231	17	1～ 9
2006	2	16 ～ 17	林道開設工事に従事していた被災者が、法面に吹き付けられたモルタルのかすをトラクターショベルで集める作業中、反対側の谷にトラクターショベルごと転落した。	141	1	1～ 9

2006	2	17 ～ 18	市道（幅員4m）の舗装工事現場で締固め用機械を運転し、道路に沿って転圧作業を行っていたところ、約90センチ下の水田に同機械と共に転落し下敷きとなった。	144	1	10 ～ 29
2006	3	10 ～ 11	道路拡幅工事現場において、道路拡幅部の地山法面の落石雪害防護工のロープネット取付け作業中、法面でワイヤロープ固定作業に従事していた労働者が約38m下の地上に墜落した。	711	1	1～ 9
2006	2	11 ～ 12	敷き鉄板（1.54m×6.12m、厚さ2cm重さ1.6t）をドラグ・ショベル（0.45立方メートル）で吊り上げ、ダンプの荷台に積み込もうとしたところ、玉掛用チェーンのフックから鉄板が外れ、荷台上の被災者が、倒れてきた鉄板とダンプの荷台のアオリと鉄板に挟まれた。	372	6	1～ 9
2006	2	14 ～ 15	鉄筋（柱筋、12メートル、198キログラム）を25トンのトラッククレーンで建て込む作業をおこなっていたところ、鉄筋を吊っていたベルトスリングが切断し、鉄筋が落下した。この鉄筋が落下後跳ね、被災者に当たった。	521	4	1～ 9
2006	2	15 ～ 16	林道開設工事現場で軽量盛土のエアモルタル打設作業を終え、壁面材付近でエアモルタル圧送ホースの片づけを行っていた際、壁面材及びこれを固定していた支柱が倒壊しエアモルタルとともに流され被災した。	419	5	10 ～ 29
2006	2	15 ～ 16	林道開設工事現場で軽量盛土のエアモルタル打設作業を終え、壁面材付近でエアモルタル圧送ホースの片づけを行っていた際、壁面材及びこれを固定していた支柱が倒壊しエアモルタルとともに流され被災した。	419	5	30 ～ 49
2006	1	10 ～ 11	被災者は、採石場内で土砂の積込みを終えたダンプトラックの荷台の土砂をスコップを使い押し固めていたところ、方向転換のために後退してきた採石作業に従事するトラクター・ショベルのカウンターウエイト部分とダンプトラックとの間に挟まれ、死亡した。	141	6	1～ 9
2006	1	14 ～ 15	下水道管理設工事の作業で、ドラグ・ショベルで砂の埋め戻し作業をしていた。掘削した溝を跨ぐようにドラグ・ショベルを配置していたが、左側のキャタピラ下部の路肩が崩壊し、構内で砂のならし作業をしていた被災	711	5	1～ 9

			者がドラグ・ショベルのバケットと土止めの切りばりに挟まった。			
2006	1	10 ～ 11	道路改良工事で生じた土砂を残土処理場に運搬し、残土処理場において、被災者が機体重量4.2トンのドラグ・ショベルで排土板を用い土砂を均す作業を行っていたところ、高さ約1.5メートルの法面からドラグ・ショベルごと転落し、ヘッドガードの下敷きになった。	711	1	1～ 9
2006	1	8 ～ 9	酒気帯び運転の乗用車が道路左側のガードレールに衝突した後、道路右側の市道の改良工事現場において、布設したU字溝の清掃作業を行っていた被災者をはねた。	231	17	10 ～ 29
2005	1	15 ～ 16	掘削前の伐採作業において、伐倒木をドラグ・ショベルで運搬し、地山上方から地上へ伐倒木を下ろす際に、ドラグ・ショベルが勾配が16度の斜面を滑り、法肩から20m転落した。	142	1	10 ～ 29
2005	12	9 ～ 10	路盤整備工事の記録写真を撮るため、稼動中のドラグ・ショベルの後部に背を向けて立ち、写真を撮っていたところ、後退してきたドラグ・ショベルのクローラー部分でひかれた。	142	6	10 ～ 29
2005	10	14 ～ 15	国道改良工事現場において、石積擁壁の施工のため、クレーン使用のドラグ・ショベルでつり上げたポッパーを使って石積後のコンクリート打設作業をしていたところ、コンクリート打設後の側面の均し作業を行っていた被災者に激突した。	142	7	10 ～ 29
2005	8	11 ～ 12	林道開設工事現場において、法面上に生えている立木を伐採後、被災者が法面上で伐採した立木を林道に投げ落とす作業を行っていたところ、8m下の林道上に墜落した。	711	1	30 ～ 49
2005	6	9 ～ 10	屋根と樋の取替え工事中、屋根の上において腐蝕した古い母屋をガス溶断しようとしたところ、体勢を崩し、5m下のコンクリート地面に墜落した。	414	1	1～ 9
2005	12	9 ～ 10	道路拡幅工事において、既存のブロック塀をドラグ・ショベルで取り壊し作業を行っていたところ、当該取壊し箇所と繋がったブロック塀近くでフェンスの撤去作業を行っていた被災者の方にブロック塀が倒壊した。	419	5	1～ 9

2005	1	10 ～ 11	県道の交差点において、ダンプトラックと乗用車が衝突し、道路脇の工事に従事していた被災者がダンプトラックと掘削の法面との間に挟まれた。	221	17	1～ 9
2005	2	11 ～ 12	ため池周辺の農道の災害復旧工事において、重機の搬入路確保のため、ドラグ・ショベルにて農道を拡幅作業中、路肩からドラグ・ショベルとともに勾配が40度の斜面を8m転落した。	142	1	10 ～ 29
2005	3	14 ～ 15	池改修工事現場において、被災者がドラグ・ショベルを用いて掘削し、小石を敷く作業中、深さ2.5mの掘削場所に立ち入ったところ、掘削盛土等の地山が崩壊し、生き埋めとなった。	711	5	10 ～ 29
2005	6	14 ～ 15	4トン締固めローラー車を運転して移動させようとした際、側溝（深さ2m、幅2m）に転落、ローラー車が横転して挟まれた。	144	1	1～ 9
2005	3	10 ～ 11	林道建設工事において、法面に亀甲金網を取り付ける作業に従事していたところ、法面上方の山腹から10m下の林道に墜落した。	711	1	1～ 9
2005	8	16 ～ 17	建設機械の修理点検作業において、事業場敷地とその隣にある作業場敷地への行き来の際、両敷地の境界にある用水路に転落した。	418	1	30 ～ 49
2005	3	9 ～ 10	立木伐採作業中、チェンソーを手に持ちながら退避を始めたところ、何かにつまずき、その勢いで斜面を駆け下りる形となり、静止が効かないまま高さ2mの位置から斜面下にあるアスファルト道路に墜落した。	711	1	1～ 9
2005	11	14 ～ 15	車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9トン）を用いて荷台からヒューム管（重さ2トン）を荷降ろし作業中、クレーンが横転し、クレーン操作を行っていた被災者がクレーン車体とガードレールとの間に挟まれた。	212	2	10 ～ 29
2005	8	15	県道の側溝にふたをしたあと、側溝のかかりとふたの間にふたのすわりをよくするため、土を入れる作業を行っていたところ、道路上を走行してき	231	17	10 ～

		16	た軽乗用車が車線を越え、被災者をはねた。			29
2005	10	16 ～ 17	掘削工事で出た土砂の運搬のため、土砂が入れられたつり紐付きの袋を移動式クレーンでつり上げ、トラックの荷台に袋の中の土砂を移す際に、袋の中に土砂が残ったため、荷台上にいた被災者が土砂を袋から出そうと移動式クレーンのジブを起こすように合図したところ袋が被災者に激突し、被災者がトラックの荷台から墜落した。	611	6	10 ～ 29
2005	6	13 ～ 14	砂防工事において、法面を下降中に、建設用機械とともに転落し、機体と破損したヘッドガードとの間に挟まれた。	141	1	1～ 9
2005	1	16 ～ 17	ダンプトラックで生コン車を現場まで先導し、生コン車を現場にバックで誘導するため、ダンプトラックから降り生コン車の方へ回り込もうとしたところ、ダンプトラックが下がってきた。これを見た被災者はダンプトラック後方に回り止めようとしたが、停車中のドラグ・ショベルとの間に挟まれた。	221	7	30 ～ 49
2005	4	8 ～ 9	ドラグ・ショベルを操作中、路肩が一部崩れ、4m下の谷川に転落した。	711	1	1～ 9
2005	5	11 ～ 12	資材置場で、移動はしごを使用し、仮設小屋の屋根部分の単管端部に継手クランプを取り付ける作業中、はしごから転落した。	371	1	1～ 9
2005	12	13 ～ 14	解体したH鋼を返納するため、トラックに積込み作業中、荷崩れしたH鋼が落下し、被災者がその下敷きとなった。	372	4	1～ 9
2005	3	7 ～ 8	ダンプトラックを運転中、交差点で一旦停止を怠り交差点に進入したため、軽自動車と衝突した。	221	17	30 ～ 49
		0	道路舗装工事現場においてアスファルト舗装作業中、後進してきたタイヤ			1～

2005	2	1	ローラーにひかれた。	144	7	9
2005	12	16 ～ 17	国道の歩道整備工事中、コンクリート舗装箇所の周囲をバリケード柵で囲み、コンクリート舗装の金網を敷設していたところ、走行してきた車が居眠り運転により中央分離帯に激突し、その反動で工事箇所へ突っ込み、被災者が同車両に激突された。	231	6	1～ 9
2005	6	13 ～ 14	片側2車線の道路の右側車線を、単管バリケードを並べて設置し通行止めにし、単管バリケードの内側でアスファルト舗装作業を行っていたところ、左側車線を走行してきた一般車両が単管バリケードに接触し、そのバリケードに激突された。	231	6	1～ 9
2005	7	0 ～ 1	ダンプトラックの荷台を上げ、プロペラシャフト部にグリスアップしようとしていたところ荷台と下部フレームとの間に挟まれた。	221	7	10 ～ 29
2005	2	6 ～ 7	ブル・ドーザーで下り坂を除雪して、坂を戻ろうとバック走行中、運転席上でバランスを崩してブル・ドーザーから転落した。その後さらに、ブル・ドーザーは後退を続けたため、被災者は運転席に乗り移ろうとしたが、再度転倒し、ブル・ドーザー後方から巻き込まれ引きずられた。	141	7	1～ 9
2005	10	15 ～ 16	国道交差点改良工事において、歩道の仮舗装のため、ダンプトラックが碎石を降ろした箇所でトンボにより整正していたところ、直ぐ横で整地業務を行っていたドラグ・ショベルが後進してきて、被災者と接触した。	141	6	30 ～ 49
2005	11	13 ～ 14	伐木した際、伐倒方向の調整をしていた被災者の方に倒れたため下敷きとなった。	712	6	1～ 9
2005	11	14 ～ 15	既設道路の舗装作業において、ローラーで路盤の転圧作業を行っていたところ、路肩部分からローラーとともに転落した。	144	1	10 ～ 29
		16	道路改良工事現場で、測量結果等に基づき面積を中腰で計算していた被災			1～

2005	9	～ 17	者が後進してきた不整地運搬車に正面から激突された。	227	6	9
2005	12	～ 18	高速自動車道の交通規制帯内において路面に残っていた雪解け水をスポンジで取り除いていたところ、走行してきた乗用車が交通規制線を越えて交通規制帯を走行し、被災者に激突した。	231	17	～ 99
2005	10	6 ～ 7	高速自動車道舗装工事において、交通規制中の作業エリアを走行中のダンプトラックが中央分離帯付近の段差から脱輪したため、ドラグ・ショベルでけん引した。けん引後ワイヤロープを被災者が外していたところ、ダンプトラックが前進し、バケットとダンプトラックとの間に挟まれた。	221	7	1～ 9
2005	7	16 ～ 17	軽乗用車で信号のない交差点にさしかかったところ、一旦停止せず進入してきた車に衝突され、ガードレールを乗り越え、用水路に車ごと落ちた。	231	17	1～ 9
2005	3	14 ～ 15	資材置場で測量杭を作るために携帯式丸のこ盤で木材を加工作業中、反発した丸のこの歯が接触した。	131	8	1～ 9
2005	12	～ 11	下水管本管に枝管を敷設するため、掘削箇所内で作業を行っていたところ、周囲の埋戻し土砂が崩落、腰まで土砂に埋まった被災者を救出しようとしたところ、さらに土砂が崩落し、生き埋めとなった。	711	5	10 ～ 29
2005	3	14 ～ 15	雨水浸透施設の設置工事において、コンクリート製の円筒形のつり荷をドラグ・ショベルで下ろそうとしたところ、掘削底で待機していた被災者がつり荷に手をかけた際、手をかけた側のハッカーが外れたため、つり荷が振れ、掘削側壁とつり荷との間に挟まれた。	372	4	10 ～ 29
2005	1	～ 14	道路面を振動ローラーで転圧中に、法面に振動ローラーがずり落ち、さらに高さ7.5mの補強土壁から落下した。	144	1	1～ 9
2005	3	5 ～	横断歩道を渡っていたところ、交差点に進入してきたトラックに激突された。	221	17	～ 300

		6				499
2005	9	13 ～ 14	道路拡幅工事において、動力ポンプを起動させて地下水を揚水していたところ、タンクの底の部分が破裂して飛び出し、被災者に激突した。	319	15	100 ～ 299
2005	11	7 ～ 8	自動車道建設工事において、鉄筋組立て作業に使用していた張出し足場を解体するため、足場板を結束していた番線を外し、集積していたところ、被災者がバランスを崩し、当該足場から下段にある張出し足場に墜落し、組立中の鉄筋に突き刺さった。	411	1	50 ～ 99
2005	5	15 ～ 16	林道開設工事現場において、伐倒した立木（丸太材、230kg）の運搬作業中、玉掛け用繊維ベルト2本を外す作業をトラックの荷台上で行っていた被災者が1m下の地面に墜落し、さらに落下した丸太材の下敷きとなった。	522	1	10 ～ 29
2005	7	8 ～ 9	国道の歩道において自走式刈払機を運転していたところ、法面に刈払機が下りてしまったため、平坦な歩道面に刈払機を戻そうとしたが、刈払機ごと横転した。	169	1	1～ 9
2005	1	14 ～ 15	町道の拡幅工事現場において、土止めのために入れてあった鉄板が土砂に押され、溝の中で床均しを行っていた被災者が鉄板と町道の端のアスファルトとの間に挟まれた。	711	5	1～ 9
2005	3	14 ～ 15	道路改良舗装工事において、ドラグ・ショベルにより古い路盤を剥がし、トラックに積み込む作業中に、トラックの後部にいた被災者が旋回したドラグ・ショベルのカウンターウエイトとトラックの荷台との間に挟まれた。	142	7	1～ 9
2005	8	13 ～ 14	道路を4トンローラーを用いて締固め中、路肩からローラーごと2m転落し、ローラーの下敷きになった。	144	1	10 ～ 29
2005	2	17 ～ 18	作業終了後、帰宅しようと現場事務所から自分の車に向かう途中、走行してきた乗用車にはねられた。	231	18	1～ 9

2005	6	10 ～ 11	油圧ショベルの側面を移動していたところ、油圧ショベルが旋回し、地山とカウンターウエイトとの間に挟まれた。	142	7	1～ 9
2005	3	11 ～ 12	国道の歩道改良工事において、ホイールローダーを使用し採石の均し作業をするため後退したところ、現場の作業状況の写真撮影をしていた被災者に激突した。	141	7	1～ 9
2005	8	15 ～ 16	沈砂池設備周辺の清掃業務を被災者が行っていたところ、清掃の過程で周辺にあったスズメバチの巣を刺激し、スズメバチに刺された。	719	90	10 ～ 29
2005	1	14 ～ 15	ナラの木の伐採作業をしていた際、伐倒木が落下し20m下で作業していた被災者が伐倒木の下敷きとなった。	712	4	10 ～ 29
2005	1	14 ～ 15	河川に鉄管を河岸から敷設する作業中、ドラグ・ショベルの運転席に運転手が座った際、衣服のポケットバケットの旋回レバーに引っかかり、当該レバーを引いた状態であったが、それに気づかず運転を開始した。そのため、運転開始と同時にドラグ・ショベルのバケットが急旋回し、近くにいた被災者に激突し、被災者は当該バケットと鉄管との間に挟まれた。	142	6	1～ 9
2005	2	22 ～ 23	国道の中央分離帯の切れ目で右折・Uターンをしようとして停車中、後続のトラックに追突されて対向車線に押し出され、向って来た大型トラックと衝突した。	231	17	10 ～ 29
2005	8	10 ～ 11	登山歩道整備工事において、資材（重さ500kg）をモッコに入れ、ヘリコプターでつって運搬する作業中、登山道上で連絡・監視業務をしていた被災者につっていた資材が激突した。	229	6	30 ～ 49
2005	10	9 ～ 10	道路新設工事現場において、可変側溝の荷下ろし作業中、当該側溝が倒れ、傍らでワイヤとシャックルを組み立てていた被災者がその下敷きとなった。	523	5	10 ～ 29
		14	発電所構内で勾配10度の道路舗装工事中、アスファルトフィニッシャーを			10

2005	11	～ 15	ダンプトラックの後ろに停車させようとしたところ、操縦不能となり坂道を後進で逸走し停車中のトラックに衝突、トラックの脇にいた被災者に激突した。	149	7	～ 29
2005	2	15 ～ 16	林道の法面吹付け工事の現場において、法面の測量作業中に高さ4mの法肩から地面に墜落した。	711	1	10 ～ 29
2005	3	17 ～ 18	道路改良工事現場において、工事場所脇の道を走行していた軽自動車が登場内に進入し、被災者に激突した。	231	17	10 ～ 29
2005	12	9 ～ 10	標識設置用コンクリート製土台の据付作業において、当該土台（重さ400kg）を移動式クレーン付ドラグ・ショベルでつり上げ、掘削した据付箇所を下ろそうとしたところ、玉掛用繊維ベルトから土台が滑り落ち、当該据付箇所内にいた被災者が土台と掘削壁面との間に挟まれた。	372	6	10 ～ 29
2005	6	8 ～ 9	道路舗装工事で使用したマカダムローラーを回収するため、当該ローラーを運転して重機運搬車に載せた後、当該ローラーから降りようとしたところ、運転席から転落した。	221	1	1～ 9
2005	11	7 ～ 8	国道上で、後続のトラックが被災者等が乗った乗用車を追い越し、当該乗用車の前でスピンした。当該乗用車は当該トラックとの衝突を避けるために対向車線にはみ出たところ、スピンし、当該乗用車の側面と対向車が衝突した。	231	17	10 ～ 29
2005	11	7 ～ 8	国道上で、後続のトラックが被災者等が乗った乗用車を追い越し、当該乗用車の前でスピンした。当該乗用車は当該トラックとの衝突を避けるために対向車線にはみ出たところ、スピンし、当該乗用車の側面と対向車が衝突した。	231	17	10 ～ 29
2005	5	10 ～ 11	国道の交通規制をしていた区域内において、被災者は運転してきた4トンダンプトラックの後方に何らかの理由で立ち入り、この時、同ダンプトラックに積込みを行うために前進してきたホイール式ドラグ・ショベルの左前輪でひかれた。	142	7	10 ～ 29

2004	10	17	林道改良工事において法面（のりめん）の立木（胸高直径40cm、高さ22m）をチェーンソーで伐倒したところ、約13m離れた被災者に激突した。	712	6	10 ～ 29
2004	11	16	道路新設工事現場において、立木伐採後の斜面上に残っていた枝木を斜面下のドラグ・ショベルのところへ投げ落とす作業中、被災者が斜面から棚状に突き出た岩石の上から足を滑らせ、斜面に墜落した。	711	1	10 ～ 29
2004	11	8	車両系建設機械のバケットに乗り、型枠材を取り外す作業をしていたところ、バケットから墜落し、さらに谷に転落した。	142	1	1～ 9
2004	3	11	車両積載形トラッククレーンを使用して、公道から1段下がった自社資材置き場にプレハブの現場用事務所を荷台からつり下ろしていたとき、トラッククレーンが傾き、下ろし側に立って操作していた被災者が機体とガードレールの間で挟まれた。	212	7	10 ～ 29
2004	11	23	道路路面補修工事において、既設のアスファルトをはぎとり、路面清掃車での清掃が終了したため、被災者が道路上で携帯電話にて、ディストリビューター（油散布車）の手配の指示を行っている時にバックしてきた路面清掃車にひかれた。	149	7	50 ～ 99
2004	7	14	県道舗装工事の一方通行規制区間において、軽ワゴン車がゴムホースの片付け作業中の被災者をはねた。	221	17	10 ～ 29
2004	11	13	擁壁工事用のブロックを積んだ2 t 貨物自動車のブロック荷卸作業が一段落したので、当該貨物自動車を前進で移動さようと発進させたところ、貨物自動車の左前側で水抜きパイプの切断作業を行っていた被災者に激突した。	221	7	10 ～ 29
2004	6	0	道路工事現場で、運搬車にタイヤローラーを積み込む作業で、被災者が積み込んだタイヤローラーを運搬車にワイヤロープで固定する作業がほぼ完了し、タイヤ止めを行おうとした時に固定ワイヤロープが切断し、タイヤ	144	7	1～ 9

			ローラーと運搬車の間に挟まれた。			
2004	11	7 ～ 8	ほ場整備作業において、不整地運搬車を運転中、不整地運搬車と共に仮設道路から約3.5m下の仮設道路に墜落し、不整地運搬車の下敷きとなった。	227	1	1～ 9
2004	7	10 ～ 11	林道開設工事現場において、入口付近に置かれていたブレーカを施工場所まで移動すると同時に、塩ビ管（長さ3m）を施工場所付近に運搬するため、塩ビ管の一方の端を運転席正面の上下開閉式の窓に挟み、もう一方の端をアタッチメントの開口部に差し込んだ状態で、ブレーカを運転し、移動する途中、誤操作によりアームが手前方向に動いたため、塩ビ管が被災者側に移動し、運転席と塩ビ管の運転席側の端との間に挟まれた。	145	7	10 ～ 29
2004	2	17 ～ 18	トラックに積載してあった発電機をクレーンで下ろすための準備をしていたところ、トラックの荷台から高さ約1.25m下の地面に墜落した。	221	1	1～ 9
2004	8	14 ～ 15	林道開設工事のため支障木の伐木作業中、同僚が伐倒した胸高直径38cm、全長約25mの杉が被災者を直撃した。	712	4	1～ 9
2004	2	16 ～ 17	農道の道路改良工事現場において、作業終了前に路面の凹凸の整地作業を行っていたドラグ・ショベルの後進中に、人力整地作業中の作業者が巻き込まれ、下敷きとなった。	142	7	10 ～ 29
2004	9	13 ～ 14	ドラグ・ショベルの操作者が運転席の扉を開けようと左手にて内側から扉を押して開けていたところ、運転席左側にある操作レバーに誤って腕が接触し当該機械のバケット部が前方に動き、作業中の被災者が当該機械のバケット部と既設擁壁との間に挟まれた。	142	6	10 ～ 29
2004	8	9 ～ 10	ドラグ・ショベルを使用し雑木を集めていたところ、ドラグ・ショベルが掴んでいた雑木が落下し被災者に衝突した。	169	4	1～ 9
		7				10

2004	3	8	軽自動車で行中、町道から車とともに約30m下の農道に転落した。	231	17	29
2004	1	16 ~ 17	道路局部改良工事現場において、被災者を含めた3名が工事記録の写真撮影作業を行っていた。終業時間になって被災者がいないことに気づいた同僚が、周囲を捜索したところ、現場事務所が置かれた県道から51m下の川に転落している被災者を発見した。	999	1	10 ~ 29
2004	6	15 ~ 16	橋脚建築現場の深礎杭施工で、ライナープレート（深さ14m、直径8m）内に設けた鉄筋にコンクリート打設用ブラケット足場を取り付け作業中、ブラケット足場用手すりの溶接をする際、安全帯での身体確保が十分に出来ず、深礎杭底部に墜落した。	419	1	50 ~ 99
2004	3	9 ~ 10	高速自動車道において、路面清掃作業に従事していた被災者が、中央分離帯付近に落下していた毛布を回収し、登坂車線路肩に停車していた作業車に戻る途中、追越車線を走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	1~ 9
2004	6	11 ~ 12	村道の法面（のりめん）修繕工事現場において、ドラグ・ショベルを運転して法面の掘削作業を行っていたところ、当該ドラグ・ショベルがバランスを崩し約5m下の谷川へ転落した。	141	1	10 ~ 29
2004	12	10 ~ 11	軽トラックに乗って、同社が施工する工事現場にセメントの空き袋を回収に行っていたところ、林道から約20m下の谷川の河原に軽トラックごと転落した。	221	17	10 ~ 29
2004	12	15 ~ 16	32 t ダンプトラックのオペレーターとして、切土場所から盛土場所まで、土の運搬を行っていたところ、一定速度のまま路肩マウンドを乗り越え、法面（のりめん）下にダンプトラックとともに転落した。	221	1	100 ~ 299
2004	3	15 ~ 16	2 t 車の荷台から、積んでいたコンパネを、手作業で下ろそうとした際に、コンパネが滑り落ちてきて下敷きになった。	522	5	1~ 9
2004	12	9	下水道用マンホール内部（深さ約5m）で深さ約1.5mの個所に真横に突き出た下水管の入り口に、ビニールシートでカバーをする作業中、硫化水素	714	12	1~ 9

		10	により意識を失い、マンホールの底まで墜落した。			
2004	9	9 ～ 10	中学校の運動場通路の舗装工事において、中学校の外の駐車場に止めていたバイブレーションローラーを町道を通って工事場所に移動させようと、被災者が運転して駐車場から町道に出て前進させていたところ、町道から約2.3mの畑に車両とともに転落した。	144	17	1～ 9
2004	9	17 ～ 18	既設橋脚の補強をするためフーチング上にて油圧式コアドリルを使用して杭を打ち込むためのボーリングをしていたところ、コアチューブが回転しなくなったためコアボーリングの削孔管に専用の蓋（コアキャップ 8kg）をしてコアキャップの口にコンプレッサーホースを取り付け圧力をかけたところ、コアキャップがはずれ上部にある点検用通路に当たった後、被災者に激突した。	419	4	1～ 9
2004	2	9 ～ 10	道路改良工事現場において、測量用木杭を一輪車に載せ、ドラグ・ショベルの近くを通行中、後進してきたドラグ・ショベルにひかれた。	142	7	1～ 9
2004	5	11 ～ 12	側溝の撤去および設置工事で、ドラグ・ショベルを使用して既設の側溝（コンクリートの塊）をつり上げて旋回したところ、当該側溝が玉掛けしたワイヤーから抜け落ち、道路に落下し被災者に当たった。	142	4	1～ 9
2004	9	11 ～ 12	中央分離帯のガードレールを据え付け作業中に気分が悪くなり、病院に搬送された。	715	11	1～ 9
2004	3	8 ～ 9	林道開設工事現場において、地山の掘削・法面（のりめん）整形工事を行った後、法尻にU字溝敷設のため、法尻にて被災者が床均しをしていたところ、法面が高さ約12m、幅3mにわたり崩落し、その土石により被災者は埋没した。	711	5	1～ 9
2004	2	16 ～ 17	農道拡幅工事において、道路谷側半分を掘削しL型擁壁を据え付けるために床掘り、床均しを行っていたところ、法面（のりめん）が長さ12m、巾0.5mにわたって崩壊し被災者が埋まった。	711	5	1～ 9

2004	5	15 ～ 16	道路拡幅工事現場において路盤を振動ローラーで転圧作業中に、振動ローラーと停車中のダンプカーに挟まれた。	144	7	10 ～ 29
2004	3	14 ～ 15	ガードレール設置工事現場において、打設されたガードレールの基礎コンクリートの法面（のりめん）側にある型枠を法肩に立って解体していたところ、法長約20m下にある県道の側溝付近まで法面を転落した。	418	1	10 ～ 29
2004	9	16 ～ 17	道路上で、鍬を用いて道路端の地ならし作業を行っていた被災者が、同じく地ならし作業のため後進してきたドラグ・ショベル（機体重量10 t）にひかれた。	142	7	1～ 9
2004	12	14 ～ 15	深さ26mの深礎坑内において、底盤から高さ約7.5mのタラップ上で半月板の撤去作業を行っていたところ、タラップから墜落した。	413	1	10 ～ 29
2004	2	2 ～ 3	道路整備工事の夜間作業所内において、作業エリア外を横断中、一般通行車両（大型タンクローリー）にはねられた。	221	17	50 ～ 99
2004	12	6 ～ 7	車を運転して工事の打ち合わせに行く途中、交通事故に遭い、死亡した。	231	17	1～ 9
2004	10	13 ～ 14	道路の清掃作業で、国道上に落ちていた落下物を回収するため、パトローカーを停車させ後部のハッチドアを開け片付けの準備を始めたところ、後方から来た大型トラックに追突された。	221	17	30 ～ 49
2004	6	11 ～ 12	歩道舗装工事において、ダンプトラック（4t）の荷台からアスファルト合材を降ろす作業後、ダンプトラックを少し前進させたところ、バランスを崩した被災者がトラックから後向きで地上に墜落した。	221	1	1～ 9
2004	8	16 ～ 17	農道整備にかかる下層路盤の置換工事現場で、10 t ダンプカーから小分けし下ろされた碎石の山を、ドラグ・ショベルの排土板を使い前進、後退させながら路面を平らに整地、転圧を行っていた際、ドラグ・ショベルの後	141	7	1～ 9

			方でスコップを使いならしていた被災者に激突した。			
2004	2	11 ～ 12	道路拡張工事現場で、帯工の型枠をはずしていた時、突然当該帯工が倒壊し、コンクリート床との下敷きになった。	418	5	1～ 9
2004	4	9 ～ 10	不整地運搬車により、残土の運搬作業中、工事用に作られた作業用通路上から、不整地運搬車とともに斜面を転落した。	227	1	10 ～ 29
2004	10	16 ～ 17	ほ場整備工事において配水管を敷設作業中、掘削溝内で待機していた作業者2名が、崩壊した法面（のりめん）（幅約1m、長さ約22m、高さ約2m）の土砂に埋もれた。	711	5	10 ～ 29
2004	10	16 ～ 17	ほ場整備工事において配水管を敷設作業中、掘削溝内で待機していた作業者2名が、崩壊した法面（のりめん）（幅約1m、長さ約22m、高さ約2m）の土砂に埋もれた。	711	5	10 ～ 29
2004	9	17 ～ 18	林道開設工事現場で、法面（のりめん）のラス張りのためのアンカーピン打ちの作業中、法面（高さ約15m、長さ約20m）が崩れ、生き埋めになった。	711	5	1～ 9
2004	5	15 ～ 16	災害防止工事現場で落石防護工事終了に伴い、親綱の撤去作業を行っていたところ、ロックネットと法枠の間に転落した。	711	1	10 ～ 29
2004	11	13 ～ 14	ガードレール部材をトレーラーに積み込むため、これをホイールクレーンで2mほどつり上げたところ、当該部材が落下、その下敷きとなった。	372	4	50 ～ 99
2004	1	9 ～ 10	ロータリー除雪車を用いての除雪・排雪作業中に、道路の左側の除雪作業を行っていた除雪車が前方の交差点でUターンしようとして、オーガーを持ち上げて道路の右側に移動し、前進していたところに、除雪車と並進歩行していた被災者が除雪車の前に滑り込むようにして転倒し、車輪にひかれた。	149	7	30 ～ 49

2004	7	13 ～ 14	道路の排水溝設置工事において、U字溝敷設用モルタルの練合せ、運搬の作業中、熱中症になった。	719	90	10 ～ 29
2004	9	18 ～ 19	帰社するため、事業場所有のワゴン車に乗車し、国道を走行中、信号機のない町道との十字路交差点において、側方より走行してきた軽自動車と衝突した。	231	17	10 ～ 29
2004	9	18 ～ 19	帰社するため、事業場所有のワゴン車に乗車し、国道を走行中、信号機のない町道との十字路交差点において、側方より走行してきた軽自動車と衝突した。	231	17	10 ～ 29
2004	12	15 ～ 16	工事現場から乗用車で国道を走行中、乗用車がスリップして対向車線に進入し、対向車の大型ダンプトラックと正面衝突した。	231	17	1～ 9
2004	9	7 ～ 8	工事現場に向うため、会社を車両3台で出発した。先頭を走行していた小型貨物自動車が信号待ちのため停止したところへ、2台目を走行していた普通貨物自動車がブレーキを掛けたが間に合わずに衝突し、普通貨物自動車を運転していた被災者が死亡した。	221	17	10 ～ 29
2003	12	9 ～ 10	山間部の斜面に落石防止網を取り付ける工事で、網を固定させるための縦ワイヤロープの設置作業中に、高さ約13.5mのところから道路上へ転落した。	379	1	10 ～ 29
2003	12	8 ～ 9	土木工事において、勾配がある路上に駐車中のタイヤローラーの逸走防止措置が不十分でひかれた。	144	7	10 ～ 29
2003	12	16 ～ 17	道路工事において、歩道路盤（砂利敷）の締め固め作業を一時中断し重機オペレーターがコンバインドローラー（機体質量2.3t）から降りようとしたときに、防寒服の袖が前後進レバーに引っかかったため後進し、ローラーの約73cm後方で路盤状況を確認していた者をひいた。	144	7	10 ～ 29
		22	舗装補修工事において、歩道と車道を区画するラインを引く作業をセン			10

2003	11	23	ターライナーで行っていたときに、交通誘導員の停止指示を無視して現場内に突っ込んできた飲酒運転の軽トラックにはねられた。	221	17	29
2003	11	14 15	保安林管理道整備工事において、道路側溝となるU型トラフをつるために使用していたドラグ・ショベルを後方へ移動させようとしたときに、ドラグ・ショベルと後方に停車していた敷モルタルを積載したダンプ・トラックとの間にはさまれた。	141	7	29
2003	11	14 15	町道改良工事において、ドラグ・ショベルで幅2.5mの進入道路路盤の整地作業中、ドラグ・ショベルの後方で均し作業をしていた者が、後退してきたドラグ・ショベルにひかれた。	142	7	9
2003	11	4 5	小型トラックで資材を運送した帰りに走行中、前走の車に追突して運転席ではさまれたときにエンジンから出火し、両下腿骨折と火傷を負った。	221	17	29
2003	11	10 11	県道の災害防除・道路拡幅工事において、車両系建設機械のブレーカとドラグ・ショベルを交互に使用して道路上で三分に掘削した法面（のりめん）下の床掘り作業をしていたところ、高さ約18m、幅約10mにわたって法面（のりめん）が崩壊し、ブレーカと無人のドラグ・ショベルが土砂に巻き込まれて道路下9mに流れる川に転落し、土砂に埋まった。	711	5	49
2003	10	13 14	ロリップを使用して高さ6mの法面（のりめん）（勾配はほぼ90度）で、ホースを持ってコンクリートの吹き付け作業を行おうとしたときに、親綱と安全帯の結び目が緩んだため、林道側溝に墜落した。	379	1	9
2003	10	7 8	資材置場前の市道に停車した車を移動させるため、車の側方を歩行しているときに、後方から走行してきた軽乗用車にはねられた。	231	17	29
2003	10	15 16	舗装作業に使用したタイヤローラー（10t）を保管場所へ移動していたときに、タイヤローラーが蛇行し（蛇行運転し）路肩から転落した。	144	1	29
		8	道路災害復旧工事において、法面（のりめん）にコンクリート吹付け作業			10

2003	10	～ 9	を行うため最初の圧力をかけエアーを抜いたところ、エアーの排出口の先端部分（直径6cm、長さ約60cmの鉄製のパイプ）の取り付けが不完全だったために吹き飛んで頭部を直撃した。	149	4	～ 29
2003	10	～ 12	道路建設工事において、ドラグ・ショベルのバケット上に鉄板（約1.6t）を載せて旋回させたときに、法肩から約4m下の道路にショベルとともに転落しクローラ部の下敷きになった。	142	1	～ 99
2003	9	～ 15	道路拡張工事において、工事完成検査が終了したので法面（のりめん）の落石防止柵に使用していた単管を片づけるため、落石防護ネット内に入って単管を防護ネットの外にいる者に手渡していたときに、法面（のりめん）上部から岩石が落下し激突された。	711	4	30 ～ 49
2003	9	～ 17	U形側溝敷設のため、路面を床掘した個所に鋼板（244cm×123cm、厚さ2.5cm）を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.925t）でつり込んでいるときに、鋼板に設けた穴に通した「ピン」が抜け落ちたため鋼板が倒れてきた。	372	4	10 ～ 29
2003	9	～ 11	農免道路工事において、擁（よう）壁コンクリート打設後の型枠を解体するため、型枠材に載ってダムフォームのボルトを緩めていたときに足を踏み外し墜落した。	418	1	1～ 9
2003	9	～ 9	8 林道の復旧作業中に、路肩が崩壊してブレーカとともに転落した。	145	1	30 ～ 49
2003	9	～ 6	5 高速道路の舗装改良工事において、工事場所の1km手前の個所に工事標識の看板を設置しようとしているときに、蛇行運転をしてきた4tトラックが飛び込んできて作業員4名のうち1名が死亡した。	221	17	30 ～ 49
2003	8	～ 1	0 生コンクリート（1.75m ³ ）をコンクリートミキサー車（最大積載量3,950kg）で工事現場に運搬中に、市道（幅員3m）の路肩から約20m下の谷の斜面に転落した。	221	17	10 ～ 29
		10	歩道の拡幅工事において、ドラグ・ショベルでアスファルト舗装をはがす			

2003	8	～ 11	ため、舗装にショベルの爪を掛けて斜めに引いたときに、爪がアスファルトから外れた反動でバケットが左側に振れ、舗装ガラの運搬のために待機していたダンプカーの運転手がダンプとバケットとの間にはさまれた。	142	7	1～ 9
2003	8	～ 3	台風で工事現場内のドラグ・ショベルが浸水しないように移動するため、2名で現場に向ったまま2名とも行方不明になり1名の遺体は川で発見され、1名は行方不明のまま死亡除籍とされた。	719	1	～ 29
2003	8	～ 3	台風で工事現場内のドラグ・ショベルが浸水しないように移動するため、2名で現場に向ったまま2名とも行方不明になり1名の遺体は川で発見され、1名は行方不明のまま死亡除籍とされた。	719	1	～ 29
2003	8	～ 14	台風の影響で、道路の地下を横断する形で沢から河川に流している暗渠（きよ）が土石で閉塞したので、土石を除去するため2名が暗渠（きよ）の下流側となる河川の護岸側から内部に入って状況の確認をしていたときに、詰まっていた土石が水に押し出されたため、土石と水で2名が河川に流され行方不明となった。	713	10	～ 29
2003	8	～ 14	台風の影響で、道路の地下を横断する形で沢から河川に流している暗渠（きよ）が土石で閉塞したので、土石を除去するため2名が暗渠（きよ）の下流側となる河川の護岸側から内部に入って状況の確認をしていたときに、詰まっていた土石が水に押し出されたため、土石と水で2名が河川に流され行方不明となった。	713	10	～ 29
2003	8	～ 11	林道の開設工事において、勾配約60度の法面（のりめん）でバール等で法面（のりめん）のはつり作業を行っていたときに、安全帯のロリップを取り付けていた親綱が岩とこすれて切断し約50m下の林道に転落した。	379	1	1～ 9
2003	8	～ 10	ドラグ・ショベルを運転していて道路端に寄ったところ、傾斜地（林）となっていたためドラグ・ショベルとともに約30m下に転落した。	142	1	～ 29
2003	8	～ 14	道路建設工事において、道路上に停車させていた締固め用機械を運転して工事の邪魔にならない個所へ移動させていたときに、道路路肩（ガードレール無）から締固め用機械ごと谷に転落し、運転席から投げ出されて約	144	1	～ 10

		15	8m下方の山林に激突した。			29
2003	7	14 ～ 15	コンクリート擁（よう）壁の天端（幅38.5cm）でモルタルの入ったバケツをトラロープで引き上げようとしたときに、トラロープの結び目が外れたため、身体のバランスを崩して約30m下の谷に墜落した。	416	1	30 ～ 49
2003	7	11 ～ 12	市道の側溝補修工事において、ドラグ・ショベルで掘削した溝（深さ約80cm、幅約1.1m、長さ約16.6m）に砕石を入れ掘削溝内で床均し作業を行っていたところ、側面のブロック塀（塀の高さ約1.9m、長さ約15.6m）が倒壊し、ブロック塀と道路との間にはさまれた。	418	5	1～ 9
2003	7	22 ～ 23	国道の舗装修繕工事において、乳剤塗布作業を行ったのち交通規制範囲内で同僚と乳剤散布機械の作業について打合せを行っていたところへ、対向車線を走行してきた軽自動車交通規制範囲内に進入してきてはね飛ばされた。	231	17	30 ～ 49
2003	7	10 ～ 11	ドラグ・ショベルのバケットの交換作業中に、勾配4度の道路をエンジンをかけたままの無人のダンプトラックが後進してきて、ドラグ・ショベルとダンプ・トラックとの間に頭部をはさまれた。	221	7	30 ～ 49
2003	7	16 ～ 17	道路工事において、作業用通路の凹凸を平らにするためドラグ・ショベルのバケットでそばの伐倒した木材や土砂をかき落としているときに、付近の作業者をひいた。	142	6	1～ 9
2003	6	16 ～ 17	消防庁舎の整備工事において、ドラグ・ショベルの運転席から身を乗り出して自らが運転するドラグ・ショベルの給油作業を手伝おうとしたときに、ドラグ・ショベルのアームと運転席の窓枠との間にはさまれた。	142	7	1～ 9
2003	6	11 ～ 12	街路整備工事で出た伐採材の片付け作業で、ドラグ・ショベルのアタッチメントをハサミに交換した機械で引きずり出される途中の伐採材（長さ12m、直径25cm）の枝部分が片付けの手元に当たり、仰向けに転倒して舗装路に頭部を強打した。	149	6	10 ～ 29
2003	6	15	道路舗装工事において、ドラグ・ショベルでダンプ・トラックにコンクリートガラを積み込む作業を行っていたときに、停車していたダンプ・ト	142	6	1～

		16	ラックと後進してきたドラグ・ショベルとの間にはさまれた。			9
2003	6	11 ～ 12	道路に設置したドラグ・ショベルのバケットで生コンクリートのホッパーをつり上げ、法面（のりめん）下へ生コンクリートの打設作業中に、路肩および法面（のりめん）が崩壊したため、法面（のりめん）下で作業していた2名の下半身が埋まったので、ドラグ・ショベルを移動しようとブームを山側に旋回させたところ、さらに土砂が崩れてドラグ・ショベルが転落し、1名がドラグ・ショベルの下敷きになった。	711	5	30 ～ 49
2003	6	13 ～ 14	2tトラックをL型溝前面の掘削された道路脇に止めて碎石の埋戻し作業を行っていて、トラックを動かそうと運転席に乗りドアを開けたままエンジンをかけたところ、トラックが1mほど後退して運転席の脇にあった電柱にドアがぶつかったので、前進させようとアクセルを踏み込んだときに、運転席から転落し前進したトラックと電柱との間にはさまれた。	221	7	30 ～ 49
2003	6	10 ～ 11	高速道路の取り付け道路工事で、ドラグ・ショベルで掘削した土砂を不整地運搬車に積んだ後に土捨場に向いかけたときに、後退して左旋回したドラグ・ショベルのカウンターウエイトが不整地運搬車の運転席に激突し、運転手が全身打撲を受けた。	141	6	50 ～ 99
2003	5	8 ～ 9	治山工事において、勾配約30度、レキ岩混じりの土砂からなる傾斜地を機体質量2.7tのドラグ・ショベルで下る途中で、車体が一回転して傾斜地下方で作業していた機体質量20tのドラグ・ショベルの右前方のクローラに衝突し、転倒の際にオペレーターが運転していたドラグ・ショベルの下敷きになった。	142	2	10 ～ 29
2003	5	9 ～ 10	法面（のりめん）小段において、ドラグ・ショベル（機体質量3t）で掘削していたところ、小段の地山が崩壊したためドラグ・ショベルが7m下に転落した。	711	1	10 ～ 29
2003	4	10 ～ 11	ブル・ドーザーをトレーラーに積み込む作業中、後進してきた無人のブル・ドーザーに全身をひかれた。	141	7	10 ～ 29

2003	4	9 ～ 10	道路建設工事において、歩道下の側溝内に堆積している土のうを除去するため、側溝の蓋を外して中に入り土のうの状況の確認作業を行っていたときに、歩道を走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	～ 49
2003	4	10 ～ 11	河川堤防上の道路舗装工事において、転圧ローラー（質量950kg）の位置を入れ替えるため、ドラグ・ショベル（バケット容量0.15m ³ 、機体質量3.7t）でつり上げようとしたときに安定を失い、転圧ローラー、ドラグ・ショベルとともに約2.5m下方の河原へ転落し、ドラグ・ショベルのブームが頭部に当たった。	142	1	～ 29
2003	4	14 ～ 15	林道開設工事において、ドラグ・ショベル（バケット容量0.8m ³ ）のバケットを使用して整地作業中に、ドラグ・ショベル右側（谷側）の路肩が長さ約11m、最大で幅2mにわたって崩壊したため、機体が約130m下に転落し、オペレーターが路肩から約70m下方で機体から投げ出された。	142	1	30 ～ 49
2003	4	13 ～ 14	道路改良工事で、埋め戻し作業を2台のドラグ・ショベルで行っていて、上側のドラグ・ショベルの運転手が運転席を降りて下側のドラグ・ショベルと山側の間を通過しようとしたときに、下側のドラグ・ショベルが旋回したため、ドラグ・ショベルの後部と法面（のりめん）の間にはさまれた。	142	7	10 ～ 29
2003	4	13 ～ 14	高速道路用橋脚の立坑（縦約23m、横約24m、深さ約12m）内において、ドラグ・ショベルを用いて掘削作業を行っていて、ドラグ・ショベルを運転して切ばりの下を潜り抜けようとしたときに、切ばりの高さが低かったため左側頭部が切ばりに当たった。	142	3	10 ～ 29
2003	4	0 ～ 1	道路法面（のりめん）工事において、工事完了検査用を開けた検査孔（10×10cm）6箇所をモルタルで埋め戻す作業のため、高さ約51mの法面（のりめん）上部から垂したロープ（直径18mm）を使用して作業を開始しようとしたときに、ロープが切れて約40m下の道路脇に墜落した。	379	1	30 ～ 49
2003	3	14 ～ 15	工事現場において、同僚とともに法面（のりめん）の養生をするため農業用運搬機に土のうを積載し、法面（のりめん）上部に運搬しようとしたときに、農業用運搬機が下方向にずり落ちてきて同僚が運搬機にひかれた。	229	7	10 ～ 29

2003	3	13 ～ 14	道路新設工事現場で、ワイヤマットを敷く準備のため、奥行約4mの作業床の端に置いてある35枚のワイヤマットの上で、ワイヤマットの梱包結束番線とつり荷結束線の切断作業を手工具を使って行っていたところ、ワイヤマットの網目に履いていた長靴の足元が引っ掛かって体のバランスを崩し、約2.6m下の基礎砕石の敷いてある床堀面に墜落した。	416	1	～ 29	10
2003	3	15 ～ 16	土捨て場に残土を捨てるため、不整地運搬車を無資格で運転していて法面（のりめん）上部から約3.5m下に転落し、運搬車と雑木との間にはさまれた。	149	1	1～ 9	
2003	3	11 ～ 12	道路の拡幅に伴う側溝の敷設工事で、地中にある排水管（コンクリート製 外径50cm）をドラグ・ショベルで引き抜くため、ワイヤロープを掛けようとしていたときに、掘削個所の側面の土砂が崩壊して頭部から胸部が配水管に圧迫された。	711	5	1～ 9	
2003	3	6 ～ 7	ドラグ・ショベルで排土を10tトラックへの積み込む作業中、傾斜地に停車していたトラックが動き出したので止めようとしたところ、トラックが横転し下敷きになった。	221	7	1～ 9	
2003	2	14 ～ 15	道路工事に使用する土止め用の大型土のう（約1t）をドラグ・ショベルを用いて製作する作業中、製作し終わった土のうをドラグ・ショベルでつり上げ移動させたところ、ドラグ・ショベルが横転しかけたので運転していた被災者が運転席の外に逃げ出したが逃げきれず、横転してきたドラグ・ショベルの下敷きとなった。	142	2	10 ～ 29	
2003	2	11 ～ 12	ボックスカルバートの設置で、型枠材および支保工に使用していた鋼管枠を解体しようとしたが根太材の取り外しがうまく行かなかったため、鋼管枠との間（約80cm）を移動しようとしたときに、バランスを崩して約3.6m下のコンクリート床面に墜落した。	411	1	30 ～ 49	
2003	2	15 ～ 16	移動式クレーン（つり上げ荷重2.9t）を使用して、工事現場に運搬してきた電柱4本（2.4t／本）を荷台から降ろす作業で、3本目をつり上げたときに移動式クレーンが転倒したため、近くでスノーポールの設置作業をしていた者の後頭部に、荷台に積載されていた4本目の電柱が激突した。	212	6	1～ 9	

2003	2	15 ～ 16	農道の拡幅工事において、地山を掘削したのち法面（のりめん）保護のためのブロック擁（よう）壁を築造するための床掘り作業をしていたところ、斜面（4分勾配：泥岩）が高さ9m幅9m厚さ50cmにわたり崩落し、生き埋めになった。	711	5	10 ～ 29
2003	2	8 ～ 9	ドラグ・ショベルを移動しようとしたときに、運行経路の傾斜部で滑ってそのまま路肩から川へ転落し溺死した。	142	1	10 ～ 29
2003	2	9 ～ 10	堤防散歩道整備工事において、ダンプ・トラック（最大積載荷重3t）から荷台に積んだ砂利を下ろすため、荷台に乗ってかぶせていたシートをはがした後、あおりに足をかけて降りようとしたときに、荷台から約1.3m下に墜落した。	221	1	10 ～ 29
2003	1	11 ～ 12	道路改良工事において、ドラグ・ショベルを使用して不整地運搬車に積みれた補強土壁用ブロックをつり降ろすため荷台上で待機していたところ、誤操作によりドラグ・ショベルが旋回したため、バケットで胸部を強打された。	142	6	1～ 9
2003	1	9 ～ 10	道路路面改良工事で、中層の玉砂利をドラグ・ショベルで大まかに均したのち、トンボでさらに手均しをしていたところへ、後退してきたドラグ・ショベルにひかれた。	142	7	10 ～ 29
2003	1	7 ～ 8	事務所で就業する建設現場の指示を受けた後バイクで現場へ向かう途中、国道の交差点で左折しようとしていた乗用車の後方より前へ出ようとして乗用車と接触して横転した。	231	17	10 ～ 29
2003	1	10 ～ 11	1tローラーで道路の舗装作業中、後方よりタイヤローラーがバックしてきてひかれた。	144	7	10 ～ 29
2003	1	8 ～ 9	町道の坂道で、除雪剤を撒いた路面で車がスリップして横向きに道をふさぐ形となったため、車の様子を見に行った時、車の5m程前の凍結したアスファルト舗装道路で足を滑らせ横転し、後頭部を強打した。	714	2	30 ～ 49

2002	11	14 ～ 15	農業用トラクターで作業通路を通過して現場の下方に移動していたところ、 トラクターが急に速度を上げて通路脇の法面に乗り上げ、その反動で地面 に投げ出されトラクターのロータリー部分に激突した。	149	1	～ 49
2002	12	22 ～ 23	資材置場で、車両積載型クレーンのサイドブレーキのワイヤーを調整して クレーンを動かしたとき、エンジンから動力を伝えるプロペラシャフトの ネジ部に作業服を巻き込まれた。	121	7	1～ 9
2002	12	7 ～ 8	工事現場へ移動するため事務所から乗用車で出発し信号待ちをしていたと ころ、白バイに追われていた車に後方から追突されたので、運転席から降 りたときに逃走車が急発進して跳ねられ、そのまま約17m引きずられた。	231	17	～ 299
2002	12	1 ～ 2	国道のアスファルト補修工事を行うため、現場に到着してカラーコーンの 設置等の準備中に、ワゴン車が突進してきて跳ねられた。	231	17	1～ 9
2002	12	14 ～ 15	雨で道路工事ができないので、工事場所に隣接する自社所有の山から葉が 落ちて工事を行っているU字溝へ溜まる原因となる立木をチェーンソーで 伐倒中、伐倒していた立木（高さ約18m、胸高直径33cm）が裂けて落下 し激突された。	712	6	1～ 9
2002	12	14 ～ 15	林道開設工事において、法面が高さ約60m、長さ約50mにわたり崩壊した ため、下方で打合せをしていた2名のうち逃げ遅れた1名が生き埋めになっ た。	711	5	～ 29
2002	12	13 ～ 14	道路新設工事において、碎石を敷き終わってローラーで転圧作業中に、 ローラーの後方にいた者をローラーで轢いた。	144	7	1～ 9
2002	12	13 ～ 14	道路改良工事において、一人でローラーによる転圧作業を行っていて路肩 より約2m下の水路に転落し、ローラーから投げ出されて深さ約20cmの水 中でローラーの下敷きになった。	144	1	～ 29
2002	11	16 ～	落石防止用コンクリート擁壁の設置工事において、打設したコンクリート 擁壁の型枠点検中に、山側法面の土砂（岩）が崩壊したため擁壁と岩との	711	5	1～ 9

		17	間に挟まれた。			
2002	10	8 ～ 9	ドラグショベル（機体質量12 t）のバケットに取り付けられたフックにワイヤーロープを掛けてコンプレッサーを吊り上げ移動しようとしたときに、ショベルが転倒して運転席から投げ出され頭部を挟まれた。	142	2	10 ～ 29
2002	11	10 ～ 11	市道の側溝設置工事において、溝内（深さ65 cm）でスコップを使って掘削した土をドラグ・ショベルのバケットに入れる作業中、ドラグ・ショベル運転者が運転席に乗り込み中腰で安全ロックを解除したときに、着ていた雨衣が旋回レバーに引っかかったため、上部旋回体が旋回しバケットと溝脇の擁壁との間に挟まれた。	142	6	1～ 9
2002	11	8 ～ 9	ワゴン車で国道を走行中、センターラインから反対車線側の工事用バリケードを越えて進入し、丁張りかけを行っていた作業者を跳ねた。	231	18	10 ～ 29
2002	11	19 ～ 20	一部崩壊した道路の危険防止のため、強風により倒れている囲い（プラスチック製）を起こしたのち囲いの中に入り固定する資材を探しているときに、崩壊した穴（6.5×3.1m、深さ1.3m～3.4m）に墜落した。	419	1	10 ～ 29
2002	11	14 ～ 15	道路拡幅工事において、水路用溝（深さ1.8m、幅1.2m、延長26m）を掘削して土止め用の鉄板（長さ6.1m、高さ1.5m、厚さ25mm、質量1.8 t）をドラグショベルで降して木片（長さ1.3m及び1m）2つを組み合わせもの一点で仮支えし、もう1枚をつり降ろした後に溝内に入り切梁の長さを測定していたときに、木片の支えが外れて倒れてきた鉄板に頭部を挟まれた。	521	5	1～ 9
2002	11	3 ～ 4	国道上で道路の舗装工事中、前進してきたマカダムローラーに接触し、マカダムローラーとアスファルトフィニッシャーとの間に挟まれた。	144	3	10 ～ 29
2002	11	16 ～ 17	林道新設工事において、2 t 積みダンプに現場内の切土を積みバックで約80 m離れた盛土場所まで運搬しているときに、林道（幅員約7m）の路肩から約18m下の谷へ転落した。	221	1	1～ 9
			道路拡幅工事において、下段で高さ約2m、幅約1.5m、奥行約0.5mの崩壊			

2002	6	15 ～ 16	があったのでいったん退避し、その後、上段で5名が吹付けと法枠の清掃を、下段でドラグショベルを用いて応急処置として崩壊部分に土を入れる作業を再開したところ、法面頂部で大規模崩壊が発生し、崩壊とともに転落した1名が落石（約1m）を腰部に受けた。	711	5	1～ 9
2002	10	15 ～ 16	林道と隣接している残土捨場で、11 t ダンプトラックを用いて林道工事現場の掘削土石を排出作業中に路肩が崩れたため、67m下の谷底へダンプもろとも転落し車外に投げ出された。	221	1	10 ～ 29
2002	9	17 ～ 18	農道新設工事で、重機と人力により道路盛土の敷き均し作業中、バックしてきた重機のキャタピラに押し倒され右足及び腰部を轢かれた。	142	7	10 ～ 29
2002	9	13 ～ 14	崩壊した法面の改修工事において、法面の頂部で測量の支障になる木の枝及び下草を刈り落とす作業のため、外した親綱を手を持って移動中にバランスを崩し、高さ19m下のアスファルト舗装された県道に転落した。	711	1	10 ～ 29
2002	8	8 ～ 9	林道工事現場で、擁壁の足場解体作業中に梯子から足を踏み外して墜落した。	371	1	10 ～ 29
2002	9	15 ～ 16	道路改良工事現場において、交通誘導員が制止したにもかかわらずワゴン車が突っ込んできて、センターラインのピン打ちをしていた作業者と交通誘導員を跳ね2名とも死亡した。	231	17	1～ 9
2002	9	16 ～ 17	林道開設工事において、長さ約20mの杉を伐倒したが山の斜面上に倒れたために玉切りしたところ、長さ12.2mの杉材が根元側を上にして林道上のドラグ・ショベルにもたれかかったので、ドラグ・ショベルを移動させて落下させたときに、林道上で玉切り作業をしていた者の頭部を直撃した。	712	6	1～ 9
2002	9	7 ～ 8	前日から現場に堆積していたコンクリート構造物の残がいやをダンプで片付ける作業で、残がい付近に停車してあったタイヤローラーが邪魔になるため移動させたときに、路肩から約4m下の沢に重機とともに転落した。	144	1	50 ～ 99
		15	同僚が伐倒木（ナラの木）の玉切りを終えたので、ラフタークレーンで吊			50

2002	8	～ 16	るため谷側にある吊り具を取りに伐倒木の下側を通ったときに、玉切りした木（重さ1.1t、径57cm、長さ3.77m）が転がってきて腰等に激突した。	712	6	～ 99
2002	8	16 ～ 17	道路工事現場で、前日までに掘削した残土をダンプ（9t）にドラグショベルで積み終えたとき勾配約12度の仮道からダンプが動き出したので、ドラグショベルの運転席から飛出してダンプの運転席に乗ってダンプを制止させようと併走していて轢かれた。	221	6	10 ～ 29
2002	8	11 ～ 12	ダム工事中道路工事でダンプトラックに土砂を積んで走行中、道路外に転落して下敷きとなった。	221	17	30 ～ 49
2002	8	9 ～ 10	散水車を停止して給水作業を行っていたところ、散水車が動き出して接触し水路に落ちたところへ散水車の後輪も落ちたため、後輪と水路壁との間に挟まれた。	221	6	30 ～ 49
2002	7	11 ～ 12	道路改良工事において、作業員6名が既存の掘削箇所で床掘りを行っていたときに、背後の地山が崩壊し1名が土砂に埋まった。	711	5	1～ 9
2002	7	15 ～ 16	伐採した雑木を搬出するため、山の斜面にある伐木をドラグ・ショベルのバケットで道路上に引き落とす作業を行っていたときに、監視員が落下してきた伐木に激突された。	142	4	1～ 9
2002	7	15 ～ 16	市道拡幅工事において、L字擁壁設置予定箇所（高さ2.4m幅1.8m）の土手をドラグショベルで掘削するため掘削面の下でドラグショベルに合図をしていたところ、深さ1mの位置に埋設されていたヒューム管（径33cm、長さ4m）が掘削面の土砂および街灯（長さ4m、根入60cm）とともに倒壊して激突された。	418	5	1～ 9
2002	7	15 ～ 16	道路拡幅工事現場の法面で高さ約2m、幅約1.5m、奥行約0.5mの崩壊があり、退避後、上段で5名が吹付け法枠の枠内清掃を、下段でドラグショベルを用いて応急処置として崩壊部分に土を入れる作業を再開したところ、法面頂部より大規模崩壊が発生し1名が死亡した。	711	5	1～ 9

2002	6	16 ～ 17	現場作業が終了して部分使用されている交差点で、中央分離帯が破損してコンクリート破片が下り走行車線に散らばって危険との連絡が入ったので、現場事務所より現地へ行って破損状況の撮影をしたのち横断歩道を歩行中に、乗用車にはねられた。	231	17	30 ～ 49
2002	4	13 ～ 14	道路緊急整備工事において、機械掘削された法面（高さ約4m、掘削勾配約65度）の直近で「鍬」で河床の整形作業を行っていたとき、上方約3.5mの法面から石（質量113kg）が落下し前かがみの状態で作業していた者の背中を直撃した。	711	4	30 ～ 49
2002	6	13 ～ 14	国道を軽トラックで走行中、前方のトラックを追い越そうとして反対車線にはみ出したときに、直進してきたトレーラーと正面衝突した。	221	17	50 ～ 99
2002	5	14 ～ 15	林道及び斜面に大量に落下した枝の取り除き作業において、地山を切り取って作業箇所を確保しグラップルにより斜面の枝を取り除いていたときに、作業箇所が崩壊しグラップルとともに約26.5m下の河原に転落した。	229	1	10 ～ 29
2002	7	15 ～ 16	林道開設工事の土砂捨て場において、谷側法面の整形作業を行っていた2台のドラグ・ショベルのうち1台のドラグ・ショベルを作業箇所から移動したときに、突然土砂が崩壊してドラグ・ショベルが運転席ごと埋まった。	711	5	30 ～ 49
2002	5	16 ～ 17	電柱建替え工事の段取り作業を行っていたところ、走行してきたトラックが駐車していた建柱車に追突したため、建柱車と高所作業車の間にいた者が両車に挟まれた。	221	17	10 ～ 29
2002	4	11 ～ 12	伐開作業を行うため杉立木に登り手鋸を使用して枝打ち作業を行っていて、約4.4mのところまで枝を落としていたときに墜落した。	712	1	10 ～ 29
2002	5	15 ～ 16	林道新設工事において、ミニワイヤーウォール工法を用いて道路谷側壁面の補強作業を行っていた小型のドラグショベルが180度旋回（機体上部のみ）したときに、谷側に転倒しそのまま谷の斜面を約20m転落した。	142	1	30 ～ 49
		16	主要地方道の交通安全施設整備工事において、現場内を移動していた者が			10

2002	3	～ 17	わだちを残さないようアスファルトを転圧するために後進させていたローラーに轢かれた。	144	6	～ 29
2002	5	～ 10	林道開設工事において、あらかじめ伐倒して斜面に仮置きしていた支障木を斜面の下の方まで落とす作業で、上の伐倒木から順に1本ずつ行っていたところ、1本が斜面の途中で引っ掛かったので斜面を降りて伐倒木を鳶口でこねているときに、斜面上方の伐倒木数本が崩れ落ちてきて下敷きになった。	712	4	1～ 9
2002	2	～ 17	町道の舗装完了後にコンバインドローラーで仕上げ転圧作業中、後進したコンバインドローラーが片付けのため歩行していた者をローラーで轢いた。	144	7	10 ～ 29
2002	4	～ 14 ～ 15	水路岸のコンクリート法面（傾斜角35度）の除草作業で、水路内外を隔てる柵の外から草を受け取るためガードレール支柱と柵にそれぞれ足をかけて水路側へ身を乗り出したときに、水路側へ墜落し約3km下流で発見された。	418	1	30 ～ 49
2002	4	～ 13 ～ 14	道路新設工事に支障のある立木をチェーンソーで伐倒しようとしたがチェーンソーがはさまり取れなくなったので、ドラグ・ショベルのバケットのフックにワイヤロープを掛けて木をつり上げて外そうとしたときに、木がドラグ・ショベル側に倒れてバウンドして木の近くにいた者の頸部及び頭部に激突した。	712	6	100 ～ 299
2002	3	～ 3 ～ 4	夜間に道路の補修作業をしていたところへ飲酒運転の一般車両が突っ込み、作業員1名死亡、1名が重傷を負った。	231	17	10 ～ 29
2002	3	～ 9 ～ 10	ブロック積擁壁設置工事のコンクリート打設作業で、ドラグショベル（機体質量9220kg）のバケット（容量0.5?）のフックにワイヤーをかけて吊る作業が終了したので、県道上でバケットをショベルのバケットフックから外しているときに、ショベルのバケットとコンクリートバケットとの間に身体を挟まれ死亡した。	141	7	10 ～ 29
		15				10

2002	4	～ 16	道路工事現場でトラックの荷台からアスファルト合材を工事用の機械に投入していて、荷台より落下し頭部を強打した。	221	1	～ 29
2002	3	8 ～ 9	道路を舗装するために幅を計測して赤スプレーでマーキングする作業中、バックホーが作業場に入ってきたので通り過ぎるのを待ち、バックホーが停車した後作業を再開したときに、バックホーがバックしてきたためキャタピラに巻込まれた。	142	7	1～ 9
2002	3	10 ～ 11	国道改築工事で、汚水のダム内への進入を防止する土嚢が置かれていたが、ダムの水位が上昇したのもう一段土嚢を積み上げる作業を行っていたときに、一段目の土嚢上で合図作業をしていた者が足場になっていた土嚢がダム内に滑ったため一緒にダム内に落ち水死した。	713	10	50 ～ 99
2002	3	2 ～ 3	道路拡幅工事において、走行してきた乗用車が工事規制帯に突っ込み、コンクリートミキサー車を誘導していた者を跳ねた。	231	17	10 ～ 29
2002	3	10 ～ 11	舗装補修工事現場で、道路中央付近で路面に散乱していたアスファルト骨材をほうきで掃いていたところ、後ろからきたマカダムローラーに轢かれた。	144	7	30 ～ 49
2002	2	10 ～ 11	バックホーによる大型ブロック（1.2 t）の据付け作業で、据付け微調整のため運転手が作業員へ位置の状態を話すために運転席の脇から顔を出し、その後運転席へ座ろうとしたときに左肘が操作レバーに当たったためアームが手前に動いてブロックがずり落ち、ブロックと掘削面との間に作業員が挟まれた。	212	7	50 ～ 99
2002	3	16 ～ 17	農業集落排水工事において、県道を復旧させるために路盤材で埋め戻しを行い振動ローラー（機体質量3t）で路盤の締め固め作業中、路盤材の敷きならし作業を行っていた者が後退してきた振動ローラーに頭部を轢かれた。	144	7	30 ～ 49
2002	3	11 ～	10 t ダンプで運ばれてきた砂利をドラグショベルの後方で鋤簾を使用して均し作業中、後退してきたドラグショベルに轢かれた。	142	7	10 ～

		12				29
2002	3	22 ～ 23	道路舗装工事に付帯する下水管理設工事において、バックホーを用いて長さ6m、幅1m、深さ2mに掘削し、土止め支保工を設置するため未施工箇所に降りたところ、掘削片面の土砂が縦2.3m、横2.9m、奥行き0.4mにわたり崩壊し生き埋めとなった。	711	5	10 ～ 29
2002	3	9 ～ 10	予告看板の日付の書替のため、道路横断中に車に跳ねられた。	231	17	10 ～ 29
2002	3	10 ～ 11	林道開設工事現場において、ドラグショベルで法面上にある木の除根作業を行なおうとしていたところ、突然、作業面の約4mから11mの地山が崩壊したため、作業面の一部が欠落してドラグショベルが約200m下の一般道路まで転落した。	711	1	10 ～ 29
2002	3	13 ～ 14	国道の路側整備工事現場において、路側に止めていたトラックの荷台でコンプレッサーのホースを片づけていて、誤って道路下約10mの海岸に転落した。	221	1	1～ 9
2002	2	13 ～ 14	工事現場で使用した鉄板を別の工事現場へ運ぶため、ドラグショベルのバケット背部のフックにワイヤーロープを掛けて吊り上げ左方向に旋回させたときドラグショベルが左側に横倒しになり、運転していた者がドラグショベルの下敷きになった。	142	2	1～ 9
2002	1	9 ～ 10	道路防災工事で山側法枠部分の張出足場の解体中、足場材を地上に降ろすために法枠に沿って設けられた単管足場に乗り上から手渡しで降ろす作業を行っていたときに2.37m下に墜落した。	411	1	10 ～ 29
2002	3	16 ～ 17	用水路上を歩道にするため、既設水路の上に敷くコンクリート製床板2枚（約700kg）をドラグショベルに吊り下げて移動していたところドラグショベルが横転し、近くにいた者が車体に押されて水路内に転落した。	142	6	1～ 9
2002	2	10 ～	道路整備工事現場において、整地作業に使用するロードローラーを取りに行き戻ってくる途中、誤って道路整備脇の水路に重機ごと転落してロード	144	1	1～

		11	ローラーの下敷きになり、水路に深さ30cmほどの水があったため溺死した。			9
2002	2	13 ～ 14	道路舗装工事の現場内で誘導員がロードスイーパー（道路清掃車）の後進運転を誘導したが、その必要なくなったと判断して誘導員が所定の誘導位置に戻ったときに、ロードスイーパーが仮区画線引きの作業をしていた者を轢いた。	229	6	10 ～ 29
2002	1	0 ～ 1	ダム管理用道路の開設工事現場で、切り株（直径30cm、長さ50cm）を機体質量2.48tのドラグ・ショベルで吊り上げて旋回していたところ、バランスをくずしてドラグ・ショベルが転倒し、運転席から投げ出されて約28m下の谷へ転落した。	142	1	50 ～ 99
2002	1	9 ～ 10	県道沿いの川に設けた作業台の解体作業で出た部材をケーブルクレーンで荷揚げ作業中、高さ95cmの手すりを超えて40m滑落した。	416	1	30 ～ 49
2002	1	8 ～ 9	道路工事現場において、ドラグ・ショベルに装備されているフックにワイヤーロープを引っかけてスクリューロッドを吊り上げ中、ロッドが落下してきて胸腹部を強打した。	372	6	1～ 9
2002	1	7 ～ 8	資材置場において1人で片付をしているときに、近くで作業中の移動式クレーン（2.52t）が倒れ、クレーンと地面との間に挟まれた。	212	7	10 ～ 29
2002	1	10 ～ 11	排水路の改修工事で、蓋付きのU字溝を布設するためドラグショベルで深さ約90cm、幅約140cm掘削し、床部に約10cmの生コンクリートを入れて均しているとき、コンクリートブロック製の擁壁（基礎部分も含め高さ約160cm、長さ約190cm）が倒れ、擁壁と掘削した道路の舗装部との間に頭部を挟まれた。	418	5	10 ～ 29
2002	1	14 ～ 15	ドラグショベルのバケットでクラッシュランをブロック積の裏側に入れる作業中、コンクリートブロックの写真撮影をしようとした者が移動したドラグショベルに轢かれた。	142	7	10 ～ 29

2002	1	10 ～ 11	道路新設工事における水路用ボックスカルバートの設置作業で掘削した盛土の整形のため、盛土の最上部までドラグショベルを進行させたときに、ドラグショベルが盛土を乗り越え反対側で転倒し、ドラグショベルの下敷きになった。	142	2	1～ 9
2002	1	10 ～ 11	4 tトラックの荷台でコンクリート製のL字型側溝をドラグショベルで路上におろす作業中、側溝を吊った直後に地上にいた合図者がトラック運転者に前進させる合図を出してトラックが前進したため、バランスを崩して側溝とともに地上に墜落した。	221	1	1～ 9
2001	12	9 ～ 10	道路工事現場で道路下の杉のかかり木が作業に支障があるため、道路上からドラグショベルにワイヤーロープを掛けてかかられた木から外そうとしたときに、かかり木は外れずドラグショベルが道路から13. 9m下に転落し、その下敷きになった。	142	1	1～ 9
2001	12	9 ～ 10	駐車場から道路を挟んで反対側の歩道の舗装工事現場に行くため、国道を横断したときに、走行してきた軽トラックに跳ねられた。	221	17	30 ～ 49
2001	5	16 ～ 17	国道の舗装工事において、施工した舗装の温度測定をしゃがんで行っていたところ、バックしてきたタイヤローラ(機体質量8. 5t)にひかれた。	144	7	10 ～ 29
2001	12	15 ～ 16	薪を山から搬送し、移動式クレーン(2. 93t)で雑木(一束約150kg)を荷台から地上に降ろす作業を行っていたときに、クレーンが転倒し、下敷きになった。	212	7	1～ 9
2001	8	16 ～ 17	路面の舗装工事で、舗装用型枠材を運んでいた者が道路中央に座り込んでしまったので、病院に移送したが熱中症で死亡した。	715	11	10 ～ 29
2001	11	8 ～ 9	林道開設に伴う残土処理場の新設工事において、機械掘削を行った法面下で配水管の布設作業中に、法面が幅約4m、高さ約3mにわたり崩壊し生き埋めになった。	711	5	1～ 9

2001	12	16 ～ 17	道路拡幅工事現場で解体した防護柵用鋼矢板を仮置場所からバックホーで2本吊りで移動し、2本の玉掛け用ワイヤーロープのうち1本を外したときに、バックホーの運転手が2本とも外したと勘違いしてバックホーを旋回したため鋼矢板が吊り上がってワイヤーロープが切れ、胸に当たった。	372	4	1～ 9
2001	12	14 ～ 15	国道交差点内の三角分離帯において縁石の補修作業を4名で行っていたところ、交差点を右折しようとした乗用車にはねられた。	231	17	1～ 9
2001	10	14 ～ 15	林道の開設工事中に上部の地山(高さ約25m)が崩壊し、ドラグ・ショベルの運転席に巨石(約10m×5m×3m)が激突した。	711	5	10 ～ 29
2001	9	10 ～ 11	ミニドラグショベルの運転席横の点検表の交換を行っていたときに、後進してきた積載量4tのダンプトラックの後部荷台とショベルとの間に挟まれた。	221	7	50 ～ 99
2001	12	11 ～ 12	農業集落道路整備工事において、土砂を降ろしたのちダンプの運転手が荷台が下がらなくなったので現場から少し離れた場所に停車させていたが、暫くして現場代理人がダンプの方を見たところ上がっていたはずの荷台が下がっていたので駆け寄ったところ、荷台とフレームとの間に挟まれていた。	221	7	50 ～ 99
2001	12	15 ～ 16	ガス管理設工事が終了し道路標示ライン引きを行っていたときに、脇見運転のトラックにはねられ2名が死亡、1名が重傷を負った。	221	17	1～ 9
2001	12	15 ～ 16	ガス管理設工事が終了し道路標示ライン引きを行っていたときに、脇見運転のトラックにはねられ2名が死亡、1名が重傷を負った。	221	17	1～ 9
2001	11	16 ～ 17	道路舗装に附帯して農業用水パイプを埋設する工事において、道路に沿って掘削した溝(幅約70cm、深さが約70cm?2.3m)の内部で床ならし作業を行っていたところ、道路側に設置されていた現場打ちコンクリート擁壁(長さ約4.6m、高さ1.5m、厚さ約75cm)が倒壊したため法面との間に頭部	418	5	10 ～ 29

			を挟まれた。			
2001	11	11 ～ 12	農道改良工事において、掘削土を不整地運搬車で工事箇所に運搬するため幅3.3m、勾配13°の下り坂を走行中、路肩を踏み外して21.8m下に転落した。	227	1	10 ～ 29
2001	11	8 ～ 9	工事看板取り付けのための4tダンプで町道を走行中、路肩から8m下の広場にダンプもろとも転落した。	221	17	10 ～ 29
2001	11	9 ～ 10	法面に設置された枠内の緑化吹き付け作業のため法面を親綱を伝わって法面上部に上がる途中、法面上から下方のよう壁小段上に(約10m)転落した。(711	1	1～ 9
2001	11	14 ～ 15	市道改良工事現場において、排水用ボックスカルバート埋設のため掘削溝(1.8m×1.8m)を延長約13mに渡り掘削し土止め支保工を組立てるためにドラグ・ショベルで矢板用鉄板を掘削溝に降ろして切張り取付けの段取りを行っていたときに、鉄板が倒れたため掘削溝で作業していた被災者の胸に当たった。	412	5	10 ～ 29
2001	11	15 ～ 16	道路新設工事にとまなう、急傾斜地の掘削作業において、伐採した立木をグラップルを使用して取り除くための進入道路をドラグ・ショベルを使用して地山を掘削していたときに、1本の木(長さ10.6m)が斜面を滑り落ちてきて幹の一部が運転席を直撃した。	712	6	10 ～ 29
2001	10	9 ～ 10	道路のアスファルト舗装を剥がして砕くタイヤ式のニプレーで片側車線が終了したので、次の作業のため元の位置に戻ろうとして反対車線に移動させたときに、左前方のフォークリフトに気をとられていたため、右前方にいた者をひいた。	149	7	10 ～ 29
2001	10	21 ～ 22	国道を片側車線規制し水路のボックスカルバート上のアスファルトを舗装する工事中に、作業員が作業箇所から道路を横断中、警察のパトロールカーに追われた軽乗用車が、車線が停止になっているにもかかわらず、猛スピードで突っ込んできたためはねられた。	231	17	300 ～ 499

2001	9	15 ～ 16	林道開設工事において、ドラグショベルを移動させていたところ、路肩が崩壊し林道から10m下の斜面に転落し、ショベルの下敷きになった。	141	1	1～ 9
2001	10	10 ～ 11	山間部の国道の災害防除工事において、高さ約50mの急勾配法面に上方の自然木を利用して親綱を7本地上まで垂らし、高さ約40m付近の法面上でリップを使用してラス(金網)をアンカーピンで張り付ける作業を行っていて、材料を取りに行くため上に登っているときに約50m下に墜落した。	711	1	10 ～ 29
2001	8	0 ～ 1	昼の休憩時間中、工事現場から50m離れた村道脇の木陰で昼寝をしていて、午後からの作業のため同村道をバックで進入してきた10tダンプトラックの右後輪にひかれた。	221	17	1～ 9
2001	9	5 ～ 6	散水車で道路工事現場に向う途中、高速道路ジャンクションで車線変更のため左に急ハンドルを切ったところ散水車のバランスが崩れてガードレールに衝突して横転し、反動で車外に投げ出された。	221	17	1～ 9
2001	9	14 ～ 15	村道拡張工事において、幅6mの工事中の道路の整地作業中に締固め用ローラー車が路肩から谷へ約70m転落し、雑木林に投出されて全身を強打した。	144	1	1～ 9
2001	9	9 ～ 10	林道開設工事において、ドラグ・ショベルで作業中に幅4.35mの林道の石積みの路肩が長さ7.6m、幅1.85mにわたって崩落し、ドラグ・ショベルとともに11.7m下の谷底に転落した。	141	1	1～ 9
2001	8	16 ～ 17	林道舗装工事の作業を終え4名が乗ってライトバンで走行中、10tトラックに衝突された。	231	17	10 ～ 29
2001	8	16 ～ 17	林道舗装工事の作業を終え4名が乗ってライトバンで走行中、10tトラックに衝突された。	231	17	10 ～ 29
2001	8	16 ～	林道舗装工事の作業を終え4名が乗ってライトバンで走行中、10tトラックに衝突された。	231	17	10 ～

		17				29
2001	8	12 ～ 13	市道の舗装工事の警備を行っていたとき、無免許運転の盗難車がカラーコーンバリケードを突破して突進してきてはねられた。	231	17	10 ～ 29
2001	9	9 ～ 10	自動車道の4車線化工事において、積載型トラッククレーンで次のガードレール基礎を設置するためにトラックを移動しようとアウトリガーを上げたところ、トラックが坂道を逸走し始めたので運転席に乗り込んで停止しようとしてトラック前方に回り込んだときにトラックにひかれた。	212	7	30 ～ 49
2001	9	11 ～ 12	道路災害復旧工事において、昼前に作業が終了したので、高さ25mの地点から法面を登ろうとした時に足を滑らし高さ7mの地点まで落下し、安全帯で中吊り状態になり壁面に激突した。	711	1	50 ～ 99
2001	8	14 ～ 15	道路の補修工事において、舗装路面の測量作業を行っていたときに4tトラックが走行してきたので誘導者が対向車線を通行の合図を行い、トラックが対向車線に進路変更し、その後、走行車線側に戻ったところで跳ね飛ばした。	221	17	100 ～ 299
2001	8	10 ～ 11	排水用のヒューム管を埋設するため岩盤を約3.85mの深さに掘削した中で丁張取付作業を行っていたときに、側面の岩盤が約6?が崩落し、岩石の下敷きになった。	711	5	10 ～ 29
2001	8	9 ～ 10	道路改良工事現場から出た花崗岩を二つに小割するため、岩上でせり矢を打ち込んだところヒビが入ったのでヒビをまたいでせり矢を抜いた直後に花崗岩が二つに割れ、割れた花崗岩の間に転落したところに割れた片方の花崗岩が揺れ戻り腰を地面との間に挟まれた。	711	7	1～ 9
2001	7	14 ～ 15	道路工事において、アンカーマシンを設置するための単管足場組立のため、小段上に上下2段に仮置きしていた単管の束のうち下側の束(径48.6mm×長さ5.5m×50本)のスチール製ベルト3本中2本をクリッパーで切断したところ、単管パイプが荷崩れしたため約7.5m下に墜落し、その上に単管パイプが落下してきた。	711	1	30 ～ 49

2001	8	11 ～ 12	道路新設工事の地盤改良作業において、整地作業が終了し午後から発注者の検査に向けて検査用の穴をスコップで掘っているときに、倒れて意識不明になったので、病院に移送したが、熱中症で死亡した。	715	11	～ 29	10
2001	8	11 ～ 12	道道の路肩拡幅工事において、残土をダンプトラックに積み込むため後退してきたドラッグショベルにひかれた。	142	7	～ 29	10
2001	7	5 ～ 6	10tダンプで高速道路を走行中、路肩にダンプを停車していたときに後続の大型トラックに追突され、はずみで前方に駐車中の大型トラックに追突した。	221	17	1～ 9	
2001	7	8 ～ 9	国道の法面修繕工事において、長さ6mの鋼矢板の束(10枚：3.6t)を25t移動式クレーンで移動するため玉掛け作業を行っていたところ、移動する鋼矢板の束の後方に2段に積み重ねられていた鋼矢板の束(計20枚)が倒壊し下敷になった。	521	5	1～ 9	
2001	7	14 ～ 15	ドラッグショベルを用いて土盛り作業中、ドラッグショベルを後退させたときにショベルの後方で作業を行っていた者をひいた。	142	7	1～ 9	
2001	7	18 ～ 19	朝9時から17時頃まで約1200㎡のアスファルト舗装工事場所で転圧ローラーの後方の掃除等の作業を行い、作業終了後、会社の車に同乗して自宅近くまで送ってもらい歩いて帰る途中に倒れて死亡した。(熱射病)	715	11	1～ 9	
2001	6	8 ～ 9	資材倉庫内において、「いてっ」という声が聞こえたので入口付近にいた同僚3人が様子を見に行くと、倉庫内で呼吸困難な状態で倒れていた。(行政解剖の結果では外傷性心破裂)	911	4	～ 29	10
2001	6	11 ～ 12	工事区域内の道路上に2tダンプの前でケレン用具にビニールテープを巻いていたときにダンプが発進したためにかれた。	221	7	1～ 9	
2001	6	8 ～	道路災害復旧工事において擁壁の基礎部分の埋め戻し作業を小型ドラッグショベルで行っていたときに、作業端の路肩からショベルとともに転落し	142	1	～	30

		9	下敷きになった。			49
2001	5	16 ～ 17	作業員寮がある敷地内において紙くず等のゴミをドラム缶で燃やしていたところ、火の粉が服に燃え移り上半身を火傷した。	715	11	1～ 9
2001	6	8 ～ 9	掘削法面90度の掘削底面において地中に埋められた排水管(直径1m)の撤去作業中、背後の土砂が崩壊して生き埋めになった。	711	5	50 ～ 99
2001	6	10 ～ 11	用水用仮橋梁桁に信号ケーブル用鋼管を取り付けるため桁端部のバラスト上で鋼管の据付状況を確認していたときに、バランスを崩して約0.95m下の土間に落下、さらに、そこから法面を滑って約1.1m下の川に滑落した。	419	1	100 ～ 299
2001	6	11 ～ 12	町道拡幅工事において、法面上で落石防止の金属製フェンスの取付作業中に安全帯の親綱が切れて約10m下に転落した。	379	1	1～ 9
2001	5	16 ～ 17	道路改良工事において、測量の障害となるドラッグショベル(機体質量2360kg)を移動させたときに運転を誤りドラッグショベルが転倒して運転席より投げ出され、転倒したドラッグショベルのヘッドカードと地面との間に胸部を挟まれた。	142	2	30 ～ 49
2001	5	14 ～ 15	農業用水路(深さ1.2m、幅1.2m)に堆積している泥をドラッグ・ショベルにより取り除く作業で、水路底でショベルのバケット位置を指示していたバケットが頭部に激突した。	142	6	1～ 9
2001	5	14 ～ 15	滑走路の舗装に使用するセメントの混合用プラントにおいて、作業終了後にミキサー部分の清掃を行っていたとき、ミキサーが作動したためシャフト部分のはつり作業をしていた者がミキサーに巻き込まれた。	162	7	10 ～ 29
2001	2	14 ～ 15	道路改良工事において、法面保護のために木柵の苗木植生作業中に、足を滑らせ7m下の県道に転落した。	418	1	10 ～ 29

2001	4	16 ～ 17	歩道段差の補修工事において、歩道の補修箇所にセーフティ・コーンを設置するため、県道の反対側に降ろされたセーフティ・コーンを運ぼうとして横断中に、左側から来た軽乗用車にはねられた。	231	17	～ 29	10
2001	4	14 ～ 15	道路脇の農業用水路をドラグショベルで清掃する作業において、道にキャブタイヤケーブルがあったため、ショベルの運転席から離れて同僚にも手伝ってもらいキャビンの上をまわして移動させ、再び運転席に着いたときにヤッケの裾が旋回レバーに触れていたため右旋回し、傍らにいた者がショベルのアームと管の間にはされた。	142	7	～ 49	30
2001	4	7 ～ 8	工事の手直し作業に行くため、道具小屋からスコップを取り出して砂利を積み込んで行く小型ダンプのところに向かって構内を歩いていたところ、処分する古タイヤを積み込むために後退してきた重機運搬車(8t)の左後輪にひかれた。	221	7	1～ 9	
2001	4	10 ～ 11	林道用地と山林との境界を定めるために使用した補助杭を撤去しているときに、勾配約50度の法面から約6.5m下の林道に転落した。	711	1	～ 29	10
2001	4	10 ～ 11	国道路肩の法面の下にある側溝の成形作業中、センターラインを越えてきた乗用車に激突された。	231	17	～ 99	50
2001	4	17 ～ 18	国道改良工事で、当日の作業を終了し、2tトラックで走行中、ガードレールを突き破り崖から約20m崖下に転落した。	221	17	～ 49	30
2001	3	9 ～ 10	道路新設工事において、測定の補助作業をしていたときに、碎石を満載しバックしてきたダンプトラックにひかれた。	221	7	～ 29	10
2001	3	10 ～ 11	国道沿いの防雪柵収納作業において、支柱を固定している2本のボルトのうち手前のボルトを外し、次いで収納した防雪板に覆い被さるようにして裏側のボルトを外したところ、直立していた支柱が倒れ支柱と防雪板との間に腹部を挟まれた。	418	5	1～ 9	

2001	3	15 ～ 16	道路建設工事において、高さ15.6mの山肌の岩盤上でたい積した土を取り除いていて墜落した。	711	1	1～ 9
2001	3	22 ～ 23	事業場附属の寄宿舍(鉄骨スレート葺2階建、居室数16室)の2階から火災が発生し、逃げ遅れた1名が死亡し、1名が重傷、2名が軽傷を負った。	359	16	100 ～ 299
2001	3	17 ～ 18	農道に11tトラックを停車してブルドーザーを積み込む作業を行っていたところ、道板からブルドーザーが路肩法面に滑り落ちたため、ブルドーザー運転手が車体を路上に戻すべく操作を行っている間に、トラック運転手が何らかの原因で前進したトラックにひかれた。(ブルドーザーの運転手が最後に見たときには、トラック運転手は運転席にいた)	221	7	1～ 9
2001	3	15 ～ 16	係留中の台船の係留ロープが低気圧の接近に伴う強風と高波の影響で切れため、台船に乗って係留ロープの増し取り作業を行なっていて台船に取り残されたまま流され、約70m東側の海岸に座礁した際に高波により船体に叩き付けられ海中に転落して行方不明になった。(後に海中から遺体で発見)	713	3	30 ～ 49
2001	3	16 ～ 17	ドラグショベルによる整地作業が終了したので、約41.7m下の県道に降りているときに、県道上の回し場で方向転換をする際に車体のバランスを崩し、17m(斜距離)下の谷に転落した。	142	1	10 ～ 29
2001	2	9 ～ 10	道路改良工事に伴う立木の伐採作業で、木が株から切り離れたときに近くの建物に当たらないようにするためバックホーのバケットの背面に乗り立木にワイヤーロープを掛けていたときに、足が滑って約1.85m下に墜落した。	142	1	1～ 9
2001	3	16 ～ 17	県道補修工事において、タイヤローラー(質量8.5t)で転圧作業を実施していてタイヤローラーを後退させたときに清掃(アスファルトのならし)作業に従事していた者がタイヤローラーの後輪にひかれた。	144	7	1～ 9
		13	街路の築造工事で、路盤の整地のため4tコンバインドローラーで作業中			1～

2001	2	14	に、バックしたとき近くの作業員をタイヤローラーで左足から胸部にかけ てひいた。	144	7	9
2001	3	15 16	外溝工事の整地作業において、ドラグ・ショベルで砂利を敷き詰める作業 を行っていたときにドラグ・ショベルの右後部のクローラーで通行中のもの をひいた。	143	7	10 ～ 29
2001	3	9 10	ドラグショベルの運転者が後方約70mの位置にいた別の作業員に作業指示 をするためエンジンを停止して下車したが、これを見ていたドラグショベ ルの誘導員が無資格なのにドラグショベルの運転練習をしようとドラグ ショベルに乗車して前方を少し掘削し、後進させたためドラグショベルに 戻ろうとしていた運転者を轢いた。	142	6	30 ～ 49
2001	3	13 14	市道の歩道改良工事において、パワーショベル(機体質量4t)で歩道面に撒い た砂利を均す作業をしていたときに、後進していたのクローラーでひかれ た。	142	6	1～ 9
2001	2	22 23	国道路面改良工事において、一般車両の交通整理をしていたところ、酒気 帯び運転で走行してきた乗用車に激突された。	231	17	30 ～ 49
2001	2	10 11	作業員3人が、垂直昇降型の高所作業車に付着したモルタルを取るため作業 床を高さ約2mに上げて作業していたところ、作業床が降下してきてブーム と車体との間にはさまれた。	229	7	10 ～ 29
2001	1	14 15	資材置場において、道路改良工事で使用した矢板(192kg)18本をリース会社 へ返すため、車両系建設機械のバケットにワイヤロープを掛けクランプで 矢板を挟んで1本目を吊り上げたときにクランプから矢板が外れ近くにいた 者を直撃した。	142	4	30 ～ 49
2001	1	11 12	国道の除雪作業において、抗門の上部に上がり(高さ約10m)スコップで除 雪を行っていて道路に転落した。	418	1	100 ～ 299
		14	凍雪害防止工事において、融雪用の側溝を敷設して側溝の周囲を砂で埋め			10

2001	1	～ 15	戻す作業中、埋め戻し用の砂を積んだ4tダンプとバックホーのバケットとの間に挟まれた。	221	6	～ 29
2001	1	9 ～ 10	林道工事現場で、斜面に駐車していた無人の4tトラックが後に動き出して荷台後部に激突され、さらに右後輪にひかれた。	221	6	10 ～ 29
2001	1	～ 15	14 道路改良工事において、ガラ(コンクリート廃材)を2tトラックに積込んで荷 台にシートをかけ運転席に向かっていたときに、右旋回してきたドラグ 15 ショベルとトラックとの間に挟まれた。	142	7	1～ 9
2001	1	～ 12	11 地下横断道の築造のため型枠材を地上の小型移動式クレーン(トラック積載 型)で開削した溝の(約6m)の定盤上に降していたところ、クレーン車が横転 12 したため、クレーンの助手席の扉部分と手すりとの間にはさまれた。	212	7	1～ 9
2001	1	～ 24	23 道路舗装修繕工事において、アスファルト張り替えのための路面切削後の 状況を計測していたところ、切削ガラの積込のため、同じ路面上を後進し 24 てきた10tトラックにひかれた。	221	7	50 ～ 99
2000	11	～ 15	14 道路改良工事において、幅4mの道路でドラグショベルを運転していたとこ ろ大型ダンプトラックが下ってきたのでショベルを谷川斜面側に寄せたと きに、路肩が崩壊したためドラグショベルとともに勾配約40度の斜面を 12. 4m転落した。	142	1	10 ～ 29
2000	7	～ 18	17 晴天の屋外で作業をしていて、作業を終えたのちに気分が悪いと訴えたの で、救急車で病院に移送したが熱中症のため死亡した。	715	11	10 ～ 29
2000	11	～ 15	14 林道開設工事において、2日前に伐採した支障木をドラグショベルで集める ため、ドラグショベルのバケットが届く位置まで伐採した木を運搬してい 15 るときに、勾配約40度の地山から約18m下の地面に転落した。	711	1	1～ 9
2000	3	～ 9	8 道路改良工事において、ドラグショベル(0.7m ³)でL型擁壁(重さ3.75t)を 吊り上げていたところ、ワイヤロープ(直径16mm)が破断し吊荷の下にいた 9 作業員2名が下敷きになった。	142	4	10 ～ 29

2000	1	16 ～ 17	不整地運搬車(最大積載量850kg)に積んだ掘削土を農道上からダンピングしていたところ、運転を誤って勾配約35度の盛土斜面から転落し、3.8m下の田圃で下敷きになった。	141	1	～ 29
2000	12	9 ～ 10	県道拡幅工事において、道路拡幅に伴う水路付替え作業のためパワーショベルのバケットに積んだ栗石を投入しながら横移動していたときに、パワーショベルの進路上で伸縮目地(エラストイト)を手鋸で切断する作業をしていた者をひいた。	142	7	50 ～ 99
2000	1	19 ～ 20	歩道補修工事において、同僚が2tダンプを道路左側に寄せて、前照燈を照らしているところでガードレールの支柱部分の清掃及びガードレールの塗装作業を行っていたところ、後方より走行してきた2tトラックが停車中の2tダンプに追突し、その反動で2tダンプが押し出されガードレールとダンプとの間に挟まれた。	221	17	1～ 9
2000	2	10 ～ 11	油圧ショベルでよう壁施工のための床掘りを行って移動していたときに路肩が崩壊して油圧ショベルが横転し、床掘り側にいた者の頭部、肩にアームが激突した。	142	6	30 ～ 49
2000	1	16 ～ 17	農道工事において、振動ローラー(機体総質量3.6t)で締め固め作業中に、高さ65cmの法面から振動ローラーごと転落し、運転席から飛び降りたがその上に振動ローラーが滑り落ち振動ローラーと地面に挟まれた。	144	1	30 ～ 49
2000	10	8 ～ 9	農道拡幅工事で掘削予定地の植林杉を伐採していて、同僚がチェーンソーで伐倒した木(長さ16.9m)が頭部を直撃した。	712	6	50 ～ 99
2000	2	11 ～ 12	水路(幅3.5m)を横切る道路及び歩道部分の函渠工事において、水路に砂が堆積し浅瀬となったのでドラグショベルで均すため、ドラグショベルのアームを伸ばしたが手前までしか届かなかったので車体を浅瀬に近づけようとキャタピラ旋回したときに浅瀬にいた者がバケットと水路の護岸の間に挟まれた。	142	7	1～ 9
2000	1	16 ～	林道拡幅工事で、拡張予定の法面にある杉立木(高さ22m)を伐倒するため、2人で立木をロープで引っ張りながらチェーンソーで切断していて伐倒	712	6	10 ～

		17	木の下敷きになった。			29
2000	11	16 ～ 17	歩道で路面の補修作業をしていたときに、道路わきの駐車場に入るため右折してきた乗用車にはねられた。	231	17	1～ 9
2000	8	16 ～ 17	管渠築造工事で、鉄管(直径約1.6m、深さ約7m)の中で下水道管を通す準備作業していたところ、突然、下から噴き上げてきたヘドロ状の汚泥にのみ込まれ生き埋めになった。	711	5	1～ 9
2000	3	16 ～ 17	村道(幅員3.5m)を現場内で採集した小岩を2tダンプで運搬していたとき、運転を誤って路肩から30m下の谷へ転落した。	221	17	10 ～ 29
2000	9	13 ～ 14	道路改良工事に先行してチェーンソーによる伐木作業をしていて、立木(椎の木、長さ13m)に切れ込みを入れた後にワイヤロープを巻き付けてドラグショベルで引っ張っていたところ、予想した伐倒方向を外れて伐倒木の下敷になった。	712	6	10 ～ 29
2000	8	8 ～ 9	並列に設置した枠組足場の間に3本の単管を渡しその上に道板を敷き番線で固定していく方法で足場を組み立てていて、道板を固定しようと道板の端に乗ったときに、その部分が単管で支持されていなかったため天秤状態となり2.7m下に墜落した。	411	1	10 ～ 29
2000	12	13 ～ 14	道路改良工事において、鉄筋挿入工(アンカー工)の施工を開始するため油圧ユニットの始動状況を確認するため移動中に、足場通路より4.45m下に墜落した。	417	1	10 ～ 29
2000	7	8 ～ 9	油圧ショベルで掘削土をダンプに積込み中にトラロープが紛れ込んでいるのに気づき、重機から降車して道路上で引張ってみたものの取れなかったため、ダンプの荷台に上がり作業していたときに、ダンプ運転手がダンプを発進したため反動で荷台から転落した。	221	17	10 ～ 29
2000	5	0 ～	高さ14mの地山の法面に張られたロックネットの横方向にワイヤーを張り渡すため、高さ5mの位置で横方向2mごとに赤色でマーキングを行って	711	1	1～

		1	たところ、地山の上部斜面に掛けていた親綱が外れて、5m下のアスファルト道路に墜落した。			9
2000	5	13 ～ 14	円筒型の貯水槽(コンクリート製、高さ約2.7m)を手持ちグラインダーで3分割してドラッグショベルで移設するため、底部を吊り上げて旋回したときに荷が落下し、設置場所の床ならしをしていた者に当たった。	141	4	10 ～ 29
2000	2	9 ～ 10	ドラム缶の中へ型枠等の残材を入れて燃やそうとしたが、前日の降雨により型枠が湿っていて火が付きにくかったため一斗缶のシンナーを注いだところ、火がドラム缶内のシンナーに引火して爆発し全身火傷を負った。	512	11	10 ～ 29
2000	2	11 ～ 12	水銀灯埋設工事で掘削作業をしていたときに、倒れてきた古い水銀灯の土台コンクリート塊の下敷きになった。	418	5	1～ 9
2000	12	14 ～ 15	町道の道路舗装工事において、道路の整地転圧作業中、道路沿いの川岸で立ち小便を済ませて道路側へガードレールを乗り越えたときに道路側に転倒し、そこへコンバインドローラー(機体重量2.3t)が後退してきて頭部をひかれた。	144	7	1～ 9
2000	8	13 ～ 14	国道沿いの草刈り作業を行っていて、草刈後の草を積みこむためパッカー車を後進させていたときに道路脇に立っていた作業員に接触し、そのまま後輪ひいた。	221	7	1～ 9
2000	6	15 ～ 16	道路新設工事において、土留め用コンクリートパネルで擁壁を設置する作業中、パネルのレベル調整のため仮固定用の金具を取外したところパネルが倒れ、付近にいた者を直撃した。	418	5	10 ～ 29
2000	4	15 ～ 16	漁港改修工事において、ケーソン上部に型わく支保工を設置するための足場の海中の状況を確認するため潜水作業を行っていた者が潜水作業から約30分後に意識不明の状態で海上に浮いていた。	713	10	30 ～ 49
2000	2	13 ～ 14	道路災害復旧工事において、地山(岩盤)の切崩しのため法面で発破爆薬装填のため削岩機によりせん孔作業を行っていて掘削面から約3.4m下の町道に転落した。	711	1	10 ～ 29

2000	11	14 ～ 15	山林作業道の新設工事において、支障木となる立木を伐倒するため、一旦退避した枝払いを行っていた者が再度枝払いした場所へ戻って枝払い作業を始めたときに伐倒した木で直撃された。	712	4	1～ 9
2000	8	～ 15	14 国道の道路拡張工事において、擁壁の裏込作業のため砂利均し作業中に、落石防護壁解体のためホイールクレーンで吊り上げ回転させていたH鋼(長さ11m、質量約500kg)3本が落下してきて激突した。	521	4	10 ～ 29
2000	4	～ 10	9 下層路盤の改良工事で、タイヤローラーを移動させるのに交差点までバックし、切り換えして前進したときに、交差点内で古い水道管の切断作業を行っていた者に激突した。	221	6	10 ～ 29
2000	3	～ 9	8 農道舗装工事において、車両系建設機械(ローラー)で路面の転圧作業をしていてローラーとともに約2.7m下の河原に転落し、ローラーの下敷きになった。	144	1	10 ～ 29
2000	12	13 ～ 14	下水道工事において、下水管の高さ調整のため道路を掘削し、パワーショベルで鉄板を掘削斜面に立てかけ、その後、坑内で下水管の上の土を取る手直し作業を行っていたときに鉄板とともに掘削面の地山が崩壊し下敷きになった。	711	5	10 ～ 29
2000	11	～ 12	11 林道の開設工事において、重機の作業用通路を造るためドラグショベル2台で掘削を行っていたところ、盛土が約2000?崩壊してドラグショベルで2台が埋り、作業をしていたオペレーター1名が生埋めとなった。	711	5	10 ～ 29
2000	7	～ 12	11 市道の改良工事現場において、道路中央に停車してあった振動ローラーが作業の邪魔になるので振動ローラーを路肩に移動させたときに路肩から約3.75m下の田畑に振動ローラーとともに転落した。	144	1	1～ 9
2000	7	～ 9	8 国道の法面防災工事において、法面にコンクリートを吹き付ける作業を行っていたときに、安全帯を取り付けていた親綱が突然切れたため約6メートル下の歩道上に墜落した。	379	1	1～ 9
2000	11	～	8 道路改良工事で、路肩法面に防護用の金網を張るため金網材料を法面上部へ荷揚げしていたときに、法面上部から転落した。	711	1	1～ 9

		9				
2000	7	15 ～ 16	情報ボックス設置工事現場において、埋め戻し後のアスファルト舗装の作業で埋め戻し箇所周辺に散らばった土砂をほうきで掃いていたときに、アスファルト合材を積んで後退していた4tトラックにひかれた。	221	7	50 ～ 99
2000	9	9 ～ 10	県道脇の集水枡の土砂除去作業中に、ロープをガードレールに結びつけそれを胴綱としてボックスカルバートの流末側から入っていき土砂とともに河原まで転落した。	711	1	50 ～ 99
2000	6	9 ～ 10	ドラッグショベルで土砂を掘削し4tダンプへ積込むため左旋回したときに、フェンス側でスミ出しを行っていた者がドラッグショベルのボディと鋼板製フェンスとの間にはさまれた。	142	7	10 ～ 29
2000	5	8 ～ 9	引込私道工事において、傾斜地のブロック積みが一段落し、残った生コンをバケットに入れてドラッグショベルで吊上げ旋回中に横転したため、付近で均し作業中の者の右手首を挟んだ。	142	7	10 ～ 29
2000	1	10 ～ 11	町道の拡幅工事場所から国道側の材料置場へ行くため、信号機が青色になったことを確認して横断歩道を歩行中に、国道を進行して来た軽トラックにはねられた。	221	17	1～ 9
2000	8	15 ～ 16	道路維持修繕工事を終えて4tトラックに約3tのコンクリートガラを乗せて走行中、スロープ状に下っている道路をはみ出して下の道路まで4.8m転落した。	221	17	1～ 9
2000	12	10 ～ 11	林道の災害復旧工事において、地面に置いた枯損木を動かすために誘導者となり、バックホーのバケットで枯損木を押し出したところ、枯損木が右脇腹に当たった。	142	6	30 ～ 49
2000	6	16 ～ 17	道路に崩壊した土砂の除去作業が終了し、トラクター・ショベルを自走で移送するため方向転換したときに、道路脇の法面に乗り上げ横転しヘットガード部の下敷きになった。	141	2	1～ 9
2000	6	9 ～	林道開設工事において、工事用道路を作るためドラッグショベル(0.7?)のブレーカで岩を破碎しているときに、斜面の土砂が崩落し、ショベルとともに	145	1	50 ～

		10	に転落した。			99
2000	2	9 ～ 10	下り坂(勾配13度)でドラグショベル(機体質量6.3t)を用いてコンクリートバケット(重量1180kg)をワイヤーで吊り上げ後進しながら方向転換のためにアームを左回転させたところ、バケットの重さで水田に転落し、その下敷きになった。	142	1	1～ 9
2000	3	7 ～ 8	ドラグ・ショベルで発注者に提出する写真を写す箇所の整地をするため移動したときに、前方より歩み寄ってきた現場責任者をキャタピラでひいた。	142	7	1～ 9
2000	1	15 ～ 16	集水枡(重さ100kg)の据え付けで、ドラグショベルにワイヤーをかけ、枡の両側のリングに引っかけて吊り下げ定位置に降ろす作業中にワイヤーの片側がリングから外れて落下し、下にいた者に当たった。	372	4	1～ 9
2000	10	10 ～ 11	林道開設工事現場へ玉石を搬送するため2tトラックで走行中、幅4mの砂利道の林道から約18m下の谷底へトラックとともに転落した。	221	17	10 ～ 29
2000	1	16 ～ 17	コンクリート打設のため掘削溝の中で型枠設置の作業をしていたところ、突然民家のブロック塀が倒壊し下敷きになった。	418	5	1～ 9
2000	9	15 ～ 16	農道整備工事における路面の整地作業において、仮置きしていたU字溝(重量・250Kg)を移動するため専用吊具を用いてドラグショベル(機体質量・2.02t)で吊り上げて旋回中に、ショベルが転倒し機体の下敷となった。	142	2	30 ～ 49
2000	6	20 ～ 21	会社のトラックで打合せのため走行中、ガードレールに激突した。	221	17	10 ～ 29
2000	5	14 ～ 15	空港用地造成工事において、滑走路周辺の道路工事のためタイヤローラー(総重量8605kg)で整地作業を行っていたときに、その後方でスコップを使い整地作業をしていた者をひいた。	144	7	50 ～ 99
		13	ドラグ・ショベルへ給油後に燃料タンクのカバーを閉め忘れたことに気づ			

2000	4	～ 14	き、運転席からカバーを閉めようとしたときにアームの操作レバーに触れたため上げたままであったバケットアームが下りてきてアームとヘッドガードの支柱との間に挟まれた。	142	7	1～ 9
2000	2	8 ～ 9	資材、車両置場において、ダンプのあおり付近で器材等の積込み中に、同僚がバックしてきた積載形トラッククレーンとダンプとの間に挟まれた。	221	6	10 ～ 29
2000	3	16 ～ 17	ダンプの荷台からローラーをドラグショベルで吊って地上に降ろすためドラグショベルを左に旋回したとき、ドラグショベルが転倒し、運転手が運転席から投げ出されて、転倒してきたドラグショベルの運転席の左側のフレームと地面との間に挟まれた。	142	2	10 ～ 29
2000	1	16 ～ 17	4tダンプトラックに砕石を積み後進でスロープ上を走行していたときに、走行範囲に立ち入った者をひいた。	221	7	1～ 9
2000	7	16 ～ 17	車道ボックスカルバート撮影のため、枠組足場3層目床部(高さ3.4m)正面を撮影するため、カメラを持って枠組足場ブレースの外側に身を乗り出し、足場近傍に組立て中の鉄筋に片足を掛け撮影しようとしたときに鉄筋結束番線が切れてくずれたところに倒れ、鉄筋が腹部に刺さった。	418	2	100 ～ 299
2000	3	18 ～ 19	町道の災害復旧工事において、崩壊した部分を幅約2m、深さ約2mに掘削したのちボックスカルバートを据えるための水系張りで掘削部分を移動していたときに壁の一部が崩落し腰部まで土砂に埋った。	711	5	1～ 9
2000	8	8 ～ 9	高速道路の路盤に使用するコンクリートを製造するプラント付近で、ブルドーザーで骨材を投入する準備をしているときに、砕石を運搬してバックで入って来たダンプトラックの車輪にひかれた。	221	7	10 ～ 29
2000	11	6 ～ 7	舗装路面の平坦性試験を行っていたときに誘導員の車線変更の誘導にもかかわらずスピードを落とさないで走行してきた4t貨物車にはねられた。	221	17	100 ～ 299
		16	道路改良工事現場のU字溝布設作業において、ドラグショベル(機体重量：			10

2000	7	～ 17	12t)のバケットに取り付けたフックに専用の吊り具で玉掛けして吊り上げ 仮置きしようとしたときに、吊り具からU字溝がずり落ち、付近で型枠製 作作業をしていた者の腰部に激突した。	611	6	～ 29
2000	6	～ 10	9 林道新設工事において、コンクリート製擁壁を固定するためのアンカー組 立作業を行っていたときに、斜面から落下してきた岩(重さ約3kg)が後頭部 10 にあたった。	711	4	～ 29
2000	3	～ 15	14 河川修繕工事現場の進入路(幅約3m)の砂利舗装作業を振動式ローラー (4. 0t)で実施中に、約1. 6m下の川に転落し、ローラーの下敷きになっ 15 た。	144	1	～ 29
2000	2	～ 15	14 歩道設置工事において、歩道の砂利の均し作業中、バックしてきたバック ホー(機体重量5.6t)の左キャタピラーにひかれた。	142	6	30 ～ 49
2000	2	～ 1	0 工事現場に書類を届けるため国道バイパスを乗用車で走行中、停止信号の ため停車していた産業廃棄物運搬用大型トラックに衝突した。	231	17	50 ～ 99
2000	2	～ 10	町道の改良工事で、バックホーを使ってはがしたアスファルトのくずを4t 9 ダンプに積み込んでいたところ、ダンプが後ろに動き出したので、それを 見てバックホーの運転手が止めようと運転席から飛び降りダンプに乗りこ 10 もうとしたときに積み残していたアスファルトのくずに足を取られ転倒 し、その上をダンプが走行した。	221	7	1～ 9
2000	1	～ 17	16 工事現場内に置かれてあった山砂利を搬出するため、ダンプを山砂利の近 くまで後進させたとき近くで作業していた者をひいた。	221	6	10 ～ 29
2000	2	～ 2	1 国道の夜間切削工事現場において、切削した舗装材の積み込む順番を待つ ため待機場所へ後進中のダンプトラックが、後進経路上にいた者を左後輪 2 でひいた。	221	6	1～ 9
		21	国道の舗装工事を行う準備として路面に耐寒マットを粘着テープで固定し			30

2000	8	～ 22	ているときに、進行してきた乗用車に跳ね飛ばされた。	231	17	～ 49
2000	2	15 ～ 16	広域基幹林道開設工事現場で、林道脇の法面(高さ11.65m、幅11m)が崩壊し、付近で側溝の地均し作業を行っていた者2名が生き埋めとなった。	711	5	1～ 9
2000	2	15 ～ 16	広域基幹林道開設工事現場で、林道脇の法面(高さ11.65m、幅11m)が崩壊し、付近で側溝の地均し作業を行っていた者2名が生き埋めとなった。	711	5	1～ 9
2000	12	8 ～ 9	4tダンプトラックで林道開設工事現場に向かい走行中、左カーブの下り坂でガードレールを突き破り約10m下の谷に転落した。	221	17	30 ～ 49
2000	10	14 ～ 15	町道の歩道設置工事現場で、可変側溝(コンクリート製、重さ1.4t)をバックホウで吊り上げたところ、玉掛が外れて深さ1.4メートルの掘削溝に可変側溝が落下したため、中で作業をしていた者が下敷きとなった。	372	4	30 ～ 49
2000	11	8 ～ 9	工事現場において、路盤整備の作業を行なうため現場内の道路上を歩いていて、同一直線上をバックで進入してきたダンプトラックの後輪にひかれた。	221	7	10 ～ 29
2000	10	13 ～ 14	自動車道の段差修正工事で手直し作業をしていた者ほか1名を散水車が撥ね飛ばし、腰あたりに乗り上げ一度停止したが異常に気づいた運転者があわてて車を前に出したため胸部をひいた。	149	6	30 ～ 49
2000	10	11 ～ 12	ドラグショベルを用いて敷鋼板を吊り上げて運搬する作業で、荷を集積場所に降ろして吊り上げ位置に戻る途中、玉掛け作業員がショベルのキャタピラに巻き込まれて車体の下敷きとなった。	142	7	50 ～ 99
2000	10	15 ～ 16	測量作業のため道路中央で測量テープを押さえていたところ、合図を無視して走行して来た軽ワゴン車にひかれた。	231	17	30 ～ 49
		16	林道の待避場所の造成工事で、不整地運搬車の運転席に乗込もうとした時			30

2000	9	～ 17	にドラグショベルの運転手が路盤の掘削整地で左旋回したため、ドラグショベルの右側後部がぶつかり被災者がドラグショベルと不整地運搬車との間に挟まれた。	142	7	～ 49
2000	8	23 ～ 24	情報ボックス設置の管路試掘作業において、当日の試掘を終了したので道路占有標識の撤去作業中、走行してきた乗用車が猛スピードで標識車に衝突し、そのはずみでとばされた標識車が作業者を反対車線へ約4m跳ね飛ばした。	231	17	～ 299
2000	8	7 ～ 8	社有車(バン)で走行中、緩やかな右カーブで対向車線にはみ出し、対向のダンプトラックと正面衝突した。	231	17	50 ～ 99
2000	4	10 ～ 11	市道の側溝(コンクリート製)の取替工事に6名で従事していて、旧側溝を取外し、同じ位置に新トラフを埋設するためスコップで床均しをしていたところ、突然50cm離れた石垣(高さ約7m角度約70度)が上部から崩れたため、3名が生き埋めとなり死亡2名重傷1名となった。	711	5	10 ～ 29
2000	4	10 ～ 11	市道の側溝(コンクリート製)の取替工事に6名で従事していて、旧側溝を取外し、同じ位置に新トラフを埋設するためスコップで床均しをしていたところ、突然50cm離れた石垣(高さ約7m角度約70度)が上部から崩れたため、3名が生き埋めとなり死亡2名重傷1名となった。	711	5	10 ～ 29
1999	12	13 ～ 14	ほ場整備に伴う河川の堰のコンクリート打設のための型枠組立作業中、工事用道路をバックで進んできた4tミキサー車が型枠組立のために掘削された工事用道路から高さ約2.8m転落し、下で型枠組立をしていた者の上に落ちてきた。	221	4	30 ～ 49
1999	8	19 ～ 20	事務所から出火し、隣接している従業員宿舎1棟と浴室1棟に延焼して全焼したため、入浴中の者が逃げ遅れて焼死した。	999	16	10 ～ 29
1999	4	14 ～ 15	町道の拡幅工事で埋戻し作業に従事していた者が場所を移動しようとしてガードレール基礎コンクリート上から足を踏み外し約1.6m下の側溝に転落した。	418	1	100 ～ 299

1999	12	17 ～ 18	資材置場に置いていたドラグショベルを移動させようとしたが動か たので、運転席の左側に乗り込み運転者に操作方法を教 えて降りようとしたときに、着用していた反射チョッキの胸元が旋回操作レバーに引 っ掛かったため、ドラグショベルの上部旋回体が左後方に急旋回し、旋回体と機 体との間にはさまれた。	142	7	100 ～ 299
1999	12	14 ～ 15	舗装工事の検査のため同僚が運転するリフト車で現場に到着し、リフト車 を空き地に停めて、運転してきた同僚が近くの側溝でポリタンクに水を汲 んでいた間にリフト車にひかれた。	221	7	10 ～ 29
1999	12	14 ～ 15	温泉源まで電柱を設置するため、作業道上に停止していた電柱運搬用大型 トラックのエンジンをかけようとしたときに突然逸走し、トラックから落 ちた電柱5本のうち2本が約130m下方で林道開設のためU字溝の布設作業を 行っていた作業員2名を直撃し1名が死亡した。	523	4	30 ～ 49
1999	12	8 ～ 9	工事現場で使用する土砂を2tダンプトラックで運搬する作業で、土砂の採 取場所傾斜4度でダンプトラックと杉の立木との間に挟まれた。	221	17	10 ～ 29
1999	12	15 ～ 16	落石防止柵として打込んでいたH型鋼(長さ8m、重さ800kg)を移動式ク レーンで引き抜いて吊り上げた状態で根元に付いているコンクリート塊 (200kg)をブレーカーで小割して剥がした直後に、玉掛用具からH型鋼が外 れて落下し、ブレーカーの運転席に倒れて運転者がH型鋼の下敷きになっ た。	212	4	10 ～ 29
1999	5	15 ～ 16	林道災害復旧工事現場において、コンクリート擁壁の型枠材に足を掛けて 型枠の組立作業を行っていたときに、バランスを崩して張り出し足場(高さ 3m)の上に墜落し、さらに足場の手すりの間から地上に転落した。	419	1	10 ～ 29
1999	11	11 ～ 12	道路舗装工事現場において、10tダンプトラックからアスファルトを降ろし て、道路(道幅約3m)を前進したところ、道路横にいた者を左後輪でひい た。	221	7	1 ～ 9
		13	下水道工事のでたアスファルト殻を再生処理工場へ運ぶため4tトラックで			30

1999	10	～ 14	運搬中に幅約6mの道路から約5.5m下の川床にトラックとともに転落した。	221	1	～ 49
1999	9	16 ～ 17	道路拡幅工事において、路盤用砂利の転圧作業を振動ローラー(重量4t)を用いて行っていたところ、前方にいた者に気付かずひいてしまった。	144	7	30 ～ 49
1999	10	11 ～ 12	住宅街の道路改良工事で、既設U字溝を撤去したのちバックホーで深さ70cm、幅1mに掘削し、床ならし作業等を行っていたところ、側溝横の高さ約2mの民家のブロック塀が倒れて、作業員2名が掘削溝とブロック塀との間に体を挟まれ1名が死亡、1名が重傷を負った。	418	5	10 ～ 29
1999	9	10 ～ 11	旧林道をコンクリート舗装する工事において、準備作業として刈払機及びチェーンソーにより下刈りした灌木及び雑草を林道路肩から谷へ投げ捨てる作業を行なっていて、路肩から約100メートル下に転落した。	711	1	10 ～ 29
1999	11	9 ～ 10	橋上で路面舗装の作業をしていたときに、後進してきた10tダンプトラックにひかれた。	221	7	10 ～ 29
1999	11	13 ～ 14	ダム工事用道路の工事現場において、法面のコンクリート吹付用プラントの内部を清掃しているときに、ミキサーの羽に巻き込まれ全身打撲した。また、救出しようとしてミキサーの中に入った者もミキサーの羽に両足を挟まれ両足を骨折した。	162	7	1～ 9
1999	10	9 ～ 10	資材(ベント材、C型チャンネル、H鋼)が積んである付近でドラグショベルを用いて整地作業を行うに当たり、旋回範囲を確認するためショベルを上げながらゆっくり旋回させていたときに、ショベル部分がベント材に接触したため、一番上に積まれてたベント材一つが落下して近くを通行していた者にあたった。	521	4	50 ～ 99
1999	11	10 ～ 11	林道開設工事現場の法面上方(勾配45度)でチェーンソーを使用して伐木の作業を行っていたときに約30m転落した。	711	1	30 ～ 49

1999	9	21 ～ 22	自動車道施設の保全工事中、路肩から工事のため規制中の追越車線へ移動しようと走行車線を徒歩で横断しているときに車両にはねられた。	231	17	1～ 9
1999	11	8 ～ 9	積載形トラッククレーン(つり上げ荷重2.93t)で発電機(重さ約1.3t)をトラックの荷台から吊り降ろしていたところ、クレーンが転倒したためクレーンとガードレールとの間に挟まれた。	212	2	10 ～ 29
1999	11	14 ～ 15	側溝修繕工事において、側溝脇に土止用のアングルを打ち込むためドラグショベルで掘削した箇所(深さ:約80cm)に入り作業をしていたところ、突然東側の石垣が崩壊し、下半身が下敷きになった。	418	5	1～ 9
1999	11	11 ～ 12	トラック積載型クレーン(吊り上げ荷重2.93t)のブームを縮めるためラジコン操作を行ったところ、誤ってブームを回転させたため近くに設置してあった枠組足場(2段3スパン)にブームが接触し、足場が倒壊して付近で作業していた1名が足場の下敷きとなった。また足場作業床で作業をしていた1名も足場から墜落して重傷を負った。	411	5	50 ～ 99
1999	11	11 ～ 12	道路の路盤コンクリートをドラグショベルで掘削し、写真撮影のため立ち入った時に突然土砂が崩壊し、埋まった。	711	5	1～ 9
1999	9	15 ～ 16	同僚と2人でドラグ・ショベルのエンジン部分の修理作業を行っていて、同僚がエンジンをかけドラグ・ショベルを後進させたときにドラグ・ショベルのクローラにひかれた。	142	6	1～ 9
1999	10	15 ～ 16	河川改修工事の築堤作業において、タイヤローラーで堤防の上の盛土を締め固めているときに、盛土を運搬してきたダンプトラックがきたので通そうとして路肩に寄り過ぎ2.3m下の田に転落し、その下敷きになった。	144	1	30 ～ 49
1999	10	8 ～ 9	側溝工事(深さ150cm)において、雨に対する養生のため一方の側面に鉄板9枚(重さ700～800kg)を並べて立て掛けて置いていたが作業上そのうちの1枚が邪魔になったので、ドラグショベル(機体重量9.3t)で吊上げたところ、隣の鉄板が倒れ掘削法面と鉄板との間に挟まれた。	521	7	10 ～ 29

1999	10	8	工事現場において、ドラグショベルでトレーラー荷台上から4mの角材4本を降ろす作業中に、吊り上げた角材が触れたためバランスを崩して荷台から1.8m下の側溝に転落した。	221	1	10 ～ 29
1999	10	15	林道開設工事から出た残土を土捨場においてブルドーザーで斜面側に押し出しているときに、土捨場からブルドーザーとともに転落した。	141	1	1～ 9
1999	9	10	育苗土を保管する小屋の屋根の錆止めのため、コールタールを塗っていたところ、傾斜約27度の屋根から約5メートル下の地面に墜落した。	415	1	10 ～ 29
1999	9	8	工事現場に向うためローラーを運転して林道(巾・約4m)を走行中、谷側(右側)に寄りすぎたため路肩から外れて、斜面(勾配・約50度、約8.4m)をローラーと共に転落し下敷となった。	144	1	30 ～ 49
1999	7	16	道路復旧工事現場において、法面のコンクリートブロックの隙間に生コンを流し込むため、ドラグショベルで生コンの入ったホッパーを吊り上げて旋回したところ、フックからワイヤーロープが外れてホッパーが落下し、下にいた者にあたった。	142	4	30 ～ 49
1999	9	15	国道改良工事の法面掘削工事現場において、ドラグショベル(機体重量2.8t)の移動中に路肩が崩れて機体が約2m下に転落した。	141	1	1～ 9
1999	9	7	道路新設工事の土砂採取場において朝礼が終了した後、土砂の掘削及びダンプトラックへの積込みのためドラグショベルを、路肩方向に旋回したところ、ドラグショベルのクローラが横滑りをおこし、路肩部分から約4メートルの法面下まで転落した。	142	1	50 ～ 99
1999	9	8	落石防止擁壁工事において、使用したドラグショベルを約1km先の工事現場に移動させるため、トレーラーの荷台にドラグショベルを積み込む作業中、ドラグショベルが転倒しその下敷きになった。	142	2	30 ～ 49
		14	法面に樹脂製の土留めネットを張る作業を法面中段の小スペースで手伝っ			10

1999	9	15	～	ていたときに、法面上部に移動しようとして、法面上部から約10m下の地上に墜落した。	719	1	～	29
1999	8	17	～	道路築造工事の現場を4tダンプで3台に分乗して帰社途中、交差点の信号機が黄色に変わっていたが2台目のダンプが通過したのでそのまま追走したところ、2台目のダンプに追突しそうになったので急ブレーキをかけながら、急ハンドルを切ったところ、反転して反対側の車線に飛び出し、路肩から田んぼにダンプごと転落した。	221	17	～	29
1999	9	16	～	林道開設工事においてドラグショベルで集めているときに、機械の左側面を通行していた作業員に気づかず機体を右旋回させたため旋回体と機体左側の法面との間に挟んだ。	142	7	1～	9
1999	9	10	～	バイパス情報ボックス設置工事において4tダンプからバックホーで「塩ビ管(直径30センチ、長さ5メートル)」の荷おろし作業中、バックホーのオペレーターが「塩ビ管」と運転席との後壁のあいだに挟まれた。	142	7	1～	9
1999	8	14	～	配水管布設替工事において、幅員が狭い道路でコンバインドローラーを移動していたときに、路肩から転落し、その下敷きになった。	144	1	1～	9
1999	8	13	～	道路横断の排水溝を埋戻した後に埋戻した土砂の上層(土質の悪いもの)をバックホーですき取りダンプに積込み搬出する作業中、すき取り後の地ならしを行っていた者が、旋回したバックホーの右キャタピラにひかれた。	142	7	10	～
1999	8	7	～	作業現場へ向うため会社のライトバンで走行中、前を走行していた自家用トラックが反対車線にはみだして、対向のダンプカーに衝突し、この自家用トラックに追突して路外に転落した。	231	17	～	29
1999	8	14	～	ドラグショベルのバケットでコンクリート管を布設し、埋戻した地面を転圧するため後退させたときに路肩からドラグショベルが側溝に転落し、側溝内で張り芝作業中の者がドラグショベルの下敷きとなった。	142	6	30	～
1999	6	9	～	自社用産業廃棄物処分場の造成工事で、防波堤の築堤を行うためグリ石・砂から成る不安定な地山(高さ約2m)を機体重量2, 5tのドラグ・ショベル上	711	1	30	～

		10	を移動中、頂上付近でバランスを崩して重機ごと地山の反対側へ転落し、重機の下敷となった。			49
1999	8	16 ～ 17	町道の法面が雨で崩壊したことから、これを復旧するため、コンクリートブロックの擁壁用基礎の打設をドラグショベルで行っていたところ、急にバケットが動いたため、後ろの法面とバケットとの間に腰を挟まれた。	142	7	1～ 9
1999	7	14 ～ 15	道路管理として、前日に除草したものの集積運搬及び除草作業をされていて体調の異常をきたして意識障害となり、翌日に死亡した。	715	11	30 ～ 49
1999	7	9 ～ 10	小型移動式クレーン(吊上げ荷重2.93t)で発電機(1.6t)を吊り上げたところ、過荷重の状態になってクレーン車が転倒し、車体左側(助手席側)とガードレールとの間に挟まれた。	212	6	50 ～ 99
1999	3	17 ～ 18	0.7立方メートルのドラグショベルをアンカーにし、0.035立方メートルのドラグショベルを法面で作業させるために2台を連結するワイヤーロープを探していたときに、0.7ショベルの旋回半径内に立入り、その時旋回したためバケットが体に当たった。	142	6	10 ～ 29
1999	7	10 ～ 11	私道の修復工事で、約6度の勾配に停車していた2t積トラックをエンジンを始動せずにギアをニュートラルの状態でも2m前方に移動しようとしたところ、フットブレーキが作動せず走行を制御できない状態となって、トラックの前方約10mの地点で手均しの作業をしていた者に激突した。	221	6	30 ～ 49
1999	5	7 ～ 8	資格取得のため乗用車で向かう途中、対向してきた普通自動車は急にセンターラインを越えて入ってきて正面衝突した。	231	17	10 ～ 29
1999	7	15 ～ 16	4tトラックで残土を上流へ運ぶ途中、路上にある倒木を取り除くため坂道にトラックを止めて降車し倒木を見ていたところ、トラックが坂道を後退し始め、約20メートル後方の側溝内で作業していた者に激突した。	221	17	1～ 9
		14	農道に置いてあったバックホーを移動するため、4トントラックの荷台に載せ、坂道の農道から国道にでようと右折したが雨で地面がぬかるんでいた			1～

1999	6	～	ためタイヤが空回りして進めなくなったので、バックホーに乗り換えてバ	142	1	9
	15		ケットのツメで地面を突いてトラックを押し出したときに、バックホーと			
			ともに地面に転落した。			
1999	4	17	県道で、センターラインを引く作業の交通整理をしていたところ、進行し	231	17	10
		～	てきた普通車にはねられた。			～
		18				29
1999	6	10	路床の深さをチェックするため、歩道側の水系と道路中心側の丁張を見通	141	7	30
		～	ししようとして腹ばいになったとき、歩道部の路床をならしていた3tブル			～
		11	トーザが、後進してきてブルトーザの下敷きとなった。			49
1999	6	1	道路工事現場のガードレールのところにあった石を片づけるため、ドラグ	142	6	30
		～	ショベルのバケットに石を入れようと近づいていったときに、運転手が			～
		2	それに気づかずバケットを動かし、ガードレールとバケットの間に挟まれ			49
			た。			
1999	6	13	駐車していたダンプ車を移動させるため、路床の整正をしていたドラグ	141	7	30
		～	ショベルの後方を通行していたときに、後退してきたドラグショベルにひ			～
		14	かれた。			49
1999	6	13	林道開設に伴う伐木作業中、同僚の伐採した杉が約16m離れた所で枝打ち	712	6	50
		～	作業を行っていた者に当たった。			～
		14				99
1999	2	16	国道拡幅工事において、掘削した法面の小段を緑化する作業で、小段上で	711	1	1～
		～	移動式クレーンで吊り上げられくる荷を誘導中に足を滑らせ、約19メート			9
		17	ル下の国道に転落した。			
1999	1	11	民有林内における作業道開設工事において、単独で90～100年の桧の支障	712	4	10
		～	木の伐採作業を行っていたが帰宅のため集合する予定の時刻になっても作			～
		12	業小屋に帰ってこないのので、現場に捜しに行ったところ倒れていた。			29
1999	5	13	林道の新設工事に伴う地山掘削後の法面の整形作業のため、地山の立木に	711	1	30
		～	親綱を結びつけたのち安全帯を親綱に取り付けようとしたときに、約15			～

		14	メートル下の地面に墜落した。			49
1999	3	9 ～ 10	国道改良工事において、仮設防護柵の支柱であったH形鋼にワイヤーロープを掛けドラグショベルで基礎ごと引き抜いて、地面に立てたところ、その支柱が倒れてきたのでドラグショベル運転席から避難しようと降りたところに支柱が倒れ、H形鋼と地面との間にはさまれた。	142	5	10 ～ 29
1999	3	10 ～ 11	国道の舗装工事のため、デストリビューター(乳剤をまくための装置)を積んだ8トントラックをバックしながら移動中、作業者がいたのに気付かず後輪でひいた。	221	7	10 ～ 29
1999	1	9 ～ 10	道路整備工事において、法面の岩石落下防止用のフェンス張りを行うための準備で、安全帯をフェンスの金網に掛けながら地山を横方向に移動中に約20メートル下の県道に墜落した。	419	1	1～ 9
1999	5	13 ～ 14	国道バイパス工事現場において、移動式クレーンで吊上げた型枠パネルを橋台に取り付けるために、荷の誘導をしていたときに、バランスを崩して高さ約12.65mの足場から地面に墜落した。	411	1	50 ～ 99
1999	5	11 ～ 12	電動ウインチを操作中に、旋回してきたクラムシエルのカウンターウエイトと深礎工のライナープレートとの間に挟まれた。	142	7	30 ～ 49
1999	4	11 ～ 12	ロリップ式の安全帯を使用した状態で法枠にある鉄筋を手動式カッターで切断し、その後別の親綱のある場所へ横に移動中、高さ13.16メートル下の道路に墜落した。	711	1	10 ～ 29
1999	5	10 ～ 11	作業道路新設工事現場において、明かり掘削中の地山を点検するため掘削部上側に登ったときに転倒し、高さ約10m下の路面に転落した。	711	1	10 ～ 29
1999	4	15 ～ 16	林道開設工事現場で、土砂を11tダンプに積んで幅5～6mの道路をバックで運転していき、土砂を下ろしてそのまま前進したときに、車体全体が谷側に傾き、コンクリート擁壁を越えて約8m下の谷に転落した。	221	1	1～ 9
		15	スタビライザーによる地盤改良中に石が詰まりローターが動かなくなった			

1999	4	～ 16	ので、ハンマーで叩いて取り除くため、ローター部に潜り込んで石を取り除いたとき、その反動でローターが少し回転すると同時に石で持ち上げられていたカバーが降下し、ローターとカバーとの間に挟まれた。	141	7	1～ 9
1999	4	～ 16	小型バックホーから身を乗り出したときに、左側間近に停止していた大型バックホーのキャビンのフレーム部分に首を挟まれた。	142	7	10 ～ 29
1999	4	23 ～ 24	土止め支保工の設置工事で、マンホール内に設置された移動はしご上で作業中に、ドラグショベルのバケットと移動はしごとの間に挟まれた。	142	7	10 ～ 29
1999	1	～ 16	砂防工事現場において、高さ8mの既設ダム堰堤上部で切削機の試運転していたときに、誤って堰堤上部から川底に墜落し、同時に落下した切削機が右下腿部を直撃した。	418	1	1～ 9
1999	3	8 ～ 9	工事現場において、ローラー車が池に転落し運転者が水死した。	144	1	0
1999	3	～ 14	13 道路のL型よう壁掘削された溝の近くをセメント袋を持って移動中、溝の中に滑落し、そのとき立てかけてあったバールが腹部に刺さった。	364	1	10 ～ 29
1999	3	～ 10	9 林道新設工事現場において、切取りの終了した法面の上方に設置されていた丁張を撤去する作業中、法面の上方から約8メートル下の林道上に転落した。	711	1	10 ～ 29
1999	3	～ 11	10 不整地運搬車(最大積載量2.5トン)で砂利を運搬中、運転を誤り林道から約5m下に転落し、車外に放り出された。	227	1	1～ 9
1999	3	～ 10	9 ハンガーロープにぶら下がって法面成型作業中、ハンガーロープを寄せるためにロリップを外した時に、約13メートル下へ転落した。	711	1	10 ～ 29

1999	3	16 ～ 17	道路改良工事において、当日の作業が終了したので、ロードローラーを運 転して機械駐車場所に向ってロードローラーを後退させていたときに、運 転席から転落して車体と右後輪との間に頸部を挟まれた。	144	7	10 ～ 29
1999	3	11 ～ 12	道路舗装工事において、ドラグショベルを用いて地ならし作業を行ってい たときに、後進したドラグショベルで補助作業員がをひいた。	142	7	1～ 9
1999	3	11 ～ 12	管渠布設工事のためダンプを運転して資材置場に砂を取りに行き、勾配約8 度の場所にサイドブレーキをかけて停車させ、パワーショベルに乗換えて ダンプに砂を積み込んだのちダンプに乗ろうとしたときに停車させていた ダンプが動き、パワーショベルのカウンターウェイトとダンプの荷台後方 部との間に頭部を挟まれた。	221	7	1～ 9
1999	3	13 ～ 14	側溝敷設工事現場において、ドラグ・ショベルで掘削後の溝に入り角ス コップで床均し作業をしていたときに、傍のコンクリートブロック塀が約 12mにわたり倒れ、その下敷きになった。	418	5	1～ 9
1999	2	9 ～ 10	市道を走行中に32トン積大型トレーラーから落下した機体重量12トンのド ラグショベルに、対向の10トンダンプトラックが衝突した。	221	17	10 ～ 29
1999	2	16 ～ 17	2tダンプトラックで土砂崩壊災害復旧現場の崩壊土砂を約70メートル先の 盛土現場までバックで走行中、運転操作を誤り村道からダンプトラックと 共に転落した。	221	1	1～ 9
1999	1	14 ～ 15	ゲームセンターの入口看板の解体作業の補助をしていて、外部足場の1段目 より歩道上に墜落した。	411	1	10 ～ 29
1999	2	15 ～ 16	首都高速高架橋直下の舗装工事現場において、アスファルト敷設完了箇所 の締め固め作業を行っていた後進中のタイヤローラーの後輪に、アスファル ト端部の型枠取り外し作業に従事していた者がひかれた。	144	7	30 ～ 49
		10	タイヤローラーの散布水を補給するためタイヤローラーに乗って前進させ			30

1999	2	～ 11	たときに、休憩道具の後片付けを行っていた者を前輪でひいた。	144	7	～ 49
1999	2	10 ～ 11	道路の法面崩落復旧工事現場において、二人で法の丁張を設置していた際、現場上部の道路でドラグショベルで土砂を積み込んでいた2t積みダンプロックが坂道のため無人のまま動き出し、約10m自走後路肩より転落してきたため、二人がその下敷きとなった。	221	4	10 ～ 29
1999	2	10 ～ 11	道路の法面崩落復旧工事現場において、二人で法の丁張を設置していた際、現場上部の道路でドラグショベルで土砂を積み込んでいた2t積みダンプロックが坂道のため無人のまま動き出し、約10m自走後路肩より転落してきたため、二人がその下敷きとなった。	221	4	10 ～ 29
1999	1	10 ～ 11	ドラグ・ショベルで仮設資材の敷鉄板1枚をつり上げて、左側方へ旋回中にドラグ・ショベルが横転し、ドラグ・ショベルヘッドガードと地面との間に頭部をはさまれた。	142	2	1～ 9
1999	1	13 ～ 14	林道開設工事現場において、ウッドブロックを積む作業をしていたときに、法面が高さ約10メートルにわたり崩れ下敷きとなった。	711	5	30 ～ 49
1999	1	16 ～ 17	ドラグショベルで敷鋼板を吊り上げ、積載型トラッククレーン（4t）の荷台へ積み込む作業のため後部で玉掛の補助をしていたときに、敷鋼板が荷台に載せた際のショックで玉掛用具から外れ荷台から地上へ落下して、頭部に激突した。	372	4	100 ～ 299
1999	1	11 ～ 12	道路新設工事現場で、側溝のふた4個をバックホーで吊り上げて左旋回したところ、バックホーが横転しその下敷きになった	142	2	10 ～ 29
1999	1	15 ～ 16	ドラグショベルを50M下に移動させるため、平均斜度35度の斜面を足がかりを作りながら自力で下方に移動中に約30m下に転落、バケットの下敷きとなった。	142	1	1～ 9

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_30.htmlに戻る。